

2023  
年 報

ANNUAL REPORT of  
SEIREI YOKOHAMA HOSPITAL



社会福祉法人 聖隷福祉事業団



聖隷横浜病院  
SEIREI YOKOHAMA HOSPITAL



# 2023 年度聖隷横浜病院年報

Seirei Yokohama Hospital

## ANNUAL REPORT 2023

### 【病院理念】

私たちは、隣人愛の精神のもと、  
安全で良質な医療を提供し、地域に貢献し続けます

# 目次

2023年度年報発行にあたって	1	検査課	82
聖隷横浜病院	2	栄養課	83
病院沿革	4	リハビリテーション課	84
現況	6	臨床工学室	85
施設基準	7	放射線課	86
施設配置図	8	事務部	87
主な器械備品	9	医師臨床研修委員会	88
組織図	10	医療ガス設備安全委員会	89
委員会・運営会議	11	衛生委員会	90
医師職員数内訳	12	栄養委員会	91
職員別・区分別職員数	12	化学療法委員会	92
病棟構成	13	感染対策委員会	93
病院統計	14	緩和ケア委員会	94
地域連携・患者支援センター	28	救急委員会	95
医療の質管理室	30	クリニカルパス委員会	96
診療支援室	32	血液浄化センター委員会	97
腎臓・高血圧内科	33	研修委員会	98
アレルギー内科	34	減免・無料低額診療委員会	99
呼吸器内科	36	広報委員会	99
消化器内科	37	購入委員会	100
内分泌・糖尿病内科	38	呼吸ケアサポートチーム (RST)	101
膠原病・リウマチ内科	39	NST委員会	102
心血管センター内科・心血管センター外科	40	褥瘡対策委員会	103
脳血管内治療科・脳神経外科	41	役割分担推進委員会	104
外科・消化器外科	42	個人情報管理委員会	105
乳腺科 (乳腺センター)	43	診療情報管理委員会	106
呼吸器外科	44	図書委員会	107
整形外科	45	診療報酬適正化委員会	107
関節外科	46	接遇委員会	108
泌尿器科	47	病院安全管理委員会	109
麻酔科・ペインクリニック・緩和ケア	48	防災委員会	110
小児科	50	安全運転委員会	110
眼科	51	薬事 (治験) 委員会	111
放射線診断科	52	輸血療法委員会	112
救急科 (ER) / キズ・やけど外来	54	臨床検査適正化委員会	113
漢方科	56	倫理・臨床研究審査委員会	114
リハビリテーション科	57	特定行為管理委員会	115
病理診断科	58	外来運営会議	116
総合診療科	60	手術室運営委員会	117
ドック・健診科	61	セーフティマネージャー運営会議	118
看護管理室	62	糖尿病療養運営会議	118
血液浄化センター看護室	63	ボランティア運営会議	119
手術室・中央材料室	64	リハビリテーション課運営会議	119
外来	65	ドック・健診室運営会議	120
画像診断・内視鏡センター看護室	66	地域連携・患者支援センター運営会議	120
B3病棟	67	病床管理センター	121
東1病棟 (回復期リハビリテーション病棟)	68	内視鏡センター運営委員会	122
東2病棟	69	脳血管センター運営会議	123
東3病棟	70	膠原病・リウマチ内科運営会議	124
東4病棟	71	乳腺センター運営会議	125
西1病棟	72	緩和ケア病棟運営委員会	126
西2病棟	73	情報システム運営会議	127
西3病棟	74	医師・医療従事者の働き方改革プロジェクト	128
急性期ケアユニット	75	教育・症例検討・講演会実績・市民公開講座	129
脳卒中ケアユニット	76	2023年度 学術業績 講演会・学会発表	130
看護相談室	77	2023年度 学術業績 その他 (院外活動など)	144
せいいい訪問看護ステーション横浜	78	2023年度 学術業績 著書論文	149
薬剤課	81	第21回 聖隷横浜病院 病院学会	151

## 2023年度年報発行にあたって

聖隷横浜病院 病院長 大内 基史

2022年10月に病院長となり、就任以来『みんなで作る聖隷横浜』をスローガンに病院の運営に当たってきました。日々の事柄は毎朝の幹部会議に意見を集約し検討、委員会からの報告は管理会議に集約し検討する形が出来上がりました。

2023年度はコロナ禍での診療が4年目となりました。5月には感染症予防法5類に分類され、国内の隔離政策にも大きな変化がありましたが、病院内では感染しやすい患者が多数入院治療、通院をしていますので隔離を続けています。2023年度もコロナウイルス感染の波が少なくとも2回襲ってきており、都度対応をしてきています。院内では隔離病棟は閉鎖し、5月以降は各病棟の個室で対応するようになり対処出来ています。またワクチン接種も積極的に行ない市民接種、職域接種、基礎疾患を有する利用者だけでなく、接種の範囲を拡大して継続的に実施しました。

この4年間のコロナ禍で培った事として一番の収穫は、職員が一丸となって感染対応してきたことと思っております。『一丸となった団結力』は、今後も病院運営上も生かされ続けるため職員一同日々業務に励んでおります。

加えて、2023年度は診療科の特徴に応じた指標と行動計画を各診療科毎に策定し、収支の成果計算を取り入れて評価し各診療部長へも情報の共有しています。また機会を見てその成果計算の達成度合いを定期的にチェックし、具体的な指標を確実に実現できるように診療部だけでなく多部門を巻き込んで協働で取り組みをしています。新たな診療科として総合診療科ができ、救急科との協力体制が構築されました。特に高齢者救急の対応が進み、救急科が入院初期対応しその後総合診療科や新たに作った内科が請け負う体制ができました。当地域では75歳以上人口が増加して行くので、高齢者救急が更に増加する体制が作られたと考えられます。

今後の病院の経営基盤の体制強化のため、ドック・健診事業を拡大して利用者が確実に増えてきています。更に機能別に急性期ケアユニット、脳卒中ケアユニット、回復期リハビリテーション病棟、緩和ケア病棟、地域包括ケア病棟も高稼働を維持できました。

2023年度は未だ新型コロナ感染にかなり振り回された年度となりましたが、更なる職員の団結力の維持に努めて参りました。

本年報を当院の成長の経過記録としてご覧いただければ幸いです。

## 聖隷横浜病院

2023年度は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行した。日常診療の中で感染症対策を行いながら地域完結型医療を推進するケアミックス型の病院として、保健事業の充実、病病・病診連携、横浜市内救急隊などの行政と連携強化を行い地域貢献に努めた。保健事業については、関連施設の健診やドックの推奨を行った。また、地域住民への積極的な健診案内をおこない利用者を獲得し収益予算を達成した。病病・病診連携については、地域に開かれ・顔の見える医療機関として、診療部長が積極的に開業医へ往訪し、顔の見える関係を築く中で紹介数が過去最高となった。また、256スライスのDual Energy CTを導入し、他施設との差別化を図り、検査目的の紹介を積極的に受け入れた。救急体制についても、地域の救急医療体制を支えるために、輪番日を週2回と固定することにより、整形外科を含めた疾患に対応できる体制を確立した。また、総合診療科・漢方科を充実させ、より多くの疾患に対応できる診療体制の構築を行った。入院治療については、病床管理センターを充実させ、入退院を管理することで入院患者数も過去最高となった。

病院長の「みんなで作る聖隷横浜」を合言葉に、今年度から診療部へ成果計算の資料を提示し、診療科毎に議論し、進むべき道を各診療科と共有する取り組みも行った。経営的には依然として厳しい状況ではあるが、病院一丸となって前に進む体制の構築ができた。

次年度も全職員の努力と取り組みに感謝するとともに、更なる質の高い医療サービスの提供を心がけて、地域から愛され続ける病院づくりを継続していく。

### 1. 安全で良質な医療の提供

#### (ア)医療安全管理体制および感染管理体制の充実

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したのに併せて対策を緩和し、可能な限り患者が希望する診療体制を確立した。

#### (イ)救急診療体制の充実

横浜市内の救急隊向けの勉強会である救急フォーラムの開催や救急隊への訪問活動などを継続的に実施し、救急車受入れ応需率向上に向けて病院全体で取り組み、4,484件（目標:4,500件）の救急搬送を受け入れた。また、輪番日を固定かつ整形外科医を配置する事で近隣病院との差別化を図った。

#### (ウ)外来診療科体制の充実

内科当番制ならびに非常勤医師で運用していた総合診療科に常勤医師を招聘し内科診療の安定性を図った。

#### (エ)ドック・健診事業の充実

企業健診（協会けんぽ）の人間ドック受け入れ強化を実施し昨年度比128.3%の成果となった。また病院利用者へのドック・健診の推奨を診療部と連携し利用者獲得を実施した。

#### (オ)病院機能評価の認定更新

2023年12月に病院機能評価 Ver.3.0を受審し認定され更新となった。

## 2. 地域包括ケアシステムの推進

### (ア)地域完結型医療の実践

ケアミックス病院として各機能病床の安定化を図ったが目標の90%には達しなかった。(回復期リハビリテーション病棟82.8%・緩和ケア病棟82.4%・地域包括ケア病棟83.3%) 次年度診療報酬改定に合わせて引き続き円滑な病棟運用を構築したい。

### (ウ)地域連携及び広報活動の強化

紹介状に対する即日返信を推進し、即日返信率99.7%を達成した。また、病院長をはじめ各診療科医師と協働でクリニック訪問を行った。これらの取り組みにより、病・診連携強化を図り、紹介件数は10,071件(目標:10,200件)となった。併せて、保土ヶ谷消防署と連携し市民公開講座を行うなど行政との連携強化も実施した。

## 3. 多様な人材確保と育成

耳鼻科医師の常勤医師が不在となるため各医局と交渉を実施し非常勤医師確保に努めた。2024年度内の常勤医師派遣にむけて連携していく。

## 4. 資源を最大限に活用した健全な経営の実践

診療部と協働で各科の診療の特性(処置・検査など)の分析結果を報告し診療方針改革の取り組みを推進した。人件費率は58.9%(目標:58.0%)と予算未達となった。医師一人当たりの入院患者人数増の推奨、外来人数の確保などを継続し生産性を強化していきたい。手術室運用の実態調査を行い、問題提起を行い、効率的な運用の構築を検討した。結果手術件数は1,820件(目標:2,000件)となった。耳鼻科手術の撤退が大きく影響したと思われる。

## 5. 最適な環境づくりの推進

2024年4月に施行される働き方改革関連法の施行に向けてプロジェクトを立ち上げ、宿日直許を取得した。併せて医師への啓発を実施し勤務変更を促した。インフラ(電子カルテ)の円滑な更新にむけて準備を行った。

### <地域における公益的な取り組み>

低所得者に対し広く事業を実施し、国が定める基準11.5%であった。

### 【数値実績】

	予算	実績	対予算	対前年
外来患者数	600名	563名	93.9 %	97.4 %
外来単価	17,300円	18,560円	107.3 %	107.3 %
入院患者数	310名	306名	98.8 %	103.1 %
入院単価	56,800円	56,243円	99.0 %	99.1 %
病床稼働率	84.5 %	83.5 %	98.8 %	103.1 %
職員数	701.3名	692.2名	98.7 %	100.3 %

## 病 院 沿 革

- 2003年（平成15年） 3月 国立横浜東病院から経営移譲を受け「社会福祉法人聖隷福祉事業団聖隷横浜病院」開院  
井澤豊春初代病院長 就任  
診療科：内科、外科、整形外科、泌尿器科、小児科、脳神経外科、産婦人科（2014年閉科）、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、麻酔科、精神科（2007年閉科）  
医療法開設許可病床 350床（一般病床300床・療養病床50床）  
稼働病床 一般病床150床（東2、東3、東4病棟）  
4月 稼働病床 一般病床200床（東3、東4、西2、西3病棟）  
8月 1.5T-MRI導入  
9月 内科を総合診療内科、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、腎臓・高血圧内科に専門分化  
12月 血液浄化センター開設
- 2004年（平成16年） 4月 医師臨床研修制度開始  
稼働病床 一般病床250床（西1病棟開棟）  
8月 看護師宿舎「フェリーチェせいれい」（地上4階、30部屋）新設  
10月 内分泌・糖尿病内科開設
- 2005年（平成17年） 1月 オーダリングシステム導入  
横浜市二次救急輪番病院参加
- 2006年（平成18年） 2月 64列マルチスライスCT装置導入  
6月 一般病棟入院基本料7：1取得  
8月 療養病床50床返還
- 2007年（平成19年） 4月 岩崎滋樹第二代病院長就任、井澤豊春名誉院長就任  
内視鏡センター開設  
7月 医師ジョブシェア制度導入  
9月 血液内科開設（2010年閉科）  
10月 耳センター開設
- 2008年（平成20年） 3月 院内保育施設「ひだまり保育園」開設  
4月 消化器外科開設  
7月 DPC制度導入  
呼吸器外科開設  
10月 脳血管内治療科（2012年閉科）  
周産期科開設（2010閉科）  
臨床検査科開設  
稼働病床 一般病床276床（東2病棟開棟）  
12月 日本医療機能評価機構「病院機能評価Ver.5.0」認定
- 2009年（平成21年） 7月 病理診断科開設  
5月 横浜市の要請により「新型インフルエンザ発熱外来」設置
- 2010年（平成22年） 4月 形成外科開設（2012年閉科）  
横浜市二次救急拠点病院事業参加（横浜市二次救急拠点病院B）  
横浜市脳血管疾患救急医療体制参加医療機関  
横浜市外傷（整形外科）救急医療体制参加医療機関  
10月 256スライスCT導入  
稼働病床数 一般病床300床  
11月 日本経済新聞社主催「2010年につけい子育て支援大賞」受賞

● 概要・統計 ●

- 2011年（平成23年） 5月 横浜市の要請により、東日本大震災被災地に医師、看護師派遣  
10月 神奈川県主催「第5回かながわ子ども・子育て支援大賞」受賞  
12月 病院ボランティア活動開始
- 2012年（平成24年） 2月 横浜市心疾患救急医療体制参加  
4月 脳卒中科（脳血管内治療科閉科）  
リハビリテーション科開設
- 2013年（平成25年） 3月 サポートドクター制度導入  
4月 NPO法人卒後臨床研修評価機構 認定病院  
12月 日本医療機能評価機構 病院機能評価 「一般病院2 機能種別別版評価項目  
3rdG：ver.1.0」認定
- 2014年（平成26年） 6月 3.0T-MRI更新  
10月 せいい訪問看護ステーション横浜を聖隷横浜病院へ事業移管
- 2015年（平成27年） 1月 林泰広第三代病院長就任  
4月 形成外科、心臓血管センター内科開設  
5月 地域包括ケア病棟開設（東4病棟51床）
- 2016年（平成28年） 1月 リウマチ・膠原病センター 開設  
脳血管センター 開設  
4月 画像・診断センター 開設  
心臓血管外科開設  
横浜市営バス「聖隷横浜病院循環」運行開始  
6月 新外来棟建築工事 起工式
- 2017年（平成29年） 2月 NPO法人卒後臨床研修評価機構 認定病院  
4月 ドック・健診室 開設  
5月 電子カルテシステム 導入・稼働開始  
7月 ハイケアユニット（HCU）開設（8床）
- 2018年（平成30年度） 4月 乳腺センター開設  
8月 脳卒中ケアユニット（SCU）開設（6床）
- 2019年（令和元年） 7月 A棟（新外来棟）外来診療開始
- 2020年（令和2年） 2月 横浜市病院輪番制  
7月 東1病棟開設 一般病床338床稼働  
8月 B3病棟開設 一般病床358床稼働 回復期リハビリテーション病棟入院料6取得  
9月 緩和ケア病棟入院料2取得
- 2021年（令和3年） 1月 回復期リハビリテーション病棟入院料3取得  
3月 地域包括ケア病棟60床に増床 一般病床367床稼働  
4月 アレルギー内科開設  
5月 回復期リハビリテーション病棟入院料1取得  
10月 脳卒中ケアユニット（SCU）9床に増床
- 2022年（令和4年） 4月 心臓血管センター開設  
リウマチ・膠原病センターから「膠原病・リウマチセンター」へ名称変更  
リウマチ・膠原病内科から「膠原病・リウマチ内科」へ名称変更  
10月 大内基史第四代病院長就任  
12月 X線TV装置更新
- 2023年（令和5年） 3月 64列CT更新  
4月 漢方科、呼吸器内科 間質性肺炎外来 開設  
12月 256スライスDual Energy CT導入

## 現況

2024年4月1日現在

<b>開設者</b>	社会福祉法人 聖隷福祉事業団
<b>病院名</b>	聖隷横浜病院
<b>所在地</b>	〒240-8521 神奈川県横浜市保土ヶ谷区岩井町215 TEL (045) 715-3111 FAX (045) 715-3387
<b>開院日</b>	2003年3月1日
<b>理事長</b>	青木 善治
<b>病院長</b>	大内 基史
<b>副院長</b>	野澤 聡志 芦田 和博
<b>院長補佐</b>	波多野 孝史 平野 進 永井 啓之
<b>総看護部長</b>	兼子 友里
<b>事務長</b>	山本 功二
<b>病院事業</b>	無料低額診療施設事業
<b>病床数</b>	許可病床(367床：一般)、 稼動病床(367床：一般、急性期ケアユニット、脳卒中ケアユニット、回復期リハビリテーション病棟、緩和ケア病棟地域包括ケア病棟含む)
<b>常勤職員</b>	668名(2024年4月1日時点)
<b>認定施設</b>	保険医療機関 労災保険指定医療機関 結核指定医療機関 生活保護法指定医療機関 被爆者一般疾病指定医療機関 更生医療指定医療機関 育成医療指定医療機関 母子保健法指定養育医療機関 特定疾患治療取扱病院 臨床研修病院(基幹型) 公害医療指定医療機関 救急告示病院 小児慢性医療指定医療病院 労災保険二次健診等給付医療機関 DPC対象病院 外来対応医療機関(神奈川県) 新型コロナウイルス感染症 重点医療機関協力病院(最大8床)(神奈川モデル医療機関)
<b>学会認定</b>	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会関連施設 日本消化器学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本大腸肛門病学会関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本呼吸器学会関連施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設認定施設

日本外科学会外科専門医制度修練施設  
日本脳神経血管内治療学会研修施設  
脳神経外科学会認定施設  
脳卒中学会認定施設  
一次脳卒中センター(PSC)認定施設  
日本整形外科学会専門医制度研修施設  
日本眼科学会専門医制度研修施設  
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設  
日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関  
日本麻酔科学会麻酔科認定病院  
日本救急医学会救急科専門医指定施設  
日本病理学会研修認定施設B  
日本がん治療認定医機構認定研修施設  
特定施設非営利活動法人卒後臨床研修評価機構認定  
日本栄養療法推進協議会NST稼働施設認定  
日本静脈結腸栄養学会NST稼働施設認定  
マンモグラフィ検診施設画像認定施設  
日本認知症学会教育施設  
日本乳癌学会関連施設  
National Clinical Database  
日本病院総合診療医学認定施設  
日本診療放射線技師会医療被ばく低減施設認定  
日本脊椎脊髄病学会椎間板酵素注入療法実施可能施設認定  
日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設認定  
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構規則規定 関連施設  
日本専門医機構 専門研修基幹施設(内科領域)

## 標榜科目

内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、  
内分泌・糖尿病内科、皮膚科、アレルギー科、リウマチ科、  
小児科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、乳腺外科、  
泌尿器科、脳神経外科、整形外科、形成外科、眼科、  
耳鼻咽喉科、婦人科、漢方内科、リハビリテーション科、  
放射線診断科、麻酔科、ペインクリニック外科、病理診断科、  
臨床検査科、救急科、神経内科(計30科)

## 診療科目

総合内科、呼吸器内科、消化器内科、腎臓・高血圧内科、  
内分泌・糖尿病内科、心臓血管センター内科、  
心臓血管センター外科、膠原病・リウマチ内科、  
アレルギー内科、小児科、外科、呼吸器外科、消化器外科、  
脳神経外科、脳血管内治療科、整形外科、関節外科、  
形成外科、乳腺科、麻酔科(ペインクリニック)、  
耳鼻咽喉科、婦人科、漢方内科、眼科、皮膚科、泌尿器科、  
総合診療科、救急科、放射線診断科、リハビリテーション科、  
臨床検査科、病理診断科、ドック・健診科、神経内科  
(計34科)

## 救急医療

横浜市病院輪番制  
横浜市脳血管疾患救急医療体制参加医療機関  
横浜市外傷(整形外科)救急医療体制参加医療機関  
横浜市急性心疾患救急医療体制参加医療機関

## 災害医療 神奈川県災害協力病院

# 施設基準

2024年4月1日現在

## ○基本診療料

### 初再診料

情報通信機器を用いた診療に係る基準  
医療情報・システム基盤整備体制充実加算  
(初診注15)  
医療情報・システム基盤整備体制充実加算  
(外来診療料注10)

### 入院基本料

#### 入院基本料加算

急性期一般入院料1  
臨床研修病院入院診療加算(基幹型)  
救急医療管理加算  
超急性期脳卒中加算  
診療録管理体制加算1  
医師事務作業補助体制加算2 15対1  
50対1急性期看護補助体制加算  
50対1急性期看護補助体制加算 急性期看護補助  
体制充実加算  
看護職員夜間12対1配置加算1  
療養環境加算  
重症者等療養環境特別加算  
栄養サポートチーム加算  
医療安全対策加算1  
医療安全対策地域連携加算1  
感染対策向上加算1  
褥瘡ハイリスク患者ケア加算  
呼吸ケアチーム加算  
術後疼痛管理チーム加算  
後発医薬品使用体制加算1(注)経過措置  
病棟薬剤業務実施加算1  
病棟薬剤業務実施加算2  
データ提出加算2  
データ提出加算4  
入退院支援加算1  
入退院支援加算 入院時支援加算  
認知症ケア加算2  
せん妄ハイリスク患者ケア加算  
排尿自立支援加算  
緩和ケア病棟入院料2  
看護職員処遇改善評価料48  
地域医療体制確保加算  
ハイケアユニット入院医療管理料1  
脳卒中ケアユニット入院医療管理料  
脳卒中ケアユニット入院医療管理料注3  
早期栄養介入管理加算  
回復期リハビリテーション病棟入院料1  
地域包括ケア病棟入院料2  
地域包括ケア\_注3 看護職員配置加算  
地域包括ケア\_注4 看護補助体制充実加算

### 特定入院料

## ○入院時食事療養

### 食事療養

緩和ケア病棟入院料2  
入院時食事療養I・入院時生活療養I

## ○特掲診療料

### 医学管理等

外来栄養食事指導料注2  
心臓ペースメーカー指導管理料 遠隔モニタリング加算  
高度難聴指導管理料  
糖尿病合併症管理料  
がん性疼痛緩和指導管理料  
がん患者指導管理料イ  
がん患者指導管理料ロ  
がん患者指導管理料ニ  
糖尿病透析予防指導管理料  
二次性骨折予防継続管理料1  
二次性骨折予防継続管理料2  
二次性骨折予防継続管理料3  
アレルギー性鼻炎免疫療法治療管理料  
下肢創傷処置管理料  
小児科外来診療料  
院内トリアージ実施料  
夜間休日救急搬送医学管理料  
救急搬送看護体制加算1  
外来腫瘍化学療法診療料1  
連携充実加算  
ニコチン依存症管理料  
がん治療連携指導料  
外来排尿自立指導料  
薬剤管理指導料

### 在宅医療

医療機器安全管理料1  
在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者  
訪問看護・指導料  
在宅腫瘍治療電場療法指導管理料

### 検査

遺伝学的検査  
BRCA1/2遺伝子検査  
検体検査管理加算(I)・(II)  
遺伝カウンセリング加算  
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検  
査加算  
植込型心電図検査  
時間内歩行試験  
ヘッドアップティルト試験  
神経学的検査  
小児食物アレルギー負荷検査  
センチネルリンパ節生検片側(2単独法)

### 画像診断

CT透視下気管支鏡検査加算  
画像診断管理加算2  
CT撮影(64列以上マルチスライス)  
MRI撮影(3テスラ以上)  
冠動脈CT撮影加算  
大腸CT撮影加算  
心臓MRI撮影加算  
乳房MRI撮影加算

### 投薬

抗悪性腫瘍剤処方管理加算  
一般名処方加算(注9)経過措置

### 注射

外来化学療法加算1

### リハビリテーション

無菌製剤処置料  
心大血管疾患リハビリテーション料(I)  
脳血管疾患等リハビリテーション料(I)  
廃用症候群リハビリテーション料(I)  
運動器リハビリテーション料(I)  
呼吸器リハビリテーション料(I)  
リハビリテーション初期加算  
がん患者リハビリテーション料

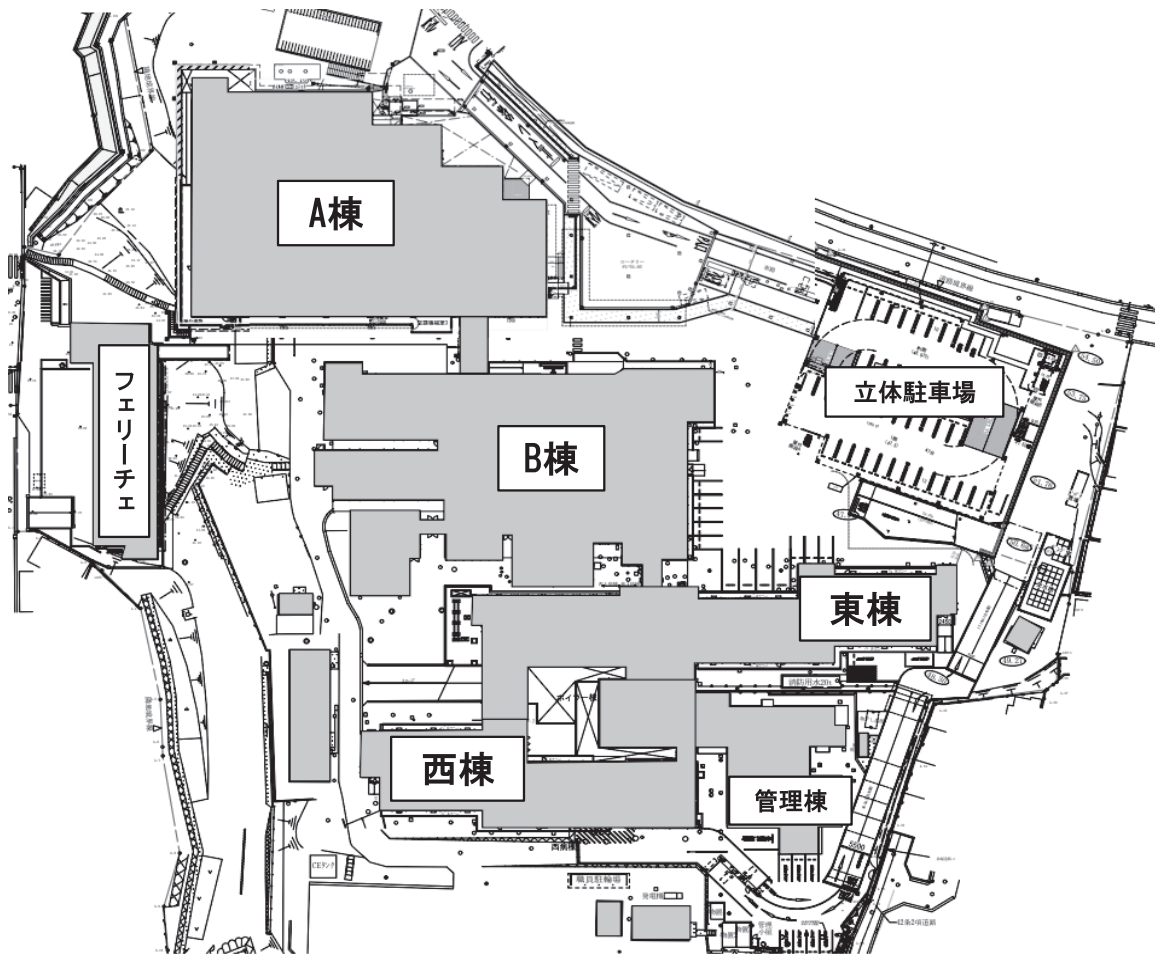
### 処置

静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)  
人工腎臓1

### 手術

人工腎臓 導入期加算1  
下肢抹消動脈疾患指導管理加算  
組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)  
の場合に限る。)  
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非  
生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。))  
椎間板内酵素注入療法  
脊髄刺激装置植込術又は脊髄刺激装置交換術  
乳がんセンチネルリンパ節加算1  
乳がんセンチネルリンパ節加算2  
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切  
除後)  
内視鏡による縫合術・閉鎖術  
経皮的冠動脈形成術  
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)  
経皮的冠動脈ステント留置術  
ペースメーカー移植術、ペースメーカー交換術  
植込型心電図記録計移植術  
植込型心電図記録計摘出術  
大動脈バルーンパンピング法(IABP法)  
経皮的下肢動脈形成術  
内視鏡的逆流防止粘膜切除術  
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術  
医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6に  
掲げる手術  
手術の通則の16に掲げる手術(胃瘻造)  
手術の通則の19に掲げる手術  
(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術)  
輸血管管理料II  
輸血適正使用加算  
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算  
胃瘻造設時嚥下機能評価加算  
胃瘻造設時嚥下機能評価加算  
麻酔管理料(I)  
麻酔管理料(II)  
病理診断  
病理診断管理加算1  
悪性腫瘍病理組織標本加算

# 施設配置図



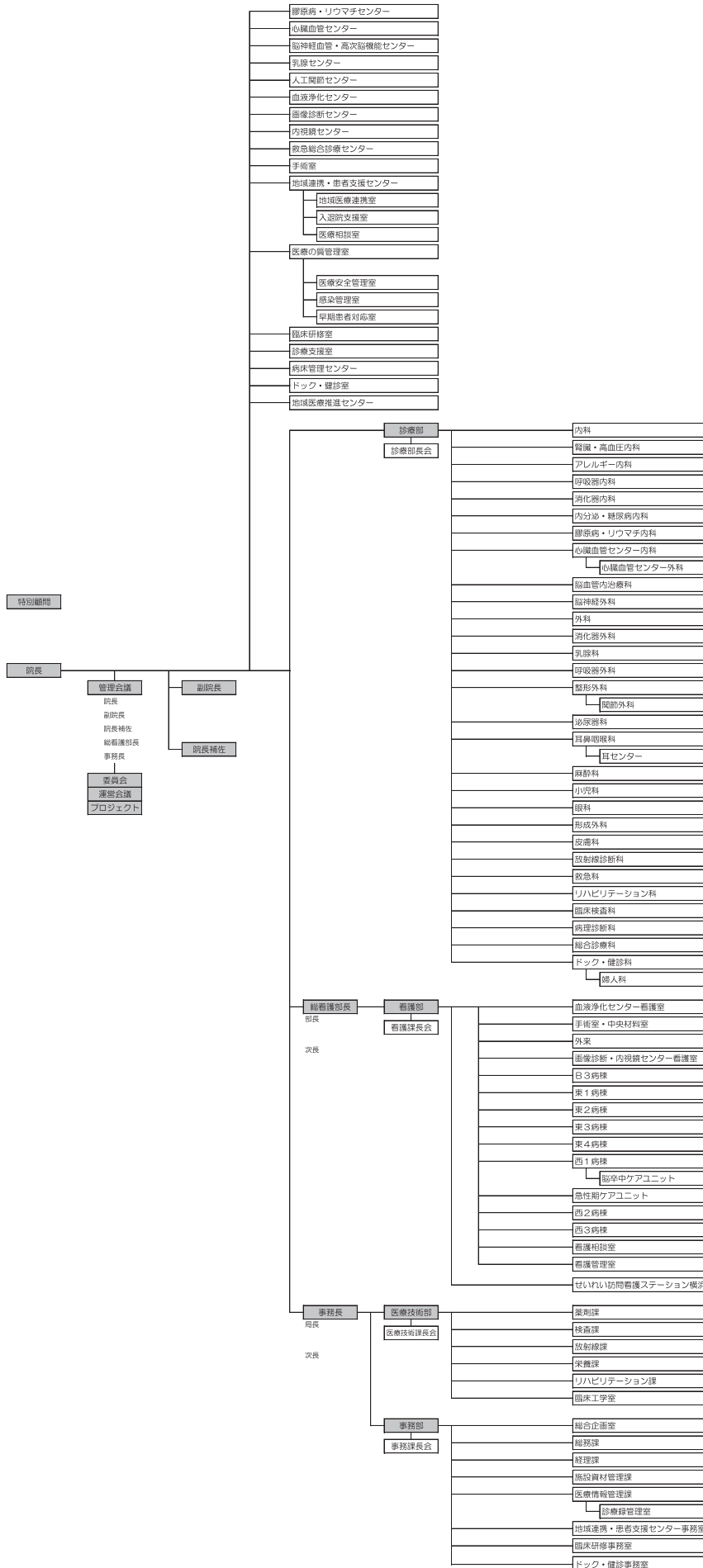
4F	血液浄化センター 医局 研修医室 大会議室		東4病棟 地域包括ケア病棟			事務長室 総務課 経理課 総合企画室
3F	外来 検査課 化学療法室 ドック・健診室	B3病棟 緩和ケア病棟	東3病棟	西3病棟		
2F	正面受付 外来 地域連携 ・患者支援センター 中央採血室	薬剤部 リハビリテーション課 医療情報管理課 売店	東2病棟	西2病棟		せいいい訪問看護 ステーション
1F	救急室 画像診断センター 内視鏡センター	MRI・CT	東1病棟 回復期 リハビリテーション病棟	西1病棟 急性期ケアユニット 脳卒中ケアユニット		ひだまり保育園
B1F	手術室・中央材料室 病理診断科		栄養課	霊安室・解剖室	総看護部長室 看護部管理室 医療安全管理室 臨床工学室 施設資材管理課	
	A棟	B棟	東棟	西棟	管理棟	フェリーチェ棟

## 主 な 器 械 備 品

機器名	数	メーカー名	機種名
MRI	2	フィリップス	Ingenia 3.0T、Ingenia Elition 3.0T
160列超高精細マルチスライスCT	1	キャノン	Aquilion Precision
128列256マルチスライスCT	1	フィリップス	SpectralCT7500
64列マルチスライスCT	1	フィリップス	IncisiveCT
乳房X線装置	2	キャノン、シーメンス	PeruruDIGITAL、MAMMOMAT Revelation
FPDシステム	1	コニカ	AeroDR
X線TVシステム	2	島津、キャノン	SONIALVISION G4、Ultimax-i
血管撮影装置	2	フィリップス	AlluraClarity FD10、FD20/15
X線撮影装置	3	島津	RADSPEED PRO
移動式X線撮影装置	3	シーメンス、島津	MOBILETT XP Hybrid、Mobile Art Evolution
外科用X線撮影装置	2	シーメンス、GE	Cios Select、OEC One CFD
超音波診断装置	11	キャノン	Xario、Aplio400、Aplio500、Aplio a Verifia
超音波診断装置	5	GE	LOGIQ P9、Versana Active、Venue50、VscanExtend
超音波診断装置	3	富士フイルム、フィリップス	ARIETTA 65LE、iVizAir、CX50
生化学自動分析装置	2	ベックマン・コールター	AU5810、DxC700 AU
全自動尿中有形成分分析装置	1	シスメックス	UF-1000i
多項目自動血球分析装置	1	シスメックス	XR-1500
全自動血液凝固測定装置	1	シスメックス	CN-3000
血液ガス分析装置	2	シーメンス	RAPIDPOINT500
全自動輸血検査システム	1	オーソ	オーソビジョン
自動染色装置	1	ロシュ	ベンタナ ベンチマーク ULTRA
脳波計	1	日本光電	NeurofaxEEG-1250
筋電図計	1	日本光電	Neuropack S3
心電計	8	日本光電、フクダ電子	ECG-2550、ECG-2450、FCP-8600
睡眠ポリグラフィ装置	1	日本光電	PSG-1100
血圧脈波検査装置	2	フクダコーリン	BP-203RPE III
肺運動負荷モニタリングシステム	1	ミナト医科学	エアロモニタ AE-310S
肺運動負荷試験用エルゴメータ	1	三菱	ストレングスエルゴ8V2
外科手術用内視鏡システム	3	オリンパス	VISERA、VISERA ELITE II、VISERA ELITE III
耳鼻咽喉科内視鏡システム	1	オリンパス	VISERA
耳鼻咽喉科NBI内視鏡システム	1	オリンパス	VISERA ELITE
消化器内視鏡システム	3	オリンパス	EVIS X1、EVIS LUCERA ELITE
超音波手術装置	3	オリンパス、ストライカー	USG400、ソノベット IQ
手術用顕微鏡	3	カールツァイス、ライカ	OPMI PENTERO900、M844-F40、M525-OH4
炭酸ガスレーザー	1	モリタ製作所	レザウインII
白内障手術装置	1	アルコン	センチュリオンビジョンシステム
高周波手術装置	12	アムコ、メドトロニック、オリンパス	VI03、Valley lab FT10、ESG-400、ICC-200・300、CMC-V 他
マイクロ波手術装置	1	アルフレッサファーマ	マイクロターゼ AZM-550
高周波熱凝固装置	1	トップ	TLG-20
成人用人工呼吸器	8	ドレーゲル、レスメド	Evita V300、V600、アストラル150、AirCurveTJ
搬送用人工呼吸器	4	日本光電、ドレーゲル、スミスメディカル	HAMILTON-C1、Oxylog 3000 プラス、パラパックプラス
臨床用ポリグラフ	2	日本光電	RMC-5000
人工腎臓（透析）装置	21	日機装、JMS	DCG-03、DBG-03、DBB-100NX、DCS-100NX、GC-110N
血液浄化装置	1	川澄化学	KM-9000
多人数用透析液供給装置	1	日機装	DAB-30NX
透析液溶解装置	2	東亜 DKK	AHI-502、BHI-502
逆浸透圧精製水製造装置	2	日機装、ダイセンメンブレン	DRO-NX、VCR-20
体外式ペースメーカー	4	バイオトロニック	REOCOR S
除細動器	12	フィジオ、フクダ電子、フィリップス	LP20e、DFM100、ハートスタート MRx
経皮の心肺補助装置	2	テルモ	キャピオックス遠心ポンプコントローラー SP-200
大動脈内バルーンポンプ	1	ゼオン	ZUIRYU
3次元眼底像撮影装置	1	トプコン	DRI OCT Triton
眼軸長測定装置	1	カールツァイス	IOL マスター700
高圧蒸気滅菌器	3	三浦工業	RX-32FVW、RH-16EHW
低温プラズマ滅菌器	1	ジョンソン&ジョンソン	STERRAD100NX
無侵襲混合血酸素飽和度監視システム	2	メドトロニック	INVOS 5100C
ナビゲーションシステム	1	メドトロニック	ステルスステーション S7
術中神経モニタリング装置	1	日本光電	ニューロマスターG1
近赤外線治療器	1	東京医研	スーパーライザーPX
血管内焼灼用高周波治療器	1	コヴィディエン	ClosureRFG

# 組織図

2024年4月1日現在



## 委員会・運営会議

2023年4月1日付（順不同）

委員会名称	開催日	構成人数				
		診療部	看護部 訪問看護	医療技術部	事務部	外部・顧問
管理会議	毎月第1・3週火曜日	6	6	1	4	—
診療部長会	毎月第4週木曜日	29	1	1	6	—
全体課長会	毎月最終週月曜日	1	22	6	11	—

## 《委員会》

医師臨床研修委員会 ※医師卒後臨床研修管理委員会	毎月第2週水曜日	18	1	1	3	—
医療ガス設備安全委員会	年1回	1	1	2	3	—
衛生委員会	毎月第1週水曜日	2	2	6	4	—
栄養委員会	年5回第4週木曜日	1	1	2	1	—
化学療法委員会	毎月第2週火曜日	7	6	4	1	—
感染対策委員会	毎月第4週水曜日	7	4	8	3	—
緩和ケア委員会	毎月第2週月曜日	2	4	4	1	—
救急委員会	毎月第4週月曜日	6	3	4	3	1
クリニカルパス委員会	毎月第3週月曜日	2	6	5	1	—
血液浄化センター委員会	毎月第2週火曜日	5	2	3	1	—
研修委員会	毎月第4週火曜日	—	6	5	3	—
減免・無料低額診療委員会	毎月第2週火曜日	—	1	—	4	—
購入委員会	毎月第4週木曜日	—	1	1	4	—
広報委員会	毎月第2週金曜日	1	4	6	4	—
RST（呼吸ケアサポートチーム）委員会	毎月第1週火曜日	2	2	8	—	—
NST（栄養サポートチーム）委員会	年5回第4週木曜日	2	3	7	—	—
褥瘡対策委員会	偶数月第4週水曜日	2	3	3	—	—
看護褥瘡予防委員会	毎月第1週木曜日	—	13	—	—	—
役割分担推進委員会	毎月第3週木曜日	2	3	6	2	—
診療情報管理（個人情報管理）委員会	毎月第2週木曜日	2	1	3	5	—
診療報酬適正化委員会	毎月第4週金曜日	2	1	3	3	—
接遇委員会	毎月第2週木曜日	2	4	6	4	—
図書委員会	隔月	1	1	—	3	—
病院安全管理（医療事故調査）委員会	毎月第3週水曜日	8	4	6	2	—
医療機器安全管理委員会	毎月第3週水曜日	1	1	5	—	—
防災委員会	奇数月第2週火曜日	2	15	6	8	—
安全運転委員会	奇数月第2週火曜日	2	15	6	8	—
薬事（治験）委員会	偶数月第4週火曜日	11	2	3	2	—
輸血療法委員会	奇数月第4週金曜日	2	2	4	1	—
臨床検査適正化委員会	偶数月第4週金曜日	2	1	3	1	—
倫理・臨床研究審査委員会	毎月第3週火曜日	3	5	1	4	2
医療の質改善委員会	偶数月第3週月曜日	1	5	2	1	—
特定行為管理委員会	随時	6	6	1	3	—
特定行為小委員会	毎月第1週金曜日	1	6	—	—	—

## 《運営会議》

外来運営会議	毎月第1週木曜日	3	6	3	7	—
手術室運営会議	毎月第1週水曜日	11	3	3	1	—
セーフティマネージャー運営会議	隔月最終週月曜日	1	職場長	職場長	職場長	—
糖尿病療養運営会議	毎月第1週金曜日	2	4	5	—	—
ボランティア運営会議	奇数月最終週月曜日	—	2	—	2	—
リハビリテーション課運営会議	奇数月第4週水曜日	4	4	3	1	—
OLS（骨粗しょう症リエゾンサービス）運営会議	毎月第1金曜日	4	5	6	4	—
ドック・健診室運営会議	年4回第4週水曜日	2	3	2	5	—
地域連携・患者支援センター運営会議	毎月第3週木曜日	5	3	1	7	—
病床管理センター運営会議	毎月第4週水曜日	2	5	—	5	—
内視鏡センター運営会議	偶数月第1週金曜日	4	2	3	2	—
脳血管センター運営会議	毎月第3週水曜日	2	3	5	3	—
膠原病・リウマチセンター運営会議	随時	3	2	4	5	—
乳腺センター運営会議	随時	2	2	2	6	—
緩和ケア病棟運営会議	随時	1	3	3	3	—

## 《プロジェクト》

医師・医療従事者の働き方改革	随時	7	3	6	3	—
----------------	----	---	---	---	---	---

# 医師職員数内訳

(2023年4月1日現在 単位：人)

診療科等	常勤医師	非常勤医師	合計
院長	1	0.00	1.00
総合内科	0	0.40	0.40
消化器内科	5	0.90	5.90
内分泌・糖尿病内科	1	0.90	1.90
呼吸器内科	1	1.10	2.10
アレルギー内科	1	0.00	1.00
腎臓・高血圧内科	3.61	2.00	5.61
救急科	1	1.80	2.80
脳神経外科	2	1.175	3.175
脳血管内治療科	0	0.10	0.10
小児科	1	0.25	1.25
外科	4.8	0.00	4.80
乳腺科	2	0.575	2.58
消化器外科	1	0.00	1.00
整形外科	5.8	0.05	5.85
関節外科	1	0.00	1.00
呼吸器外科	2	0.00	2.00
皮膚科	0	0.60	0.60
泌尿器科	1	0.60	1.60
眼科	3	0.40	3.40
耳鼻咽喉科	1	1.35	2.35
麻酔科	6.4	2.20	8.60
放射線診断科	3	0.825	3.825
病理診断科	1	0.00	1.00
形成外科	0	0.40	0.40
心臓血管センター内科	6	0.45	6.45
心臓血管センター外科	1	0.30	1.30
膠原病・リウマチ内科	4.6	0.30	4.90
総合診療科	1	0.90	1.90
初期研修医	10	0.00	10.00
リハビリテーション科	1	0.00	1.00
合計	72	17.58	89.79

# 職員別・区分別職員数

(2023年4月1日現在 単位：人)

部門名	職名	区分				合計
		正職員	地区限定	エルダー職	パート・非常勤	
診療部	医師	56	0	0	103	159
	初期研修医	10	0	0	0	10
看護部	助産師	0	0	0	1	1
	看護師	276	16	1	23	316
	准看護師	0	0	1	1	2
	看護助手	0	29	4	13	46
	視能訓練士	3	0	0	0	3
	救急救命士	5	0	0	0	5
	事務職	2	8	0	1	11
	医療技術部	薬剤師	25	0	0	0
薬剤事務	0	2	0	0	2	
臨床検査技師	19	3	0	1	23	
検査事務	0	1	0	0	1	
診療放射線技師	20	0	0	0	20	
放射線事務	0	1	0	2	3	
理学療法士	28	0	0	0	28	
作業療法士	15	0	0	0	15	
言語聴覚士	4	0	0	1	5	
臨床工学技士	21	0	0	0	21	
管理栄養士	7	1	0	0	8	
調理師	1	2	0	0	3	
調理助手	0	0	0	16	16	
事務部	看護師	5	2	0	0	7
	事務職	32	43	0	15	90
	施設員	4	0	0	0	4
	医療相談員	4	2	0	0	6
訪問看護	看護師	7	0	0	5	12
	理学療法士	0	0	0	2	2
	作業療法士	1	0	0	1	2
	事務職	0	1	0	0	1
合計	545	111	6	185	847	

## 病 棟 構 成

建物	階	名称	病床数	主な診療科	入院料
東棟	4	東4病棟	60	総合診療科、内分泌・糖尿病内科	地域包括ケア病棟入院料2
	3	東3病棟	52	消化器内科、外科（消化器、一般）、泌尿器科	急性期一般入院料1
	2	東2病棟	53	呼吸器内科、呼吸器外科、眼科、乳腺科	急性期一般入院料1
	1	東1病棟	38	整形外科、脳神経外科	回復期リハビリテーション病棟入院料1
西棟	3	西3病棟	46	心臓血管センター内科、腎臓・高血圧内科 救急科	急性期一般入院料1
	2	西2病棟	47	整形外科、耳鼻咽喉科、麻酔科 リウマチ・膠原病内科、内分泌・糖尿病内科	急性期一般入院料1
	1	西1病棟 急性期ケアユニット 脳卒中ケアユニット	34 8 9	脳神経外科	急性期一般入院料1 ハイケアユニット入院医療管理料1 脳卒中ケアユニット入院医療管理料
B棟	3	B3病棟	20	麻酔科	緩和ケア病棟入院料2
合 計			367		

# 病 院 統 計

年度別月別入院延べ患者数

(単位：人)

年度	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
2019		8,532	8,851	8,374	7,759	8,588	7,778	7,784	8,212	8,839	8,441	7,833	7,557	98,548
2020		6,564	5,611	5,791	6,571	6,986	6,676	7,296	7,450	8,173	8,667	8,525	9,524	87,834
2021		8,714	8,726	8,780	8,770	9,218	9,363	9,372	9,338	9,823	9,833	9,009	10,314	111,260
2022		9,646	8,684	9,268	9,029	8,288	8,415	9,325	9,184	8,874	9,051	8,977	9,606	108,347
2023		8,864	8,535	8,844	9,147	9,922	9,485	8,975	8,937	9,871	9,968	9,689	9,994	112,231

年度別月別1日平均入院患者数

(単位：人)

年度	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2019		284.4	285.5	279.1	250.3	277.0	259.3	251.1	273.7	285.1	272.3	270.1	243.8	269.3
2020		218.8	181.0	193.0	212.0	225.4	222.5	235.4	248.3	263.6	279.6	304.5	307.2	240.9
2021		290.5	281.5	292.7	282.9	297.4	312.1	302.3	311.3	316.9	317.2	321.8	332.7	304.9
2022		321.5	280.1	308.9	291.3	267.4	280.5	300.8	306.1	286.3	292.0	320.6	309.9	297.1
2023		295.5	275.3	294.8	295.1	320.1	316.2	289.5	297.9	318.4	321.5	334.1	322.4	306.7

年度別月別外来延べ患者数

(単位：人)

年度	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
2019		14,369	13,360	13,261	13,549	13,563	13,039	13,640	13,108	13,434	12,918	11,424	11,707	157,372
2020		10,068	9,161	11,077	11,722	10,734	11,155	12,131	11,053	12,077	10,824	10,294	12,830	133,126
2021		12,060	11,163	12,498	12,170	12,294	12,444	12,705	12,685	12,829	12,231	11,078	13,881	148,038
2022		12,579	12,168	13,421	13,114	13,252	12,860	12,554	12,597	13,266	12,388	11,724	13,780	153,703
2023		12,209	12,341	13,323	12,372	12,666	11,973	12,855	12,479	12,827	12,400	11,772	12,471	149,688

年度別月別1日平均外来患者数

(単位：人)

年度	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2019		574.8	580.9	530.4	521.1	521.7	566.9	568.3	595.8	610.6	561.7	544.0	509.0	557.1
2020		437.7	458.1	461.5	509.7	487.9	507.0	505.5	526.3	549.0	515.4	514.7	513.2	498.8
2021		524.3	558.2	520.8	553.2	534.5	565.6	552.4	576.6	583.1	582.4	553.9	578.4	557.0
2022		571.8	579.4	559.2	596.1	552.2	584.5	570.6	572.6	603.0	589.9	586.2	574.2	578.3
2023		555.0	561.0	555.1	562.4	527.8	570.1	558.9	567.2	583.0	590.5	560.6	566.9	563.2

## 年度別診療科別外来延べ患者数

(単位：人)

診療科	年度	2019	2020	2021	2022	2023
総合診療内科		6,639	3,863	3,412	3,486	2,990
呼吸器内科		7,248	6,050	6,748	6,487	7,525
消化器内科		14,608	9,126	8,756	9,897	9,075
腎臓・高血圧内科		4,058	1,865	3,151	3,781	4,326
内分泌・糖尿病内科		6,551	5,161	6,066	6,583	7,116
血液浄化		7,554	6,365	5,837	7,020	7,944
乳腺科		3,012	3,268	4,017	4,524	4,522
脳神経外科		10,892	9,688	9,725	8,663	7,958
小児科		4,387	2,333	2,347	2,811	3,435
外科		6,108	6,098	6,229	6,289	6,470
呼吸器外科		3,382	2,476	2,609	2,596	2,294
形成外科		1,395	1,148	1,083	1,236	1,217
整形外科		11,631	10,844	14,289	16,679	14,471
皮膚科		5,158	4,484	4,396	2,134	2,275
泌尿器科		4,937	4,775	6,669	7,199	7,487
眼科		8,574	8,336	9,299	9,299	8,676
耳鼻咽喉科		14,168	12,259	13,358	12,550	9,869
心臓血管センター内科		16,101	14,714	14,862	15,129	15,221
膠原病・リウマチ内科		10,241	8,693	10,009	10,890	10,560
総合診療科		1,119	992	963	977	2,106
放射線科		2,206	2,275	2,083	2,069	2,708
麻酔科		5,049	4,469	4,978	5,212	4,873
救急科		2,354	3,844	5,120	5,330	2,364
アレルギー内科		—	—	2,032	2,862	3,987
遺伝子診療科		—	—	—	—	1
婦人科		—	—	—	—	65
漢方科		—	—	—	—	151

## 年度別診療科別1日平均外来患者数

(単位：人)

診療科	年度	2019	2020	2021	2022	2023
総合診療内科		23.2	14.5	12.8	13.1	11.2
呼吸器内科		25.3	22.7	25.4	24.4	28.3
消化器内科		51.1	34.2	32.9	37.2	34.1
腎臓・高血圧内科		14.2	7.0	11.9	14.2	16.3
内分泌・糖尿病内科		22.9	19.3	22.8	24.7	26.8
血液浄化		26.4	23.8	22.0	26.4	29.9
乳腺科		10.5	12.2	15.1	17.0	17.0
脳神経外科		38.1	36.3	36.6	32.6	29.9
小児科		15.3	8.7	8.8	10.6	12.9
外科		21.4	22.8	23.4	23.6	24.4
呼吸器外科		11.8	9.3	9.8	9.8	8.6
形成外科		4.9	4.3	4.1	4.6	4.6
整形外科		40.7	40.6	53.8	62.7	54.5
皮膚科		18.0	16.8	16.5	8.0	8.6
泌尿器科		17.3	17.9	25.1	27.1	28.2
眼科		30.0	31.2	34.9	35.0	32.6
耳鼻咽喉科		49.5	45.9	50.2	47.2	37.1
心臓血管センター内科		56.3	55.1	55.9	56.9	57.3
膠原病・リウマチ内科		35.8	32.6	37.7	40.9	39.7
総合診療科		3.9	3.7	3.6	3.7	7.9
放射線科		7.7	8.5	7.8	7.8	10.2
麻酔科		17.7	16.7	18.7	19.6	18.3
救急科		8.2	14.4	19.4	20.0	8.9
アレルギー内科		—	—	7.6	10.8	15.0
遺伝子診療科		—	—	—	—	0.0
婦人科		—	—	—	—	0.2
漢方科		—	—	—	—	0.6
合計		557.1	498.8	557.0	578.3	563.2

## 年度別診療科別入院延べ患者数

(単位：人)

診療科	年度	2019	2020	2021	2022	2023
総合診療内科		981	218	0	0	0
呼吸器内科		5,162	3,567	4,748	3,718	3,727
消化器内科		9,153	7,064	5,476	6,384	6,408
腎臓・高血圧内科		3,553	138	2,354	3,408	3,029
内分泌・糖尿病内科		2,945	2,625	3,122	2,261	1,962
乳腺科		725	838	633	978	891
脳神経外科		16,399	17,737	19,531	14,933	10,565
外科		11,042	10,347	11,818	13,032	14,030
呼吸器外科		4,659	3,572	6,573	5,191	2,357
整形外科		19,545	18,163	24,788	27,375	30,087
泌尿器科		0	199	1,720	1,883	2,417
眼科		729	416	616	478	921
耳鼻咽喉科		2,245	2,052	2,607	2,245	186
心臓血管センター内科		10,766	9,248	10,682	10,620	11,532
膠原病・リウマチ内科		4,143	3,000	3,649	3,700	3,143
総合診療科		2,789	2,328	3,255	2,261	6,384
リハビリテーション科		—	—	—	—	4,798
麻酔科		655	2,418	6,241	6,293	6,521
救急科		3,844	5,120	3,217	3,309	3,001
アレルギー内科		—	—	230	278	272

## 年度別診療科別入院患者数：1日平均

(単位：人)

診療科	年度	2019	2020	2021	2022	2023
総合診療内科		2.7	0.6	0.0	0.0	0.0
呼吸器内科		14.1	9.8	13.0	10.2	10.2
消化器内科		25.0	19.4	15.0	17.5	17.5
腎臓・高血圧内科		9.7	0.4	6.5	9.4	8.3
内分泌・糖尿病内科		8.0	7.2	8.6	6.2	5.4
乳腺科		2.0	2.3	1.7	2.7	2.4
脳神経外科		44.8	48.6	53.5	40.9	28.9
外科		30.2	28.3	32.3	35.7	38.4
呼吸器外科		12.7	9.8	18.0	14.2	6.4
整形外科		53.4	49.8	68.0	75.1	82.3
泌尿器科		0.0	0.5	4.7	5.2	6.6
眼科		2.0	1.1	1.7	1.3	2.5
耳鼻咽喉科		6.1	5.6	7.1	6.1	0.5
心臓血管センター内科		29.4	25.3	29.3	29.2	31.5
膠原病・リウマチ内科		11.3	8.2	10.0	10.2	8.6
総合診療科		7.6	6.4	8.9	6.2	17.4
リハビリテーション科		—	—	—	—	13.1
麻酔科		1.8	6.6	17.1	17.2	17.8
救急科		8.4	10.7	8.8	9.1	8.2
アレルギー内科		—	—	0.6	0.8	0.7
合計		269.3	240.9	304.9	297.1	306.7

## 年度別診療科別入院患者数

(単位：人)

診療科	年度	2019	2020	2021	2022	2023
総合診療内科		3.8	0.5	0.0	0.0	0.0
呼吸器内科		17.0	13.4	14.2	10.2	8.9
消化器内科		61.8	44.4	41.2	45.3	44.1
腎臓・高血圧内科		15.7	0.5	8.5	10.3	12.1
内分泌・糖尿病内科		6.3	5.5	5.5	4.3	5.8
乳腺科		6.4	8.3	7.2	9.2	8.1
脳神経外科		72.7	56.3	53.6	36.0	38.5
外科		43.9	42.3	43.8	47.6	48.5
呼吸器外科		19.0	13.1	22.3	15.8	10.8
整形外科		48.3	49.3	57.8	70.7	74.1
泌尿器科		0.0	1.5	10.4	12.1	13.1
眼科		20.0	14.8	16.5	14.8	22.2
耳鼻咽喉科		31.3	26.5	31.1	29.2	2.9
心臓血管センター内科		92.8	75.8	78.6	74.7	84.3
膠原病・リウマチ内科		15.7	13.4	14.8	17.1	13.9
総合診療科		11.3	9.0	7.7	5.8	17.0
リハビリテーション科		—	—	—	—	0.4
麻酔科		2.8	9.8	23.1	25.3	25.8
救急科		18.1	17.5	22.3	22.0	29.3
アレルギー内科		—	—	3.1	2.8	6.3
合計		486.9	401.9	461.3	452.8	466.1

## 年度別診療科別退院患者数

(単位：人)

診療科	年度	2019	2020	2021	2022	2023
総合診療内科		3.3	0.8	0.0	0.0	0.0
呼吸器内科		18.5	13.4	16.3	10.3	10.2
消化器内科		59.8	43.7	41.3	46.0	43.6
腎臓・高血圧内科		16.4	0.3	7.9	11.2	11.8
内分泌・糖尿病内科		7.8	5.8	7.4	5.3	6.4
乳腺科		6.5	8.0	6.9	9.1	8.1
脳神経外科		72.3	53.9	51.5	37.6	33.3
外科		47.1	44.3	45.2	47.9	52.3
呼吸器外科		20.3	13.3	21.8	17.8	10.8
整形外科		49.3	46.8	57.8	70.2	75.3
泌尿器科		0.0	1.7	12.1	12.6	14.6
眼科		20.0	14.7	16.4	14.7	22.0
耳鼻咽喉科		32.3	26.3	31.8	29.8	3.2
心臓血管センター内科		90.3	75.8	75.1	74.1	83.2
膠原病・リウマチ内科		16.2	13.8	15.4	17.4	13.8
総合診療科		11.1	9.3	10.4	7.6	19.1
リハビリテーション科		—	—	—	—	4.4
麻酔科		3.5	9.7	27.5	28.2	31.0
救急科		14.3	13.9	12.3	13.5	16.5
アレルギー内科		—	—	2.8	2.4	6.3
合計		489.0	395.5	459.8	455.7	465.7

## 年度別平均在院日数：診療科別

(単位：日)

診療科	年度	2020	2021	2022	2022	2023
総合診療内科		13.3	4.1	0.0	0.0	0.0
呼吸器内科		23.9	21.9	26.3	30.1	33.4
消化器内科		11.8	12.5	10.1	10.6	11.2
腎臓・高血圧内科		16.4	4.4	24.6	26.2	20.8
内分泌・糖尿病内科		35.2	40.2	39.6	42.9	26.8
乳腺科		9.0	8.8	6.5	8.2	8.5
脳神経外科		18.2	25.9	30.2	33.8	24.1
外科		19.3	19.1	21.4	22.0	22.4
呼吸器外科		18.8	21.9	24.6	24.9	17.2
整形外科		33.2	30.5	35.0	31.5	32.6
泌尿器科		0.0	3.6	12.2	12.0	13.8
眼科		2.1	1.5	2.2	1.9	2.5
耳鼻咽喉科		4.9	5.5	6.0	5.4	4.0
心臓血管センター内科		8.9	9.3	10.6	10.9	10.6
膠原病・リウマチ内科		21.3	17.7	19.2	17.7	18.6
総合診療科		20.3	20.8	29.0	28.1	29.7
リハビリテーション科		—	—	—	—	190.0
麻酔科		16.5	20.4	19.6	18.8	18.2
救急科		15.3	21.1	15.0	15.1	10.3
アレルギー内科		—	—	5.9	8.5	2.5
全科		15.9	17.4	19.1	18.9	19.1

## 年度別平均在院日数：病棟別

(単位：日)

診療科	年度	2019	2020	2021	2022	2023
東1病棟		—	142.3	148.2	126.8	132.8
東2病棟		12.9	13.1	17.2	19.1	16.9
東3病棟		14.8	14.0	13.6	13.6	14.0
東4病棟		39.6	35.3	39.3	32.3	24.6
西1病棟		17.0	20.7	19.9	21.2	22.4
西2病棟		17.7	17.7	18.8	17.7	24.4
西3病棟		10.3	10.5	10.5	12.3	11.2
急性期ケアユニット		26.5	11.8	17.0	12.3	17.6
脳卒中ケアユニット		15.5	18.7	18.8	23.8	23.9
B3病棟		—	26.9	19.9	19.0	18.1
全病棟		15.9	17.4	19.1	18.9	19.1

## 年度別病床利用率

(単位：%)

診療科	年度	2019	2020	2021	2022	2023
東1病棟 (38)		—	55.7	85.6	78.8	82.4
東2病棟 (53)		79.3	37.8	44.5	48.8	54.3
東3病棟 (52)		88.3	74.9	87.3	90.0	91.5
東4病棟 (60)		93.7	66.9	92.8	81.3	82.0
西1病棟 (34)		89.8	79.5	82.2	82.4	85.8
西2病棟 (47)		98.6	93.9	99.1	97.4	97.3
西3病棟 (46)		91.5	70.5	90.1	87.8	93.0
急性期ケアユニット (8)		73.0	72.7	82.0	73.4	88.7
脳卒中ケアユニット (9)		99.5	99.7	98.9	93.7	95.5
B3病棟 (20)		—	59.2	82.2	80.7	82.1
全病棟 (367)		89.9	70.2	83.1	80.7	83.6

年度別死亡数

(単位：人)

区分	年度	2019	2020	2021	2022	2023
死亡数		269	268	480	440	474

年度別解剖件数

(単位：人)

区分	年度	2019	2020	2021	2022	2023
解剖数		5	3	4	5	7

年度別救急車受入れ件数

(単位：件)

診療科	年度	2019	2020	2021	2022	2023
救急車受入れ件数		5,357	3,814	4,544	4,072	4,469

年度別診療科別手術件数：(手術室実施)

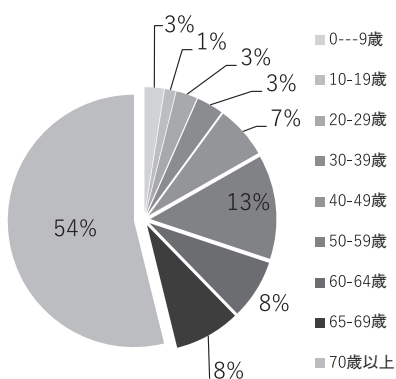
(単位：件)

診療科	年度	2019	2020	2021	2022	2023
腎臓・高血圧内科		33	8	22	34	36
脳神経外科		114	111	91	53	51
外科		357	346	332	357	352
呼吸器外科		89	52	83	58	56
整形外科		498	446	638	808	773
泌尿器科		0	12	109	124	114
眼科		238	178	193	181	266
耳鼻咽喉科		216	160	197	215	31
乳腺科		63	59	63	80	66
心臓血管センター内科		1	0	7	50	67
麻酔科		1	4	6	4	8
合計		1,610	1,376	1,741	1,964	1,820

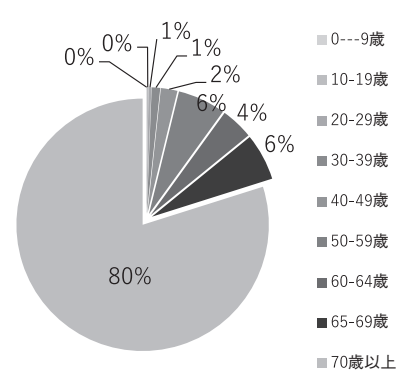
2023年度患者年齢別比率 (単位：%)

	外来	入院
0---9歳	2.5%	0.1%
10-19歳	1.4%	0.2%
20-29歳	2.7%	0.4%
30-39歳	3.4%	1.1%
40-49歳	6.7%	2.1%
50-59歳	13.3%	6.1%
60-64歳	7.6%	4.2%
65-69歳	8.4%	6.0%
70歳以上	53.8%	79.9%

外来患者年齢別比率



入院患者年齢別比率



2023年度地区別比率

(単位：%)

地区	横浜市保土ヶ谷区	横浜市南区	横浜市西区	横浜市戸塚区	横浜市旭区	横浜市中区	横浜市港南区	横浜市神奈川区	横浜市磯子区	横浜市泉区
比率	34.3%	30.1%	13.6%	3.5%	2.3%	2.7%	2.3%	1.7%	1.9%	0.4%

地区	横浜市港北区	横浜市瀬谷区	横浜市都筑区	横浜市緑区	横浜市青葉区	横浜市金沢区	横浜市鶴見区	横浜市栄区	市外	県外
比率	0.5%	0.4%	0.3%	0.4%	0.2%	0.5%	0.4%	0.3%	2.2%	1.8%

## 年度別紹介件数：診療科別

(単位：件)

診療科	年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023
総合内科		36	139	35	27	59	54
呼吸器内科		439	455	375	420	389	494
消化器内科		1,171	939	891	862	936	895
腎臓・高血圧内科		312	251	93	184	196	226
内分泌・糖尿病内科		254	51	35	106	94	117
血液浄化		—	—	—	—	—	—
循環器内科		—	—	—	—	—	—
脳神経外科		307	359	295	322	321	243
小児科		45	33	10	8	11	15
外科		181	200	248	250	281	335
呼吸器外科		131	151	121	214	175	112
形成外科		23	36	46	44	92	94
整形外科		431	575	648	872	1,093	990
皮膚科		78	80	107	96	64	68
泌尿器科		204	217	319	365	329	363
産婦人科		—	—	—	—	—	—
眼科		199	186	154	210	216	187
耳鼻咽喉科		574	646	552	610	638	217
乳腺科		178	208	171	173	208	153
心臓血管センター内科		1,399	1,377	1,235	1,300	1,270	1,375
膠原病・リウマチ内科		274	279	254	290	409	353
総合診療科		100	109	104	93	71	201
ドック・健診科		—	—	—	—	—	—
リハビリテーション科		—	—	—	—	—	6
放射線診断科		2,193	2,208	2,275	2,083	2,070	2,710
麻酔科		121	107	271	629	742	654
アレルギー内科		—	—	—	221	39	54
救急科		134	103	114	108	116	154
漢方科		—	—	—	—	—	1
脳卒中科		—	—	—	—	—	—

## 年度別紹介件数：即日入院件数

(単位：件)

診療科	年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023
総合内科		0	14	5	1	1	2
呼吸器内科		51	52	49	53	39	32
消化器内科		174	141	123	99	113	117
腎臓・高血圧内科		52	44	1	22	34	37
内分泌・糖尿病内科		36	34	3	8	5	8
血液浄化		—	—	—	—	—	—
循環器内科		—	—	—	—	—	—
脳神経外科		88	95	66	83	72	62
小児科		0	0	0	0	0	0
外科		57	75	80	99	114	125
呼吸器外科		63	58	50	134	85	30
形成外科		0	0	0	0	0	1
整形外科		41	83	119	120	126	152
皮膚科		0	1	0	1	2	0
泌尿器科		0	1	5	16	22	25
産婦人科		—	—	—	—	—	—
眼科		1	1	1	1	1	2
耳鼻咽喉科		51	54	58	79	60	0
乳腺科		0	4	1	0	1	4
心臓血管センター内科		180	170	154	179	154	215
膠原病・リウマチ内科		23	23	22	19	43	43
総合診療科		85	85	92	75	51	141
ドック・健診科		—	—	—	—	—	—
リハビリテーション科		—	—	—	—	—	3
麻酔科		6	13	65	120	129	174
アレルギー内科		—	—	—	6	0	2
救急科		51	47	64	63	61	100
漢方科		—	—	—	—	—	0
脳卒中科		—	—	—	—	—	—

年度別処方せん枚数、薬剤指導件数など

項目		2022	2023
外来	院内処方箋枚数	2,791	1,660
	院外処方箋枚数	76,531	77,591
	注射箋枚数	21,037	22,647
入院	処方箋枚数	58,207	57,429
	注射箋枚数	112,322	112,699
薬剤管理 指導	薬剤管理指導料1	2,082	1,959
	薬剤管理指導料2	4,393	4,366
	薬剤管理指導料<合計>	6,475	6,325
	退院時薬剤情報提供料	2,829	2,716
病棟薬剤業務	病棟薬剤業務実施加算1	11,989	12,338
	病棟薬剤業務実施加算2	1,807	2,142
外来抗癌剤調製件数		740	991
入院抗癌剤調製件数		136	135
TDM解析報告件数		113	194

年度別臨床検査件数

検査件数	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
外来採血	45,631	38,462	31,443	36,258	38,823	39,272
検体検査	1,850,891	1,580,305	1,269,653	1,481,477	1,523,117	1,581,983
生理検査	16,036	14,300	13,238	15,458	16,681	17,714
超音波検査	11,215	8,107	9,412	10,128	10,863	10,924
耳鼻科検査	7,610	7,463	6,456	7,692	8,243	6,869
輸血検査	2,905	3,057	2,410	2,822	3,238	3,323

## 年度別画像診断検査件数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
一般撮影	胸部・腹部	2,524	2,254	1,754	1,956	1,949	1,994
	骨	1,135	1,204	1,056	1,224	1,197	1,152
	マンマ軟線	100	112	127	148	167	186
	ポータブル	651	711	566	670	687	698
	骨塩定量	52	42	53	69	95	107
	小計	4,462	4,323	3,556	4,067	4,095	4,137
造影	G I	30	29	42	47	52	58
	注腸	5	4	6	3	6	5
	ブロック	9	11	11	9	10	9
	T V その他	78	69	69	76	72	61
	小計	122	113	128	135	140	133
C T	件数	1,615	1,542	1,742	1,831	1,618	1,637
	造影率	24.30%	22.3%	18.0%	16.6%	20.8%	21.0%
M R I	件数	515	568	531	549	530	513
	造影率	6.00%	5.2%	5.1%	5.0%	5.2%	5.4%
A N G I O	循環器	81	70	54	54	54	55
	頭頸部	40	29	17	18	12	12
	体幹部	3	2	2	1	1	1
	四肢	4	4	4	0	1	1
	小計	128	105	77	73	68	69



疾病（大分類）別・診療科別・性別 退院患者数

集計期間：2023/04/01～2024/03/31

疾病（大分類）	性別	合計		呼吸器内科		消化器内科		腎臓・高血圧内科		内分泌・糖尿病内科		脳神経外科		外科		呼吸器外科		整形外科		泌尿器科		眼科		耳鼻咽喉科		乳腺科		心臓血管センター内科		膠原病・リウマチ科		総合診療科		リハビリテーション科		麻酔科		アレルギー内科		救急科										
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女											
合計	男	2,966	87	323	79	50	230	358	76	326	126	111	24	1	631	47	112	28	211	38	108																													
	女	2,622	35	212	50	27	170	269	54	577	49	153	14	96	367	119	117	25	161	37	90																													
01：感染症及び寄生虫症	男	65	3	13	7	5	1	1	11				2		2	5	6		3		6																													
	女	81	4	13	4	1	2	8	17						1	6	5		4		4																													
02：新生物<腫瘍>	男	487	4	63		7	119	10	71						1	1	3		206		1																													
	女	399	1	36		1	3	80	15						8	7	1	2	150		94																													
03：血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	男	16		2				4																																										
	女	10																																																
04：内分泌、栄養及び代謝疾患	男	55	1	3	7	25	2	2		1																																								
	女	51	1	1	3	19	4	4																																										
05：精神及び行動の障害	男	13				3																																												
	女	12		1		2		1																																										
06：神経系の疾患	男	66					18	2		4																																								
	女	47					17	3		5																																								
07：眼及び付属器の疾患	男	112					1																																											
	女	152																																																
08：耳及び乳様突起の疾患	男	33				2																																												
	女	31	1				5	1																																										
09：循環器系の疾患	男	796	2	3	10	4	150	7	1																																									
	女	484	1	3	2	1	112	2	1																																									
10：呼吸器系の疾患	男	220	70	2	9	3	2	12	44																																									
	女	122	25	2	6			8	12																																									
11：消化器系の疾患	男	418	1	215	1	2		185		1																																								
	女	287		147				131																																										
12：皮膚及び皮下組織の疾患	男	19					2	1		3																																								
	女	21						3		4																																								
13：筋骨格系及び結合組織の疾患	男	172		2	2		1	11		98																																								
	女	283		2	2	1		11		170																																								
14：腎尿路生殖器系の疾患	男	117	1	14	36	1	1	2			50																																							
	女	102		2	26			6	1	39																																								
17：先天奇形、変形及び染色体異常	男	3					3																																											
	女	2					1																																											
18：症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	男	38	1	6		5	4	2			1																																							
	女	41		5	2	1	5	4			1																																							
19：損傷、中毒及びその他の外因の影響	男	304			1		32	4	5	218																																								
	女	467		2	1		25	5	2	396																																								
21：健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	男	7					5	2																																										
	女	5						1																																										
22：特殊目的用コード	男	25	4				1	1	5																																									
	女	25	2				1	1	6																																									

2023年4月から2024年3月までの退院サマリ完成分5588名を対象としたものである。

疾病（大分類）別・年齢階層別・性別 退院患者数

集計期間：2023/04/01～2024/03/31

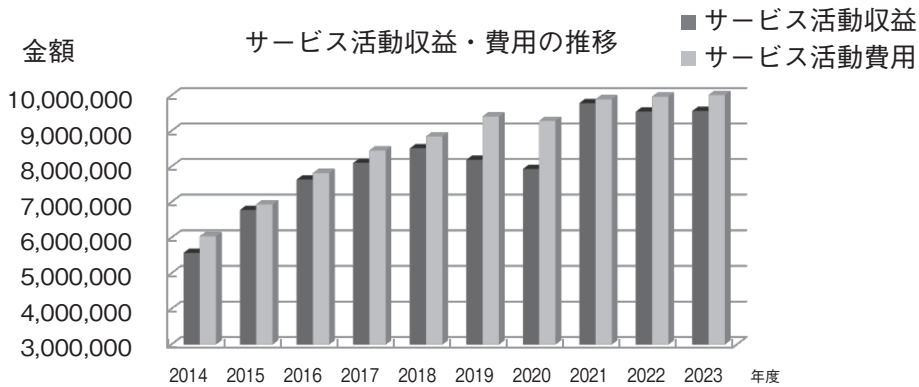
	合計	年齢階層																	
		0~4	5~9	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~			
合計	2,966	1	2	4	10	18	32	68	122	352	209	273	422	468	456	319	211		
男	2,622																		
女	65	1	2	4	11	37	47	95	95	221	126	155	291	402	461	414	355		
01：感染症及び寄生虫症	80			1	1	3	7	2	8	10	7	7	4	6	10	7	11		
02：新生物<腫瘍>	486							3	6	34	27	52	94	109	86	51	24		
03：血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	399							5	20	58	28	27	51	71	61	43	35		
04：内分泌、栄養及び代謝疾患	17												6	2		6	3		
05：精神及び行動の障害	10									1	1	1	1	2	2	1	1		
06：神経系の疾患	55						4			9	5	5	4	9	14	4	1		
07：眼及び付属器の疾患	51					1	4	3	3	2	1	4	6	5	11	7	7		
08：耳及び乳様突起の疾患	13					2	1	2	1	2		2		1	1	1	2		
09：循環器系の疾患	12					3	1	1	1	2				2	2	1	2		
10：呼吸器系の疾患	66				1	2	1	6	14	7	9	4	5	8	8	1	1		
11：消化器系の疾患	47				1	1	1	3	2	4	6	8	2	6	12	2	2		
12：皮膚及び皮下組織の疾患	112						2			3	3	13	19	20	30	17	5		
13：筋骨格系及び結合組織の疾患	151									4	1	18	22	43	39	21	3		
14：腎尿生殖系系の疾患	33		2	2	2	1	1	3	6	3	3	7	3	1	2				
15：泌尿生殖器系の疾患	32		1	2	2	1	4	1	5	3	1	1	5	3	4				
16：先天奇形、変形及び染色体異常	794						9	38	127	62	83	126	116	123	67	43			
17：先天的、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	484					1	5	7	31	11	33	55	93	97	72	79			
18：損傷、中毒及びその他の外因の影響	223			1	1	5	5	3	14	9	6	27	31	35	46	40			
19：健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	122				3	4	1	4	2	1	3	11	14	22	28	29			
20：腎臓	418				3	13	16	24	58	35	35	33	50	70	57	37	22		
21：健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	287				10	9	14	25	21	21	12	30	34	57	44	31			
22：特殊目的用コード	19							1	3	1	1	1	3	4	3	2			
23：健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	22						4	2	1	1	1	2	3	3	6	3			
24：健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	172				1	2	6	8	22	13	17	30	26	15	13	21			
25：健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	283				1	4	9	16	17	17	19	47	56	49	36	29			
26：健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	116		1		1	1	8	8	5	10	9	23	21	28	10				
27：健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	102				1	2	2	6	8	3	1	5	12	11	28	23			
28：健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	3						3												
29：健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	2								1				1						
30：健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	38				1	2	3	3	3	3	1	5	7	4	3	6			
31：健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	41						2	7	2	2	1	6	1	5	4	13			
32：健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	304		3	7	9	4	14	25	40	32	22	29	31	40	25	23			
33：健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	467	1	1	1	4	6	6	15	45	23	22	40	50	79	95	79			
34：健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	7										2		4		1				
35：健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	5									2		1		1		1	1		
36：健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	25								2	1		3	2	7	5	5			
37：健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	25								1			2	4	6	5	7			

2023年4月から2024年3月までの退院サマリ完成分5588名を対象としたものである。

財務統計ハイライト

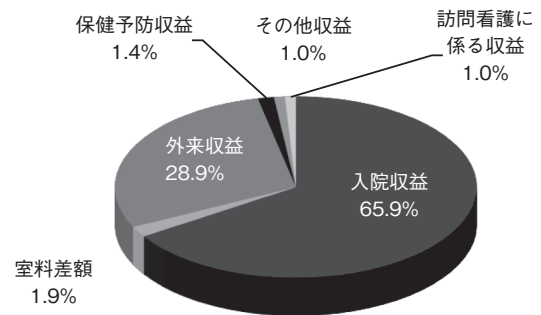
○サービス活動収益・費用の推移（内部取引控除前）

年度	サービス活動収益（千円）	対前年比	サービス活動費用（千円）	対前年比
2014	5,570,368	95.4%	6,034,859	99.7%
2015	6,777,159	121.7%	6,931,513	114.9%
2016	7,632,739	112.6%	7,809,810	112.7%
2017	8,100,126	106.1%	8,446,671	108.2%
2018	8,509,516	105.1%	8,843,764	104.7%
2019	8,188,301	96.2%	9,399,903	106.3%
2020	7,925,349	96.8%	9,279,004	98.7%
2021	9,777,513	123.4%	9,884,629	106.5%
2022	9,543,292	97.6%	9,958,992	100.8%
2023	9,561,917	100.2%	10,149,262	101.9%

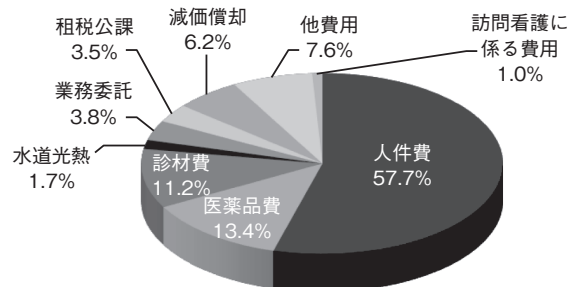


○サービス活動収益・費用の内訳（2023年度）

	サービス活動収益（千円）	占有率
入院収益	6,298,638	65.9%
室料差額	180,768	1.9%
外来収益	2,760,172	28.9%
保健予防収益	137,741	1.4%
その他収益	91,882	1.0%
訪問看護に係る収益	92,716	1.0%
合計	9,561,917	100%



	サービス活動費用（千円）	対医収比
人件費	5,516,442	57.7%
医薬品費	1,284,035	13.4%
診療・療養材料費	1,072,986	11.2%
水道光熱費	166,223	1.7%
業務委託費	359,065	3.8%
租税公課	332,281	3.5%
減価償却費	596,294	6.2%
その他費用	730,177	7.6%
訪問看護に係る費用	91,758	1.0%
合計	10,149,262	106.1%



サービス活動増減差額	-587,345	-6.1%
------------	----------	-------

※2014年度より せいいい訪問看護ステーション横浜を含む

※2015年度より 新社会福祉法人会計基準へ移行

※訪問看護に係る収益・費用・・・訪問看護ステーションにおけるサービス活動収益・費用を掲載

## 地域連携・患者支援センター

センター長：山田 秀裕

### 人員構成

地域連携室	6名
医療相談室	7名
入退院支援室	4名

### 業務内容

#### 地域連携室

- ①地域医療機関・患者からの受診・入院相談
- ②診療情報提供書管理・返書管理
- ③地域医療機関や地域住民向けセミナーや医療講座開催
- ④地域医療機関や多職種との連携会実施と訪問活動

#### 医療相談室

- ①医療費や退院後の生活、介護・福祉制度利用など医療に関する相談
- ②無料低額診療事業に関する相談

#### 入退院支援室

- ①入院支援：多職種による入院前オリエンテーションや面談の実施
- ②退院支援：入院前や入院早期より、退院に向けた意思決定支援と療養先への退院調整

### 2023年度総括

#### ◎地域連携室

##### 【市民健康講話】

- ・7月7日 「排尿からみた健康長寿の秘訣 ～知って得する!? 尿漏れ・排尿障害の予防～」
- ・3月29日 「のぼせ、冷え症、めまい、倦怠感、節々の痛み ～諦めていたその症状に漢方薬はいかがですか?～」

##### 【その他活動】

- ・年3回 「救急フォーラム」開催（オンライン3回）
- ・年8回 各救急隊訪問実施（搬送症例についての報告・検討）

- ・年14回 医療機関向けオンライン病診連携会・講演会・webセミナー開催
- ・院内多職種連携OLS（骨粗鬆症リエゾンサービス）活動
- ・新入職医師・診療科を中心とした医師会・地域医療機関への訪問活動
- ・診療情報提供書即日返信（受診日当日医師作成の返信）の推進（2023年度即日返信率：99.7%）
- ・地域開業医へアンケート実施、結果より直通電話回線増設およびコールシーケンサー導入

#### ◎医療相談室

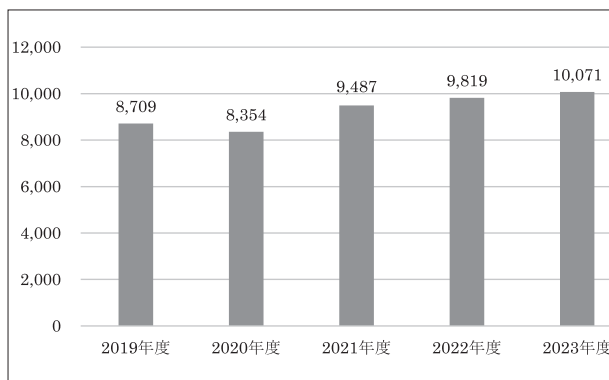
- ・医療福祉相談、退院支援、無料低額診療事業、医療安全等

#### ◎入退院支援室

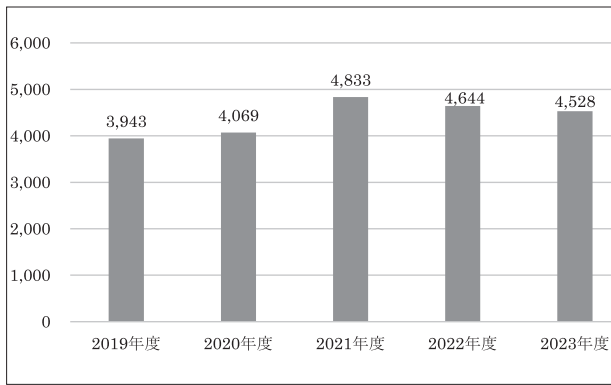
- ・病床管理センターメンバー（退院支援専従看護師、当センター課長）
- ・看護部 在宅療養支援委員会メンバー（入退院支援専従看護師、当センター課長）
- ・地域包括ケア病棟を中心とした在宅サポート入院や転院の相談、受入調整
- ・転院調整システム「CAREBOOK」を通じた転院相談体制の構築
- ・緩和ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟への受入体制づくり
- ・退院支援担当者による連携機関訪問活動

### 実績

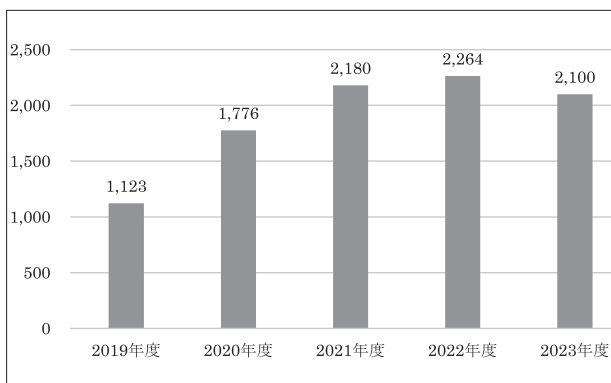
#### 紹介件数推移



### 入退院支援加算算定件数推移



### 入院時支援加算算定件数推移



## 医療の質管理室

室長：野澤 聡志

### 人員構成

医師	2名
看護師	4名
事務	1名
(その内、専従・認定・特定看護師は以下の通り)	
医療安全管理者	1名
感染管理認定看護師	1名
クリティカルケア特定認定看護師	1名
特定看護師（血糖コントロール関連）	1名

### 【医療安全管理室】

#### 業務内容

- 病院安全管理委員会で用いられる資料作成ならびにその他委員会の運営
- 医療安全対策に関する日常活動
- 医療事故発生時の指示、指導等
- 医療安全に関する職員への教育、研修の実施
- そのほか、医療安全体制の構築および対応策の検討、策定

#### 2023年度総括

- ▶病院安全管理委員会、セーフティマネジャー運営会議、診療部セーフティマネジャー会議内で報告事例の共有
- ▶重点施策達成のためのワーキンググループ活動（セーフティマネージャとの連携）継続
- ▶医薬品、医療機器、職場環境安全ラウンドの実施と情報共有
- ▶医療安全推進週間の取り組みとして
  - ①『GoodJobアワード』を開催
    - “Best of GoodJob賞” 2件、“GoodJob賞” 3件
    - ・院内各部署から合計25件エントリーされ、各職場の患者安全に貢献している取り組みを共有できた。
- ▶職員医療安全研修：e-learning形式で企画・開催

- ・第1回職員医療安全研修【MRI検査 安全管理講習】受講率：98.0%
- ・医薬品セミナー【ハイリスク薬の管理について】受講率：96.8%

- ▶院内医療安全管理指針・医療安全マニュアルの整備
- ▶「安全管理情報」の発行：年間12部発行、「医療安全標語応募」を継続
- ▶医療安全地域連携加算Ⅰ相互ラウンドの実施
  - ・JCHO横浜保土ヶ谷中央病院、育生会横浜病院との相互ラウンド実施

### 【感染対策室】

#### 業務内容

- 患者、家族および面会者を含む訪問者や全職員を医療関連感染から守るため、感染防止対策活動を通じて安全で質の高い医療を提供する。
- 感染管理の分野において感染防止対策を実践し、指導及び教育を行う
- 職業感染（針刺しや感染症の曝露）の現状把握とその対応を行う
- 患者が安全で安心できる療養生活を送るための、環境調整を行う

#### 2023年度総括

- ▶新型コロナウイルス感染症対応
  - 5類へ移行に伴う対応の変更
  - 職員の就業制限、復帰の確認
  - 院内発生時の対応や接触者の確認
- ▶インフルエンザ流行の対応
- ▶感染対策勉強会開催 e-learning
  - 5類へ移行後の新型コロナウイルス感染対策
  - 風邪とインフルエンザ
  - 血液培養のすすめ
- ▶全職員に対する流行性ウイルス4疾患（麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎）の抗体確認
  - 抗体陰性者のワクチン接種実施
- ▶針刺し事例の状況確認、対策指導 2023年度針刺し22件・粘膜曝露8件

- ▶ 感染対策向上加算1算定開始；地域連携カンファレンスの主催
- ▶ 全入職者へのオリエンテーション実施

## 【早期患者対応室】

### 業務内容

- 予期しない急変発症低減を目的に病棟ラウンド  
重症患者や早期警告スコア（NEWS）における急変リスクがある患者に対し病棟をラウンドし、急な変化がないか、治療方針や急変時における家族の意向などを現場で情報共有する。  
急性期ケアユニットや脳卒中ケアユニットは、午前・午後には必ずラウンドを実施。
- スタッフ教育 ～気づき力向上～  
特定行為を実施しながらアセスメント内容を他職種へ伝達し共有。  
RRSに必要な知識と技術についてRRS研修を開催し、翌年にはフォローアップ研修も開催。  
毎週金曜日に救急救命士をメンバーに加えともに病棟ラウンドを開始。
- 血糖・インスリン関連の院内教育強化  
特定看護師による血糖測定およびインスリン投与に関する指導の実践により、医師 - 看護師間での情報共有が促進され、これらの分野での臨床教育を充実させる。

### 2023年度総括

- ▶ 2023年度は定期ラウンドを開始。現場からの要請とともにラウンドで注意喚起することで、49.6回/月（1000入院患者あたり）介入した。
- ▶ 院内の看護師へRRS研修を行い、RRS研修生とともにRRSにおける各職場の問題と対策を検討し、取り組みをサポートした。
- ▶ NEWSの記載を促進し、患者急変におけるアセスメントの一つとして現場教育した。
- ▶ 血糖・インスリン関連には医師との協働が促進され、特定行為件数を増加。血糖関連のインシデント減少に寄与している。

## 診療支援室

室長：野澤 聡志

### 人員構成

医師 1名  
 看護師 1名  
 医師事務作業補助者 32名  
 (うち派遣職員 14名)

### 業務内容

- リウマチ・膠原病内科、乳腺外科の診療支援（オーダーリング代行入力、診察記事入力代行、各種統計処理など）
- 外来診察における診療支援（書類準備、検査結果確認など）
- 麻酔科、リウマチ・膠原病内科、消化器内科の間診入力代行
- 新任医師への外来診療の事務的支援
- 術前検査等のスケジュールリングやオーダーリングの入力代行
- 検査予約と変更の代行（画像・内視鏡・生理検査、定期受診）
- RIやPET等の院外特殊検査・治療の予約代行
- 血液浄化センターにおける定期注射・検査オーダーの入力代行
- 証明書、診断書、退院サマリの作成支援（一部入院中から作成）
- 手術症例登録（一般社団法人NCD）
- 学会関係のデータ入力（整形外科、心臓血管センター内科、脳血管センター）
- 認知症スケールの実施（長谷川式簡易知能評価スケール、ミニメンタルステート検査（MMSE））
- 脳神経外科のカンファレンス記録入力代行
- 病理診断科への専任診療支援
- 緩和ケア病棟紹介状の入力代行
- クリニカルパスの終了処理代行
- 内視鏡画像CDR出力
- 糖尿病教室資料作成
- 心臓血管センター内科、脳神経外科の救急外来受診患者情報登録

### 2023年度総括

2023年度は、事業・運営計画の「医師事務補助体制の強化」に則り、眼科を除く全診療科の外来診察を支援する体制とした。また医師事務作業補助者個々の質を高めるために、定期的な勉強会の開催や、ステップアップのための勉強会などを実施している。「安全な医療の提供」のために、患者の期待を把握し、それに応えるために医師事務作業補助者ができることを考え実践することに注力した。

### 実績

医師からの業務依頼件数（新規）	4件
医師からの業務依頼件数（継続）	31件
術前スケジュールリング業務	15件
検査代行予約業務	5114件
PET・RI検査予約業務	170件
診断書、証明書等の発行件数	8611件
入院予約の変更等	4件
検査予約変更等	980件

## 腎臓・高血圧内科

主任医長：眞弓 健吾

## 人員構成

主任医長 眞弓 健吾（2008年）  
 医長 大石 真理子（2011年）  
 医員 内田 木香（2014年）  
 医員 野田 翔平（2015年）

## 2023年度総括

2023年度は常勤医が3名から4名へ増員となり、外来患者数、入院患者数ともに昨年度に比べ増加傾向であった。

入院患者数は158例、血液透析導入件数17例、内シャント造設術13例、カフ型カテーテル留置術2例、カフ型カテーテル抜去術2例、経皮的血管拡張術（シャントPTA）23例、経皮的腎生検4例であった。血液透析導入となった17例のうち、8例が当院の維持透析外来へ通院することとなり、外来維持透析患者数の維持に繋がった（2022年度末維持透析患者数52名、2023年度末維持透析患者数51名）。2022年度から再開した腹膜透析外来は、2023年8月に他院からの腹膜透析患者の紹介を受け、現在2名が通院中である。

2023年7月に腎臓病教室を開催し、患者とその家族10名に対し、看護師、管理栄養士、理学療法士より慢性腎臓病（CKD）とその療養について講義をおこなった。今後も定期的な腎臓病教室開催と、2024年度からはCKD教育入院の実施を予定している。

今後も新規紹介患者、外来患者数を増やすことで、腎生検、バスキュラーアクセス関連手術、腹膜透析を含む透析導入といった専門領域での入院症例確保や当院維持透析患者数の確保にも繋げていきたい。また、慢性腎臓病、透析患者の周術期を含めた併診など他科との連携にも力を入れるとともに、慢性腎臓病看護外来をはじめ多職種連携も推進し、当地域の腎臓・高血圧診療の向上に寄与できる診療科を目指したい。

## 実績

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
入院患者数	7	118	137	158
経皮的腎生検	0	5	7	4
血液透析導入	1	18	21	17
腹膜透析導入	0	0	1	0
内シャント造設術	2	11	18	13
カフ型カテーテル留置術	0	2	3	2
カフ型カテーテル抜去術	0	0	0	2
経皮的血管拡張術	8	8	17	23
腹膜透析カテーテル留置術	0	0	1	0

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
外来受診患者数 (人/月)	155.4	266.9	343.8	360.5
紹介患者数 (人/月)	7.8	15	16.3	18.5

## アレルギー内科

科長：渡邊 直人

### 人員構成

医長 渡邊 直人 (1988年)

### 2023年度総括

2021年4月より、アレルギー科（アレルギー内科）を新設し、2年が経ち体制が整ってきたことから、今年度（2023年）は昨年度（2022年）より外来・入院患者数の増加および外来診療の充実を目指して取り組んできました。当科は他施設ではなかなか行えない、診断や治療を取り入れており、看護師や医師事務の方々と協力し合い、検査（特殊血液検査、皮膚試験、負荷試験など）や治療（特異的・非特異的免疫療法、生物学的製剤・その自己注射など）に引き続き力を注いできました。また、経口薬（チャンピックス）が処方できない現状で貼付薬（ニコチンパッチ：ニコチネルTTS）による禁煙外来を継続し、さらに睡眠時無呼吸症候群の診断検査やC-PAP治療にも積極的に取り組んできました。

各科との診療連携および各部署（地域連携・患者支援センター、医療情報管理課、薬剤課、検査課、栄養課など）との連携を試み、依頼やご紹介などで協力し合いながら、患者1人1人にとってのより良い検査や治療を心掛けております。特に、小児科、皮膚科、耳鼻科との連携を強化し、小児アレルギー外来からの相談や協力にも努めてきました。

近隣の医師会からの協力連携にもできる限り応じて、ご期待に添えるように努力して参りました。さらに、地域連携を含めた講演会の座長や演者として講演会も担ってきました。

このようにアレルギー内科に関連する種々スタッフの協力もあり、外来および入院患者数としては年々増加傾向をたどり、1年間1日外来平均患者数において、2021年度は7.6人、2022年度は10.8人、今年度（2023年）は15.0人まで増加しました。具体的な診療内容は、気管支喘息をはじめ、食物アレルギー、薬物過敏症の診断・治療やアレルギー性鼻炎、アトピー

性皮膚炎、慢性蕁麻疹に対する免疫療法や生物学的製剤治療を行っています。また、コロナワクチンをはじめ、インフルエンザワクチン、肺炎球菌ワクチン、带状疱疹ワクチンなど各種ワクチン接種後の副反応の対応や、副反応を心配されてのワクチン接種相談にいられた患者も少なくなく、そのような不安を抱えた一般市民の患者を含め、当科に通院加療中の患者（食物アレルギー、薬物過敏症、アスピリン喘息など）には、アレルギー性の副反応を発症させないように、個人個人にあった対応方法を指導しました。インフルエンザワクチンにおいては、フルービックというチメロサル（殺菌作用のある水銀を含む防腐剤）を含まないものも利用しております。

入院においては、72名の患者を受け持ちました。主には食物経口負荷試験や局所麻酔薬の精査、アレルギー（スギ・ダニ）の急速皮下免疫療法を目的に入院された患者で、診断（治療効果判定）や治療を行っております。また睡眠時無呼吸症候群の診断確定のための精密PSG検査入院36名と昨年度より多くの患者を受け持ちました。

一方、今年度は3人の研修医が当科での研修を希望し、各々1ヶ月間の研修・教育指導を行いました。当科は2021年度に、日本アレルギー学会認定の専門医教育研修施設に認定されております。

その他、日本咳嗽学会からの研究調査「難治性慢性咳嗽例に対する gefapixant の使用実態」および消費者庁主導の「即時型食物アレルギーによる健康被害に関する全国実態調査」、NPO法人札幌せき・ぜんそく・アレルギーセンターから依頼された「喘息患者の症状アンケート」にも協力しました。

院外での活動としては、日本咳嗽学会の啓発・広報委員会委員、日本温泉気候物理医学会の保険委員会の委員を務め、日本アレルギー学会代議員、日本温泉気候物理医学会評議員、国際喘息学会日本・北アジア部会評議員、日本職業・環境アレルギー学会評議員、日本咳嗽学会評議員、臨床アレルギー研究会幹事、および西横浜喘息・COPD懇話会の発起人として委員会や会議への参加ないし講演会を実施してきました。

最後に、昨年度同様、アレルギー疾患・喘息関連学会・研究会、講演会において、座長や当院所属での演題発表を数多く活動し、当院におけるアレルギー科の存在を、継続して全国にアピールしております。

## 実績

	2021年度	2022年度	2023年度
外来平均患者数 (人)	7.6	10.8	15.0
入院平均患者数 (人)	0.6	0.8	0.7
サービス活動収益	39,326	72,123	95,869

## 呼吸器内科

部長：小西 建治

### 人員構成

部長 小西 建治 (2001年)

### 2023年度総括

2023年度は2022年度に続き常勤1名で入院業務を行い、外来は非常勤スタッフに対応していただき、時間外や救急対応は他科の協力のもと可能な範囲で対応した。

気管支鏡検査も中止のままとし、胸部異常陰影での肺がん疑いの症例は、CTなどで外来にて評価したうえで、手術適応があれば呼吸器外科へ紹介しつつ、精査加療が必要な場合は他院に紹介の方針とした。

疾患としては、誤嚥性肺炎やCOPDを背景とした肺炎、肺化膿症などの他、器質化肺炎をはじめとした非特異的な間質性肺炎も多く、高齢で精密検査のリスクが高い症例などは社会背景も考慮しながらの治療を選択してきた。

その他、ARDSをはじめとした人工呼吸器管理を必要とするような症例も多く、入院患者数に対して重症度が高いことから、救急対応が困難な時期も続き平均患者数は横ばいとなっている。

他科に入院中の患者の呼吸器症状対応も多く、現状を保ちながら必要なときに入院対応ができるように今後も可能な範囲で続けていきたい。

### 実績

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
外来	延患者数	7,248	6,060	6,748	6,487	7,525
	1日平均患者数	25.6	22.7	25.4	24.4	28.3
入院	延患者数	5,162	3,567	4,748	3,718	3,727
	1日平均患者数	14.1	9.8	13.0	10.2	10.2

## 消化器内科

部長：吹田 洋將

### 人員構成

部長 吹田 洋將 (1987年)  
 医長 豊水 道史 (2010年)  
 医員 佐藤 育也 (2015年)  
 医員 江澤 将敬 (2020年)  
 医員 瀧澤 祐子 (2021年)

### 2023年度総括

#### ①外来業務

消化器内科は前年までは4名体制であったが、専攻医（後期研修医）の江澤医師が横浜市立市民病院へ1年の予定で出向し、専攻医（後期研修医）の瀧澤医師が入職したため、4名体制のまま診療を行っている。

2023年度の外来患者数は、総患者数：9,075名  
 1日平均：34.1名であった。

医師数の減少に伴い、初診（予約外診察）の患者を週5日対応することは困難な状況となり、月水木の週3日のみの診療に縮小せざるを得なくなった。また内視鏡検査などのマンパワーの関係で、午後は予約患者のみの診療となっている。

初診（予約外診察）においては、待ち時間が長くなっているが、電子カルテの入力を医師事務に代行してもらうなど待ち時間の短縮化を図っている。

外来の混雑の緩和や業務の効率化のために、内服のみで病状の落ち着いている患者は地域の先生方に逆紹介させて頂き、内視鏡治療・入院加療が必要な患者を積極的に受け入れたいと考えている。今後も地域の先生方と連携を密にして外来業務を継続していきたい。

#### ②検査業務

2023年度の内視鏡検査件数は、上部消化管内視鏡検査は1,604件、下部内視鏡検査は1,360件であった。治療内視鏡では早期胃がんESD11件、上部消化管内視鏡止血術39件、内視鏡的胃瘻造設術8件、大腸ポリープ切除術334件、早期大腸がんESD21件、内

視鏡的十二指腸乳頭切開術33件、内視鏡的胆管ステント留置術66件などであった。

内視鏡検査は当院の内視鏡センターで行っている。内視鏡センターでは患者が安全、快適かつ迅速に内視鏡検査や内視鏡治療を受けられるように、専用の待合室、更衣室、リクライニングシートを兼ね備えたリカバリールームを完備している。また待ち時間や検査時間を短縮し、苦痛や不安のない検査・治療を実践することを目指して、安全で効率的なセンター運営を行っている。

項目	件数
上部消化管内視鏡検査	1,604件
うち内視鏡治療	84件
早期胃がんESD	11件
経皮的内視鏡下胃瘻造設術	8件
内視鏡的止血術	39件
食道静脈瘤硬化療法	0件
下部消化管内視鏡検査	1,360件
うち内視鏡治療	389件
早期大腸がんESD	21件
大腸ステント留置術	20件
内視鏡的大腸ポリープ切除術	334件
経乳頭的胆管膵管造影	193件

#### ③病棟業務

2023年度の延べ入院患者数は6,408人であり、1日平均17.5人、平均在院日数は11.2日であった。

今後も地域の開業医の先生からの紹介患者をいつでも受け入れることのできる体制を構築し、内視鏡による検査・処置目的の入院も含め入院患者数の増加に対応できるようにしたい。そして、何より患者一人ひとりの病態や状況に即したきめ細やかな診療業務をより一層行っていきたい。

---

---

## 内分泌・糖尿病内科

部長：升田 雄史

---

---

### 人員構成

主任医長 升田 雄史（1998）

### 2023年度総括

新型コロナウイルス感染症が5類になった影響もあってか、外来診療も入院診療も他院から紹介症例が前年度より増加した。他科からのコンサルテーションも含めて積極的に受け入れた。人員不足を感じることもあったが、非常勤医師・特定行為看護師・CDEJとのチーム内で分業しシステム構築に成功した。

# 膠原病・リウマチ内科

センター長 兼 部長：山田 秀裕

## 人員構成

膠原病・リウマチセンター センター長 兼 部長	山田 秀裕 (1981年)
主任医長	児島 希典 (2014年)
医員	松下 広美 (2008年)
内科専門研修医	青木 海斗 (2020年)
内科専門研修医	花岡 黎 (2021年)
非常勤医	吉田 雅伸 (2000年)
非常勤医	花岡 洋成 (2003年)

## 業務内容

膠原病やリウマチ性疾患を対象に、多職種連携診療チームによる最先端かつ安全性の高い診療を提供する。関節リウマチ患者を対象としたリウマチ包括ケアを推進する。

## 2023年度総括

今年度は、入院・外来診療とも、診療患者数が昨年度より若干減少した。入院診療の減少は、総合内科症例の入院の減少と、外来での安全管理が徹底されたために感染症などの合併症での入院患者が減少したためと考えられる。外来診療では、安定した患者を3ヶ月毎の診療に延長したことが影響しており、逆に診療単価が増え、医療費合計は2021年以降安定している。

関節リウマチと診断された患者に対し、看護師、薬剤師、リハビリテーション療法士とともに、関節保護や関節の運動療法、薬物療法、感染症などの合併症予防対策、口腔ケア、気道ケア、消化管ケアなどを包括的に指導した。リウマチ看護外来では、年間352症例を看護面談し、バイオ導入指導88例、JAK阻害薬導入指導19例、自己注射指導91例、電話相談150例のケアを行った。フットケア外来もこれまで同様に継続した。

## 実績

図1. 月毎の診療患者数 入院と外来 (2016/4~2023/3)

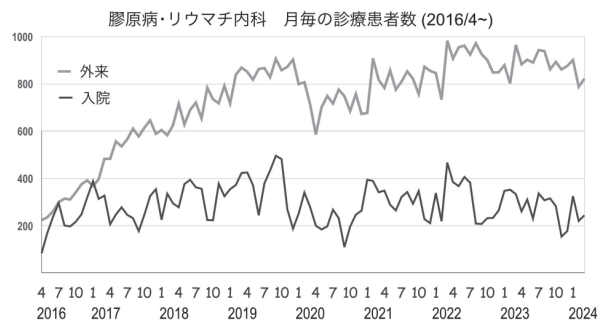


図2. 月毎の医療費合計 入院と外来 (2016/4~2023/3)

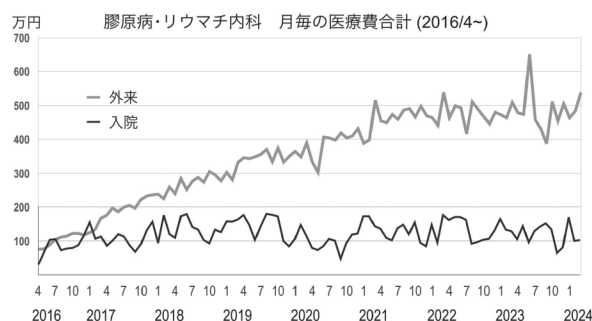
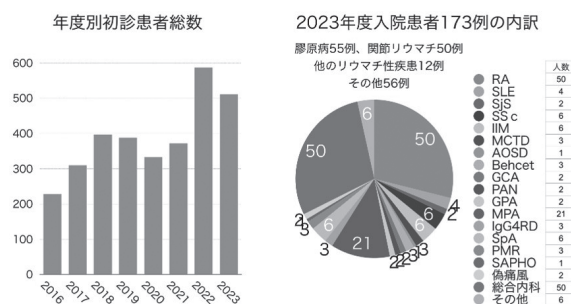


図3. 年度ごとの初診患者総数と2023年度入院患者内訳



## 心血管センター内科・ 心血管センター外科

心血管センター長：芦田 和博  
 心血管センター内科 部長：新村 剛透  
 心血管センター外科 主任医長：乗松 東吾

### 人員構成

心臓血管センター長	芦田 和博 (1997年)
心臓血管センター内科部長	新村 剛透 (2005年)
心臓血管センター内科主任医長	河合 慧 (2009年)
心臓血管センター内科医長	中島 啓介 (2003年)
心臓血管センター内科医長	山田 亘 (2011年)
心臓血管センター内科医員	長谷川和喜 (2020年)
心臓血管センター外科主任医長	乗松 東吾 (2003年)
心臓血管センター外科医長	清原 久貴 (2012年)

### 2023年度総括 心血管センター内科

2015年の当科開設以来、地域の循環器急性期医療に貢献すべく行っている断らない救急診療を2023年度も継続できた。24時間365日体制でオンコールを担っている当科医師全員のみならず、満床に近い状態でも入院ベッドをコントロールいただいている看護部、夜間休日の緊急治療にも迅速に対応いただいている医療技術部門、患者受け入れ準備や家族の案内などをスムーズに進めていただいている事務部門など全ての医療スタッフの協力により達成できていることであり、この場を借りて深く感謝申し上げます。また、地域の循環器救急診療に貢献するのみならず、高齢者の心不全患者の再入院予防・健康寿命の延伸に寄与すべく、県内最大規模の日本循環器学会認定心不全療養指導士が在籍する当院の心不全チームによる心不全教育や看護外来を実施している。さらに、2023年10月より心大血管疾患リハビリテーションを本格的に開始しており入院・外来とも心臓リハビリテーションを積極的に進めている。

一方で、COVID19による各種学会の自粛体制も緩和されたことから、海外学会も含めたオンサイトの学会発表も積極的に行った。2023年7月28日には世界最大規模のカテーテルインターベンションのライブデモンストレーションコースであるCCTのスピノフライブデモンストレーションとしてCCT

coronary Web Live 2023 Yokohamaが当院を中継施設として開催された。院内外の多くの方々のご協力により当科センター長を含め日本のトップオペレーターによる教育的なカテーテル手技を全世界に発信した。また、各種講演会による地域への発信も継続して行っており地域全体の循環器診療のレベルアップに貢献できているものと考えている。

今後も医師・医療スタッフ一丸となって地域の循環器急性期医療・予防医療に貢献できるよう尽力する所存である。

### 2023年度総括 心血管センター外科

2023年は心臓血管外科開設2年目、心臓血管外科専門医認定修練施設（関連）に認定されてからは初年度の年である。腹部大動脈ステントグラフト施設認定も暫定施設から正式に実施施設となった。11月からは非常勤医師として勤務していた清原久貴医師が常勤医師となり、外科2名体制となった。このため、心臓内科医師に手伝って頂いていた全身麻酔などの手術も外科医2名で行えるようになり、非常勤医師の来院日程調整や金銭的負担、内科医師への業務負担の軽減につながった。今後は心臓胸部大血管の手術数増だけでなく、重症下肢虚血の集学的治療が行えるフットケアチームの結成など、心臓と血管の両疾患で地域のニーズに応えられる施設を目指してゆく。

### 実績

術式	合計
PCI（冠動脈ステント治療）	302
緊急PCI（冠動脈ステント治療）	129
心臓カテーテル検査	440
心筋焼灼術カテーテルアブレーション	74
ペースメーカー植え込み術	33

## 脳血管内治療科・脳神経外科

センター長 兼 部長：佐々木 亮

### 人員構成

脳神経血管・高次脳機能センター長 兼  
脳血管内治療科部長 佐々木 亮 (2001)  
脳神経外科部長 青井 瑞穂 (1992)

### 2023年度総括

2016年からセンターが稼働、2018年8月には脳卒中ケアユニット（SCU）開設、2020年7月から回復期リハビリテーション病棟オープン、その後SCU9床への増床を行い、「急性期治療から機能回復まで一貫した治療体制」という当センターの目標の継続が維持され、患者満足度も向上しています。

2023年度は上記に加え、近年の高齢者によるフレイルなどの問題に対応するべく、栄養管理に重点をおき、SCUにおいて当院では初めて早期栄養介入管理加算の取得を開始しました。早期栄養介入管理加算を開始することにより、診療報酬の寄与のみではなく、患者の予後改善をはかることができ、またスタッフへのより栄養の重要性を教育することが可能となっております。

今後は、急性期から慢性期と包括的な脳卒中診療を軸として、周辺の病院・クリニックなどの医療機関、救急隊などとの関係性を向上し、より地域の為に貢献できるセンターを目標とします。

### 実績

術式	合計
経皮的頸動脈ステント留置術	15
脳血管内手術（脳血管内ステント）	10
脳血管内手術（1箇所）	16
血管塞栓術（頭部、胸腔、腹腔内血管）	1
経皮的脳血栓回収術	10
経皮的脳血管形成術	1
慢性硬膜下血腫洗浄・除去術	15
脳動静脈奇形摘出術	0
頭蓋内腫瘍摘出術	5
水頭症手術	14
頭蓋内血腫除去術（開頭）（硬膜下）	2
減圧開頭術	0
動脈形成術、吻合術（頭蓋内動脈）	2
脳動脈瘤頸部クリッピング（1箇所）	0
脳膿瘍排膿術	2
穿頭脳室ドレナージ術	3
頭蓋骨形成手術（硬膜形成を伴う）	0
頭蓋骨形成手術（頭蓋骨のみ）	1
内視鏡下脳内血腫除去術	1
脳新生血管造成術	1
髄液漏閉鎖術	1
動脈血栓内膜摘出術（内頸動脈）	1
髄液シャント抜去術	1
脳膿瘍全摘術	1
植込型心電図記録計移植術	4
総計	112

## 外科・消化器外科

部長：野澤 聡志・永井 啓之

### 人員構成

副院長 兼 外科部長	野澤 聡志 (1990年)
消化器外科部長	永井 啓之 (1998年)
外科主任医長	齋藤 徹 (1998年)
外科主任医長	横山 元昭 (2003年)
外科医員	飯田 文子 (1999年)
外科医員	青木 優 (2011年)

### 2023年度総括

胃癌・大腸癌・肝胆膵領域の癌を中心とした消化器がんに対する手術・化学療法を積極的に行った。また胆石胆嚢炎・胆嚢結石症などに対する腹腔鏡下胆嚢摘出術、単径ヘルニアを中心とした各ヘルニア疾患に対しヘルニア修復術などの良性疾患治療、穿孔性腹膜炎・イレウス・急性虫垂炎・急性胆嚢炎など急性腹症の積極的受け入れと緊急手術の実施など、近隣医療機関や当院各科と連携し、地域のニーズに応えられるよう努めた。年々手術症例は高齢化しているが、85才以上の超高齢者に対しても安全に手術を行っている。地域連携を通して横浜市立大学附属市民医療センターや横浜市立市民病院などでの急性期治療を終えた患者の入院受け入れを積極的しており効率的な病床の利用を行った。

2023年度は昨年度に引き続き6人体制で診療を継続している。今後は手術件数の増加に対応できるよう、医療機関の要望に応えられる状況をつくることを目標に努力したい。

#### ○消化器悪性腫瘍の集学的治療

胃癌、結腸直腸癌、肝癌、膵癌、胆道癌などに対し、1.手術治療、2.化学療法（外来化学療法を含む）を軸として積極的に治癒を目指して治療している。低侵襲と考えられる腹腔鏡下手術（結腸直腸切除術、胃切除術）も積極的に採用している。一方、大腸癌イレウスなど準緊急手術を要する症例に対しても消化器内科との連携により安全に根治性を保つ治療（ステント留置など先行し待機手術へ）を行うなど、病

状に応じて患者のニーズに幅広く対応している。

肝細胞癌・転移性肝癌に対する肝切除術、胆膵領域がんの膵切除術など高難易度の治療を安全に施行した。栄養管理や術前からリハビリテーションを積極的に導入するなどにより、超高齢者における大手術も安全に施行している。

#### ○一般外科領域の手術

腹腔鏡下虫垂切除術や、急性胆嚢炎に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術、腹腔鏡下ヘルニア手術等、鏡視下手術の比率が上昇した。

#### ○「National Clinical Database」(NCD) への手術症例登録

2011年1月から運用された外科系の専門医制度と連携したデータベース事業「National Clinical Database」に継続参加している。

### 実績

#### ○2023年度の主な手術実績

胃癌	11例
結腸癌	41例
直腸癌	8例
肝切除術	4例
膵手術（膵頭十二指腸切除など）	4例
胆石症	86例
虫垂炎	34例
腹膜炎（穿孔性など）	7例
腸閉塞手術	8例
ヘルニア	82例

#### ○2023年度の化学療法実績

2023年度は胃癌、大腸癌、膵癌、胆道癌の各疾患に対して入院化学療法 55件、外来化学療法 365件を実施した。

## 乳腺科（乳腺センター）

センター長：徳田 裕

### 人員構成

乳腺センター長 徳田 裕（1978年）  
乳腺科部長 龍 みなみ（1994年）

### 業務内容

当科は乳腺の悪性疾患から乳腺症、乳腺炎、乳腺膿瘍、乳腺線維腺腫、葉状腫瘍、女性化乳房症などの良性疾患まで対応し、乳がんを中心に診療している。特に、初回の受診時にマンモグラフィ・乳房超音波検査、必要に応じて受診当日に細胞診や組織診を実施し迅速な診断を行ってきた。また、遺伝カウンセリング外来を設置し、東海大学医学部遺伝子診療科と連携するとともに、BRCA1/2 遺伝子検査の実施施設の認定を受けている。さらに、コニカミノルタ株式会社と共同の遺伝性腫瘍多遺伝子パネル検査の実施委託施設である。

乳がんを発症した症例については、標準的な乳房部分切除術、乳房切除術、腋窩リンパ節郭清術、センチネルリンパ節生検、一期的乳房再建術が実施可能である。また、術後の再発予防のための薬物療法や進行・再発症例での薬物療法も実施している。さらに、BRCA1/2 陽性症例でのリスク低減乳房切除、両側卵巣切除も連携している東海大学医学部付属病院で実施可能となっている。

### 2023年度総括

#### 乳腺セカンドオピニオン外来

2020年度より、セカンドオピニオン外来を毎週木曜日午後、完全予約制にて開始した。予約の窓口はすべて地域医療連携室に集約し、あらかじめ紹介状、画像等の資料を入手し担当医に提示したうえで予約日時を決定し依頼者に返信する。また、受診の同意書、費用に関する覚書も作成した。2023年度は、受診者は5名であった。

#### 遺伝カウンセリング外来

がんゲノム医療拠点病院である東海大学医学部付属病院遺伝子診療科と連携するとともに、同科所属の臨床遺伝専門医高橋千果先生を非常勤医師として招請し、遺伝カウンセリング外来を実施している。

遺伝子検査の同意説明文書の作成、医療スタッフ育成のための勉強会等を実施し、BRCA 検査の保険適応のための施設認定を獲得した。2023年度のBRCA1/2 検査数は44例であった。

#### センチネルリンパ節生検用RI注射の依頼

センチネルリンパ節生検実施症例数の増加にともない、新たにみなと赤十字病院にRI注射を委託し、本格的に運用を開始した。2023年度の症例数は、市大センター病院24例みなと赤十字病院16例であった。

#### ステレオマンモトーム生検

マンモグラフィで発見されたカテゴリ3以上の微細石灰化巣に対するステレオマンモトーム生検を2020年2月13日より開始し、第2、4火曜日午後各2例の予約で継続している。2023年度の実績は41例実施し、悪性7例であった。

### 実績

2023年度の主な治療実績（2023年4月1日 - 2024年3月31日）

乳がん手術症例	49例
乳房部分切除術	41例
センチネルリンパ節生検	41例
腋窩リンパ節郭清	0例
乳房切除術	8例
センチネルリンパ節生検	8例
腋窩リンパ節郭清	0例

## 呼吸器外科

部長：竹内 健

### 人員構成

病院長 大内 基史（1987年）  
部長 竹内 健（1996年）

### 2023年度総括

呼吸器外科では、主に当科領域の手術と肺癌に対する抗癌剤治療と地域医療に貢献する医療を行っている。

①手術の特徴としては、肺癌では2019年から始めた胸腔鏡孔式手術（4～5cm切開創のみ）を中心に低侵襲の胸腔鏡の手術を行っている。手術の流れとして、胸腔鏡手術でスタートし、肺部分切除を行い、術中迅速診断、肺がんであった場合には、肺葉切除へ移行している。さらに抗がん剤治療に関して、積極的に免疫チェックポイント阻害剤を含めた抗がん剤治療を行っている。また当科では、疾患別特徴として非結核性抗酸菌症（NTM）や肺アスペルギルス症の手術を得意として近隣医療機関のみならず、遠方の医療機関からの紹介を得ている。なお、両側NTMに対して正中切開を用いた同時両側（一期的）手術を行っている。

2024年度は、人員減少に伴い手術症例は減少傾向であったが、基本的に全ての術式に関して胸腔鏡を用いた侵襲の少ない術式へ変更となっている。

②地域医療に貢献する方法として、高齢者肺炎の入院治療から在宅調整など往診医や近隣開業医から紹介され入院治療を行っている。

2023年以降も地域医療面では、高齢者肺炎ばかりではなく新型コロナウイルス肺炎後器質化肺炎の患者を受け入れ退院させることができている。

### 実績

手術：全57例

胸腔鏡手術 13例（単孔式肺癌手術 2例）

非結核性抗酸菌手術 6例（両側同時手術3例）

肺アスペルギルス症 5例

①抗癌剤 件数

化学療法 70件（内訳 37件免疫チェックポイント阻害剤）

②地域医療

在宅医療からの入院治療 12例

転院からの入院治療 13例

## 整形外科

部長：天野 景治

### 人員構成

部長	天野 景治 (1993年)
部長	竹下 宗徳 (2003年)
主任医長	山田 寛明 (1997年)
主任医長	大田 光俊 (2006年)
医長	横谷 純子 (2000年)
医員	小松 駿介 (2020年)
医員	小澤 元 (2021年)
医員	鈴木隆太郎 (2021年)
医員	八田 宗粹 (2021年)

### 2023年度総括

整形外科は従来から千葉大学整形外科の関連病院であったが、2019年度より北里大学整形外科も加わった。

千葉大学からは専攻医小澤が4月から7月まで、鈴木が8月から12月まで、八田が12月から翌3月までそれぞれ4ヶ月ずつ派遣され、在籍した。北里大学整形外科からは専攻医1名小松が1年間派遣、在籍し、あわせて上記スタッフにて、外来、入院、手術といった診療にあたった。

- ・外来は月曜午前3診午後1診、火曜午前3診、水曜午前2診午後1診、木曜午前2診、金曜午前3診＋適宜専門外来。土曜日は第2、第4午前中1診にて診療。

肩専門外来（佐々木医師）が第2、第4、第5木曜日午前。手の外科専門外来（木内医師）概ね月1回土曜日に診療した。

- ・病棟は手術患者の周術期等メインには西2病棟で、緊急入院や保存治療入院は西1病棟をはじめとして他病棟も利用している。術後おちついた症例は東4病棟\_地域包括ケア病棟、東1病棟\_回復期リハビリテーション病棟へ転棟し、療養・リハビリテーション後退院している。

- ・手術について予定手術は、月曜日～木曜日、それ

に加えて金曜日に状況に応じて行った。股関節、膝関節の人工関節置換術、四肢の外傷、脊椎・骨盤の手術、そして手の外科手術、肩関節手術を行った。

### 実績

手術

整形外科手術総数：773件

脊椎：131件

上肢・手：89件 うち 人工肩関節6

下肢：152件

(うち、人工関節手術は人工関節センター項)

外傷：388件

その他：13件

## 関節外科

部長：竹下 宗徳

### 人員構成

人工関節センター長 関節外科部長  
竹下 宗徳 (2003年)

### 業務内容

生まれ育ちの地元に2016年赴任、2018年に人工関節センターを立ちあげた。股関節や膝・肩の変形性関節症などの変性疾患に対し、専門的・高度かつ最先端の人工関節手術を行う。

変形性股関節症では、どんな末期症例や肥満症例でも、最小侵襲手術（MIS）のうち一番侵襲が少ないとされる、股筋を一切切らない手術手技で人工股関節置換術（THA）を行っている。皮切は限界小皮切8mmで、これ以上小さい創（キズ）でTHAを行う医師は国内外にいない。最小侵襲手術手技（MIS）は従来式の手術手技よりも、明らかに患者の回復が早く満足度が上がる点が最大のメリットだが、それだけでなく、出血量や脱臼といった本来のリスクが少なくなる点もメリットであり、従来式のドレン留置が回避でき、自己血貯血や回収血も回避できた。

人工関節手術予定の待機患者は、常時数十名おられる一方で、早期手術要望に善処している。そのほぼ全例がご紹介頂いた患者である。また、当院で人工関節手術を行なった患者からの口コミでの御希望が多いのも特徴である。

手術メインのセンターだが、保存治療の最先端の治療として、国の厳しい基準をクリアした再生医療も変形性関節症に対して行っている。膝だけでなく当院のような股関節にも再生医療可能な医療機関は全国的に未だ少ない。

骨粗鬆症リエゾンサービス（OLS）の運用も当科の特徴であり、大腿骨近位骨折や骨粗鬆症性椎体骨折の入院患者に、医師・薬剤師・MSW・看護師・リハ・放射線技師・管理栄養士・地域連携といった院内多職種がそれぞれの立場から熱く介入し、二次

骨折を防ぐ取り組みである。2022年度診療報酬改定で二次性骨折予防継続管理料がようやく導入され追い風が吹いた。横浜市内では3病院のみの運用であり、院内多職種の熱心さと堅実さを物語る誇らしいワンチームといえる。年々次の目標を設定し拡大している。

当科は国立横浜東病院だった時代から長年、現在も、千葉大整形医局の専門研修連携施設である。2019年からは千葉大と北里大の2つの整形医局の専門研修連携施設となった。

2023年、千葉大整形からは小澤医師、鈴木医師、八田医師が赴任し、北里大整形からは小松医師が赴任した。

2023年当院で初期研修を行った黒田医師は北里大整形へ入局した。

### 2023年度総括

手術への闘魂注入は当然のこと、加えて、常に人情深く、手術患者の満足度・ご家族の満足度・紹介元の満足度などを高く維持したい。院内多職種の熱い気持ちが通いあうこともその満足度につながる。関係者に感謝する。

「聖隷横浜で先生の人工関節手術を受けて本当によかった。いい先生と病院の皆さんに出会え色々良くして貰った。家族も医院の先生も喜んでる」という患者の嬉しい生の声を今後も聞けるよう、大事な、大好きな院内多職種の仲間と連携し、翌年もワンチームで精進し、整形そして病院全体を盛り上げ、聖隷ファンを増やしたい。

### 実績

人工股関節置換術THA(骨折症例含めず変性疾患のみ)	108例
人工膝関節置換術TKA・UKA	36例
人工骨頭置換術	34例
リバース型人工肩関節置換術	7例
HTO	2例
人工股関節再置換術	1例

## 泌尿器科

部長：波多野 孝史

### 人員構成

部長 波多野 孝史 (1987年)

### 業務内容

常勤医師1名、非常勤医師4名が診療に従事している。

外来診療：毎日終日診療を行っている。

手術：水曜日午後、金曜日午前

オンライン診療：火曜日午前

排尿ケアチームラウンド：金曜日午後

検査：尿路内視鏡検査、造影検査、エコー検査、ウロダイナミック検査を毎日行っている。

### 2023年度総括

#### ①排尿ケアチーム活動開始

2023年5月より院内における自立排尿を支援する排尿ケアチーム活動を開始した。その設立に際し、4月に全職員を対象とした勉強会を開催した。さらに排尿自立支援に関する手引きやマニュアルを作成し、6月より排尿自立支援加算を取得した。

現在泌尿器科医師、WOC看護師、排尿自立支援講習修了看護師、理学療法士らが毎週院内ラウンドを実践している。排尿ケアチームは排尿障害を有する患者に対して、病棟スタッフと合同カンファレンスを行い、患者の排尿自立に向けた問題点を共有し、改善策を立案、実行している。月に1回排尿ケアチーム運営委員会を開催し、治療介入した患者の振り返りを行っている。

2023年度は延べ261名の入院患者に対して排尿自立支援指導加算を算定した。加えて2024年2月より、外来患者排尿自立支援も開始した。これにより入院から退院後の外来通院においても、切れ目のない排尿自立支援を行っている。

排尿ケアチーム勉強会

2023年4月26日 「排尿ケアチームについて」 大

会議室

2023年10月27日 「排尿ケアチームがやってきた活用してみたら、、、」 大会議室



排尿ケアチームカンファレンスの様子

#### ②診療の特徴

当科常勤医は1名であるが、悪性腫瘍に対する治療を重点的に行い、手術、化学療法、免疫療法等の集学的治療も行っている。

また泌尿器領域における遺伝性疾患として結節性硬化症 (TSC)、常染色体優性多発性嚢胞腎 (ADPKD)、フォン・ヒッペル・リンドウ (VHL) 病、リンチ症候群、遺伝性前立腺癌の診断、治療および遺伝カウンセリングを積極的に行っている。

### 実績

平均外来患者数：28人

平均入院患者数：6人

手術名	2021年	2022年	2023年
経尿道的膀胱腫瘍切除術	29	28	17
経尿道的止血術	3	2	1
経皮的腎瘻造設術	4	4	1
経皮的膀胱瘻造設術	2	1	0
尿管ステント留置術	19	30	27
尿管拡張術	0	2	0
膀胱結石破砕術	0	2	1
精巣水腫根治術	0	1	0
尿道狭窄切開拡張術	4	3	0
尿道腫瘍切除術	0	0	1
環状切除術	3	2	4
経直腸前立腺針生検	44	47	62

## 麻酔科・ペインクリニック・緩和ケア

部長：木下 真弓

### 人員構成

麻酔科部長	手術室長	木下 真弓 (1987年)
主任医長		千葉 桃子 (1990年)
医長		佐藤 理恵 (2000年)
医長		桑原 沙代子 (2011年)
医員		山田 淳子 (2006年)
医員		黒木 洋子 (2007年)
医員		村田 志乃 (2008年)

### 2023年度総括

**特色：**当院の麻酔科は手術麻酔、ペインクリニック、緩和医療の3本立てで業務を行っている。日本麻酔科学会認定病院・日本ペインクリニック学会指定研修施設・日本緩和医療学会認定研修施設である。

**1. 手術麻酔：**手術中の全身管理と痛みのマネジメントを専門に行っている。手術の内容や患者の術前の状態を術前診察（術前外来）で把握し、個々の患者に適切な麻酔方法、麻酔薬を選択し、安心して手術を受けていただくように説明を行っている。PCA (patient control analgesia) 法、手術前にエコーを使った伝達麻酔（体幹ブロック、下肢ブロックの単回ブロックやカテーテル留置など）硬膜外麻酔などを細心の注意を払い、施行している。手術件数としては耳鼻科症例の減少で手術件数全体の件数が減少を続けている。

**2. ペインクリニック：**「痛み」を専門に治療しており、帯状疱疹後神経痛や三叉神経痛などの各種神経痛や整形外科疾患による痛み、がんやCRPS、原因のはっきりしない痛みなど痛み全般の治療を行っている。ペインクリニック外来は月曜～金曜日まで午前午後通じて外来を行っている。新患外来は週4日火・水・木・金、週2日火・木午前に透視下ブロックを予定している。また、緩和ケア病棟の患者にも疼痛コントロールのために腹腔神経叢ブロック、硬膜外ポート埋め込み術、脊髄神経刺激装置埋め込み術等を行っている。NTT関東病院ペインクリニック科で研鑽を積んだ先生が入られ、診療内容が幅広くなってきている。耳鼻科の突発性難聴の入院の減少により星状神経節ブロックの減少となっている。

**3. 緩和ケア：**ペインクリニック外来の場所で緩和ケア外来を月曜日から金曜日まで患者本人の化学療法日や当該科の診察日に合わせて来院していただき、がんの治療時期の早い遅いに関わらず、症状緩和を行っている。がんおよび非がん（呼吸不全、腎不全、心不全等）が対象である。入棟外来は毎日月曜日から金曜日の午後に行い、急性期病棟患者の症状緩和やスピニチュアルペインなどの治療も行っている。痛みや呼吸困難などの症状緩和を積極的に行っており、他院からの受け入れも行っている。2020年8月より開棟した緩和ケア病棟の運営も麻酔科で行っている。運営は順調で、在宅支援、退院支援、在宅療養調整、外来でのサポートなどにより患者の望む療養支援の役割を担っている。特に新型コロナ感染拡大が生じて、感染防御をしっかりと行うことで面会は途切れることなく行うことができた。最期の時を家族と一緒に過ごす事の重要性を感じている。ただし、入院時に新型コロナウイルス感染症の検査を行い、感染力がある場合には残念ながら緩和ケア病棟ではなく、感染病棟での入院となる。他の方への感染に配慮した結果であることをご理解いただきたい。

### 実績

#### 麻酔科手術件数

	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
手術件数	2,333	2,471	2,130	1,640	2,009
麻酔科管理症例	1,309	1,445	1,270	1,103	1,220

## 麻酔科入院患者数（2023年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
入院	29	25	30	28	24	25	27	25	22	26	24	25	310	25.8

## 麻酔科緩和ケア入棟外来

緩和ケア入棟外来	2023年度	2022年度
人数	400	476

## 麻酔科外来神経ブロック

外来神経ブロック	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度
星状神経節ブロック	30	166	155	352	417	250
胸部硬膜外ブロック	0	0	17	9	1	1
眼窩上神経ブロック	7	19	22	12	30	57
眼窩下神経ブロック	27	15	22	4	4	16
おとがい神経ブロック	5	9	9	2	3	4
大腿神経ブロック	0	0	0	1	3	2
肩甲上神経ブロック	4	14	20	6	3	2
肋間神経ブロック	70	141	123	130	146	154
仙骨部硬膜外ブロック	60	71	104	127	163	163
腕神経叢ブロック	124	71	82	67	78	90
腰部硬膜外ブロック	217	212	246	328	283	237
胸部硬膜外ブロック	1	1	0	0	0	0
肩甲骨神経ブロック	2	4	2	3	14	10
浅頸神経叢ブロック	29	44	51	38	32	50
椎間関節ブロック	187	137	104	82	169	152
トリガーポイント注射	347	274	287	300	475	646
硬膜外ブロック持続注入	8	5	98	6	16	12
腓骨神経ブロック	0	0	0	1	2	0
後頭神経ブロック	3	1	4	1	0	0
仙腸関節枝神経ブロック	10	6	0	2	0	0
関節腔内ブロック	19	2	0	0	0	0
経仙骨孔神経ブロック	2	0	0	0	0	0
坐骨神経ブロック	0	0	0	0	1	0
三叉神経ブロック高周波熱凝固神経破壊薬	0	0	10	0	0	0
合計	1,152	1,192	1,356	1,471	1,840	1,846

## 麻酔科透視下ブロック

部位	透視下ブロック	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度
頸部	硬膜外洗浄（頸部）	1	0	0	3	0	0
	神経根パルス（頸部）	10	8	10	4	14	7
	C2ガングリオンブロック	0	0	0	0	1	0
	神経根ブロック（頸部）	2	5	7	11	5	10
胸部	神経根パルス（胸部）	15	6	7	16	14	7
	神経根ブロック（胸部）	9	19	13	19	20	14
	持続硬膜外カテーテル挿入	1	0	1	0	0	0
腰部	腰交サーモ	0	0	0	1	0	0
	神経根パルス（腰部）	32	42	43	49	44	37
	神経根ブロック（腰部）	16	17	21	18	25	15
	椎間関節サーモ（腰部）	1	1	0	1	0	0
	椎間関節ブロック（腰）	11	9	5	6	7	3
	硬膜外洗浄（腰部）	1	0	0	0	1	0
	脊髄刺激装置埋め込み術	0	0	1	0	1	0
	脊髄刺激装置トライアル	2	1	1	1	0	0
	仙腸関節ブロック	0	2	3	0	0	0
	硬膜外カテーテル埋め込み術	0	0	3	0	0	0
腰部持続硬膜外カテーテル	3	0	4	0	0	0	
合計		104	110	119	129	132	93

## 小児科

主任医長：北村 勝彦

### 人員構成

主任医長 北村 勝彦（1982年）

### 2023年度総括

新型コロナウイルス感染症の度重なる流行が小児科医療に大きな構造的変化をもたらしている。従来の武漢株からオミクロン株に変異しその変異速度が早まるにつれ感染性が強くなり、加えて小児へのワクチン接種率が異常に低いことから感染流行の波が小児科にも押し寄せた2022年の傾向は2023年にも引き継がれ発熱外来を訪れる小児患者が増え、小児科も発熱外来と通常外来を行き来する多忙な年度であった。

2022年から小児慢性疾患とくにアレルギー性疾患の需要は増え続け、月2回開設されている小児アレルギー外来受診者は毎回10人以上となり時間内の診療が困難で受診を希望してもなかなか予約が取れないというクレームも聞かれるほどである。新型コロナウイルス感染によるアレルギー免疫系への影響も報告されており、今後アレルギー疾患への需要は増えると考ええる。

新型コロナウイルス感染の後遺症と疑われる小児心身症受診も増加しており不定愁訴を訴える初診患者の受診も後を絶たない。小児科領域の心身症専門医が圧倒的に不足している現状では当院のような小回りのきく検査診断体制を有した小児科は大変貴重な存在となるため、保土ヶ谷区以外の市内各地から

も心身症、発達障害疑いの患児が訪れる。当科では特に夜尿症への啓蒙を従来から行っており、一定数の初診患者が訪れる。

小児科の経営上の寄与が低いことは全国的な傾向であるが、そうした点を補う意味で当科は新型コロナワクチン市民接種に協力し現在までに延べ15000人を超える地域住民や職員、その家族に対して接種を行ってきた。この点は実績には可視化されていないものの、当科による地域医療への貢献と自負している。この市民接種には接種直後の副反応に対するアレルギー内科、救急科のサポートが大変力強かったことを付記する。

新型コロナウイルス感染症の度重なる流行とその対応の変化の中で小児疾患もその疾病構造は大きく変化している。2023年度後半からのインフルエンザやRSVの異常な流行は乳幼児、児童生徒への大きな肉体的負担となり、さらには親たち世代へも健康面、経済面でも大きな負担増加となっている。また、新型コロナウイルス感染後遺症への対応や心身症への対応なども当院小児科に求められるものと考ええる。今後こうした点に注目して外来体制を立て直していくつもりである。当科は常勤医師1名であることから入院対応は行っていないため、横浜市立大学附属市民総合医療センター、横浜市立市民病院、横浜みなと赤十字病院、県立こども医療センターなどのご協力を得て入院対応を行っている。

なお、2024年5月より当科が園医を担当している院内保育園（ひだまり保育園）において病児保育を開設した。執筆時点（7月31日）までに延べ4名の職員の子供が利用している。こうしたことで職員が安心して職務に専念でき、さらに当院への子育て中の職員確保に寄与しうると考える。

### 実績

年度別診療科別年間外来患者数

診療科	年度	2018	2019	2020	2021	2022
小児科		5,093	4,387	2,333	2,347	2,811

年度別診療科別1日平均外来患者数

診療科	年度	2018	2019	2020	2021	2022
小児科		17.5	15.6	8.7	8.8	10.6

---

---

## 眼科

主任医長 榮木 尚子

---

---

### 人員構成

主任医長 榮木 尚子 (1997年)  
医長 原田 里美 (2012年)  
医員 露木 文 (2012年)

### 概要

当院眼科では地域に根ざした幅広い診療を行っています。当科の医師は横浜市立大学医学部眼科に属しており、大学病院とも連携し必要に応じて専門医に紹介を行っている。

#### ・一般外来

当院眼科では白内障手術を中心とした診療を行うとともに、結膜炎などの前眼部疾患、緑内障、糖尿病網膜症など幅広い診療を行っている

#### ・白内障手術について

毎週火曜日に白内障手術を行っている。入院は片眼で1泊2日を基本に行い、患者の希望によっては3泊4日まで対応が可能である。全身状態がよい方は、日帰り白内障手術の対応もでき、手術は約1ヶ月以内にはほぼ予定できる状況となっている。

### 2023年度総括

超音波白内障手術装置（センチリオン）が新しくなった事により、さらに安全・正確に手術を行うことが可能となった。

## 放射線診断科

部長：新美 浩

### 人員構成

副院長 兼 部長	新美 浩 (1985年)
主任医長	石川 牧子 (1990年)
主任医長	宮川 天志 (2011年)

### 概要

- 当科は画像診断専門医による画像診断や臨床各科とのコンサルティングを主とする診療科で、特に地域医療機関との連携やモダリティの相互利用に最も注力していることを特色とする
- 日本医学放射線学会・放射線科専門医修練機関（画像診断・IVR部門）
- 画像診断管理加算2、及び冠動脈CT、心臓MRI施設基準、乳房MRI施設基準
- 聖マリアンナ医科大学放射線医学講座 教育関連病院

### 2023年度総括

1. 2023年度の診療体制は、引き続き常勤医3名と非常勤医9名で、月間合計約2100～2200件のCT・MRI検査の約90%の迅速読影とコンサルティングに対応し、画像診断管理加算2の体制を維持した。

2023年度も非常勤医の派遣体制は引き続き、聖マリアンナ医科大学病院及び同横浜市西部病院放射線科から、及び医局出身者が主体である。

2. 地域医療機関から依頼された全てのCT・MRI検査の読影診断を行い、地域の画像診断基幹施設の一つとして貢献している。

画像診断の紹介数は、今年度はコロナ禍の影響による患者数減少からの明瞭な回復を認めている。2023年度の月間紹介件数はCTとMRIの合計約220件で、CTはコロナ禍以前より増加、MRIはコロナ禍以前と同等の水準に達している。

3. 2017年にオンラインでの画像検査予約と画像レ

ポート閲覧のシステム導入を行い、利用医療機関も順調に増加している。23年度現在、地域医療機関とのオンライン接続は21医療機関に達している。今後はさらに幅広い地域医療機関とのオンライン連携を強化していく。

4. 2019年に超高精細CTの導入（Precision）と3テスラMRIの増設を行い、外来診療は256スライスCTと160列の超高分解能CT、及び2019年時最新型の3TMRIによる三台体制で診療を行っている。さらに2023年度には、待望の256スライスCTの更新を行い、従来通りの冠動脈CT撮影が可能な dual energy CT の導入を行い（Philips Spectral CT 7500）、整形外科領域、心臓大血管領域、救急領域など様々な疾患の診断精度を向上させた。

5. 超高精細CTは160列のマルチスライスCTであるが、解像度、空間分解能が従来CTに比して飛躍的に向上し、特に肺・縦隔や腹部骨盤領域を中心に種々の臓器で極めて高精細な画像が得られるほか、一部の領域でAIを利用した再構成が導入され、特に低被ばく撮影時における高画質の画像再構成に力を発揮している。

6. 最近5年間、特に3年間の画像診断実績推移（表）をみると、CT検査MRI検査ともに検査総数はコロナ禍を経て昨年度より既に回復基調を認め、今年度は紹介患者数も回復基調を認め、特にCTはコロナ禍以前より増加している。

当院ではコロナ禍でも一般診療の縮小は行わず、厳密な感染対策を行い急性期診療の最大限の診療体制提供を維持してきた。しかし、紹介患者数は紹介元の地域医療機関の患者数回復遅延などの影響が大きく、昨年度は減少から回復しなかった。

今後は、コロナ禍回復後の本格的な需要増加を見据え、地域医療機関との連携強化を前提とした様々な施策を考え、迅速に実行していく必要があると考える。

## 実績

最近5年間の推移（2019 - 2023）

		2019年 月平均	2020年 月平均	2021年 月平均	2022年 月平均	2023年 月平均	対前年度比(%) 2023/2022
一般撮影	件数	4,280	3,505	3,999	4,002	4,029	△0.7
造影	件数	115	127	144	140	134	▼4.3
CT	件数	1,541	1,742	1,831	1,617	1,637	△1.2
	紹介件数	165	172	159	159	204	△28.3
	心臓CT	88	92	79	73	76	△4.1
	造影率	22.30%	18.00%	16.60%	20.80%	21.00%	△1.0
	紹介率	10.70%	9.90%	8.70%	9.80%	12.50%	△27.6
MRI	件数	568	531	549	530	513	▼3.2
	紹介件数	18	17	15	14	18	△28.6
	心臓MRI	3	4	4	5	5	△0.0
	造影率	5.20%	5.10%	5.00%	5.20%	5.40%	△3.8
	紹介率	3.20%	3.20%	2.80%	2.70%	3.50%	△29.6

## 救急科(ER) / キズ・やけど外来

部長：入江 康仁

### 人員構成

部長 入江 康仁 (2008年)

### 2023年度総括

2023年度はSARS-CoV2感染症の猛威が軽減するとともに、一般急病者の受け入れが多くなり、年間救急車受け入れ台数は4484台（うち入院件数：1602例）となった。救急科単独での平均患者数は6.3人/日、平均在院日数は15.1日であった。

入院症例の内訳は、高齢者の方の搬送が増加している。社会背景が複雑な症例もあり、救急搬送とともに医療ソーシャルワーカーの方々の協力を得て、地域の福祉関係の方とのコミュニケーションを依頼する症例も多い。さらに入院の契機となった救急疾患が治癒してもご帰宅できない症例が散見される状況が続いている。このような退院困難な症例は院内の地域包括ケア病棟に転棟するとともに内科医師が治療に当たる体制が構築され、また繁忙期となると外科にも状態の安定した患者を転科させるなどの処置を行うことで、救急科としての慢性期医療に対する仕事量の軽減を図っている。また本年から総合診療科ができ、急性期の入院対応振り分けなどを協力し合い、また高齢者の内科疾患による入院が短期間に重なった際には、一般内科にも振り分けをするシステムを構築するなど、救急車受け入れのハードルを下げるよう努力している。

研修医教育に関しては患者のバイタルを安定化しながら、身体所見をしっかりとることを重視しつつ、当院の診断機器を駆使して診断する方法を教授している。当院は診断機器に恵まれているため画像診断に頼る傾向が生じてしまうが、今後の医師としての成長のため診断機器がない医療施設でも対応できるよう病態把握や身体所見をしっかりと取りながら患者の重症度、緊急性を判断するよう努めている。研修医には画像は身体所見などの答え合わせのつもりで検査を行うように指導を行った。また、不定期では

あるが、研修医対象の教育セミナーを4回開催して、特にERでの判断に必要な知識スキルを講義した。

当院に救急搬送された重症症例に関しては当院で提供できる医療は当院で行い、対応困難な疾患に関しては当院で診断を行ったうえでより高次の施設に依頼する形をとっている。2023年度も高次医療機関の医療体制は逼迫しているが、急性期を乗り切った患者を高次医療機関から積極的に受け入れるなど良好な関係構築を図っている。（転院搬送先例：横浜市立みなと赤十字病院、横浜市立市民病院、横浜市立大学市民総合医療センター、聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院、済生会横浜市南部病院、横浜労災病院）

当院は輪番病院であるが、輪番日は積極的に救急患者を受け入れる方針の一方で、発熱患者のベッド確保が困難であった、吐下血の緊急処置対応ができないことなどから、受け入れができなかった救急要請があり、今後の課題となろう。

対外的には横浜市消防局を対象に救急セミナーを開催して、当院における創傷・熱傷治療の現状と、治療に必要な知識を共有し、横浜市内でも対応が限られると思われる熱傷患者搬送の解決策としての当院の意義を説明した。また、救急医学会学術集會はもちろんのこと、関連学会に積極的に参加、発表、教育講演などを行い、学術活動も積極的に行った。ただ、本年は論文作成を行うには至らなかった。

### 2024年への展望

2次病院としての救急科の在り方として、単に救急疾患を見るだけでなく、総合診療的な要素を取り入れ、救急総合診療としての体制を整えていく。

輪番病院であるため、夜間も日勤帯と同様の受け入れ体制を維持することはできないが、聖マリアンナ医科大学救急医学講座からの重厚なサポート体制の下、日勤帯の受け入れ率の増加を目指す。また働き方改革の影響で、勤務時間の制限がある中、16時以降の受け入れが厳しくなってくるが、できるだけ受け入れをできるよう努力する。

また、いわゆるレスパイト入院となる患者受け入れも積極的に行っていき、地域包括ケア病棟への直接入院率を増加させるようにする。

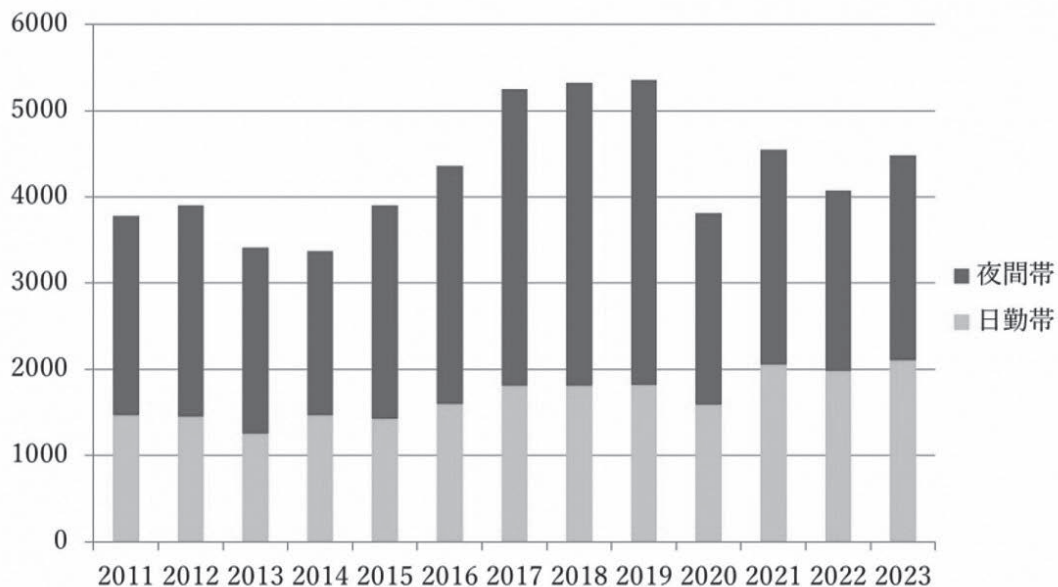
キズ・やけど外来での外傷後のfollowも当科で行っていくことで、夜間外科当直医の負担軽減にも貢献する。

当科の入院期間は入院後の診療・精査を順次行っていくことで、転科後の各専門化科や慢性期医療を担う科に負担軽減を図りつつ、短縮を心がけていく。

また、学術的な業績も対外・対内向けに発信していけるよう、学術集会への参加、発表、論文執筆などを積極的に行っていく。

研修医教育に関しても、働き方改革で制限を受けることになるが、できるだけかわりを持ち、また彼らにも医師としての基本的な医療者としての気質、態度を身につけてもらえるように心がけていく。

## 実績



## 漢方科

入江 康仁

### 人員構成

部長 入江 康仁 (2008年)

### 2023年度総括

2023年5月15日より、当院初の漢方専門外来を開設した。救急科（ER）と並行した診療を行っているため、月曜日午後のみとなっている。

豊富な専門科・専門外来がある現代においても、西洋医学的に診断に至らない症状や、治療に難渋するケースが数多く存在する。所見上では異常がみられないが症状が継続している、治療を行っているのに症状が緩和されないなど、具体的には、のぼせ、ほてり、冷え症、生理痛、湿疹、めまい・頭痛、神経痛、倦怠感、慢性下痢、便秘症、打撲傷・骨折痛、慢性気管支炎、頻尿・排尿困難、咽頭違和感等の症状に対して、救急総合診療を基盤とした西洋医学と東洋医学を合わせた診療を行う専門外来である。当外来は漢方エキス剤を用いた保険診療を行っており、湯薬治療は行っていない。

2023年度は当初はその認知度が低かったこともあり、しばらく患者の来なかった時期もあったが、6月以降は主に院内紹介を介して患者が増えていき、初診患者46人、のべ患者数は156人となった。

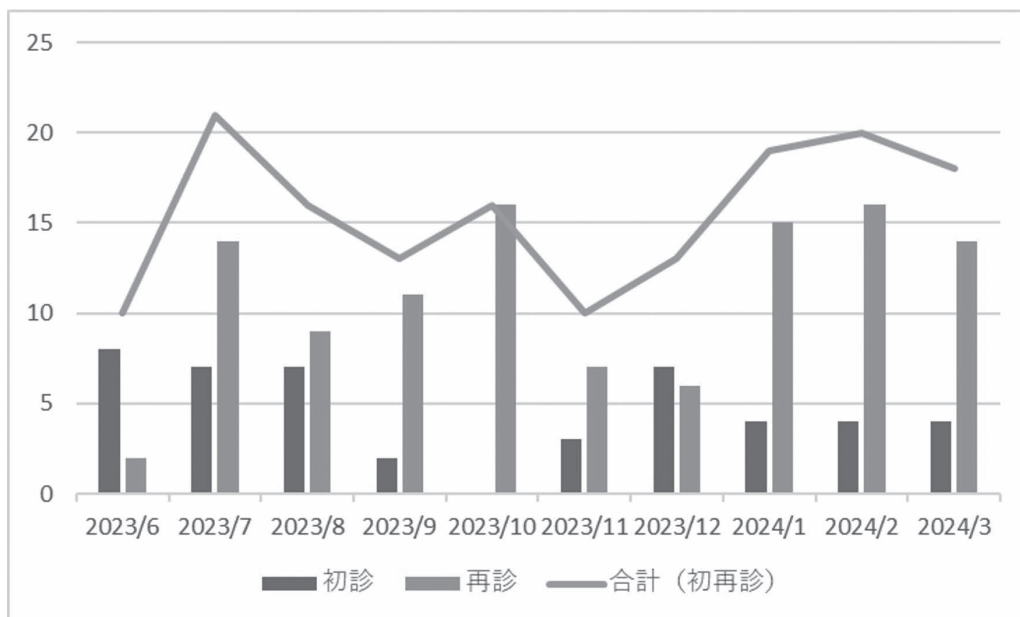
また対外的には市民公開講座にて講演を行い、当科の特徴や対象疾患・症状の認識を新たにしていただき、その後公開講座を聴講して受診をされた方もおり、一定の効果があったと思われる。さらに、東洋医学会学術集会はもちろんのこと、関連学会に積極的に参加、発表、教育講演などを行い、学術活動も積極的に行った。ただ、本年は論文作成を行うには至らなかった。

### 2024年への展望

当院は教育関連施設にもなっていない状況であり、5年後を見据えて実績を上げていきたいと考えている。そのためには、いま以上に外来患者を増やしていくと共に、院内の宣伝活動や勉強会を開催しつつ、スタッフの中で「漢方外来で何か解決できるかも」と思ってもらえることで、患者と当科の連携を繋げることができるようになることは、現実的な路線となろうと考えている。

また、院内外向けの勉強会を定期的で開催することで、院外からの患者獲得にも貢献したいと思う。

### 実績



# リハビリテーション科

部長：内川 研

## 人員構成

部長 内川 研（1992年）

## 2023年度総括

### 患者数の増加

2023年4月に赴任後、脳神経外科と協力体制を取り、脳神経外科に入院中の患者でリハビリテーションの適応がある患者を回復期リハ病棟に転科転棟し、主治医としてリハビリテーション治療及び全身管理

を行なった。また横浜市民病院、横浜市立大学市民総合医療センターなどの外部の病院からリハビリテーション目的の紹介患者の受け入れを行なった。

これらにより赴任前より回復期リハ病棟における脳血管疾患の入院患者の割合が増加した。

### 2) 治療の質の向上

着任時、訓練用の下肢装具の種類が乏しい状態であったため、最低限の短下肢装具を揃え入院患者の訓練に活用した。義肢装具士の協力により装具外来を毎週行い、新規作製、修理などを行なった。また理学療法士に短下肢装具の適切な使用法につき指導した。

従来の嚥下造影は非常勤の耳鼻科医が施行していたが、病棟で必要がある患者に対して適宜嚥下造影が可能となり誤嚥性肺炎のリスクを低下させた。

## 実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
リハ科平均患者数	11	11	13	15	15	16	16	12	12	14	13	13
新規転院・転棟	1	1	7	6	6	5	5	5	9	7	3	4

## 病理診断科

部長：末松 直美

### 人員構成

病理専門医研修指導医	末松 直美 (1978年)
臨床検査技師	日比野 智博 (2010年) 2013年 細胞検査士 2016年 二級病理検査士
	牧田 佳奈 (2019年) 2021年 二級病理検査士
	上野 貴博 (2021年)
	門田 華苗 (2023年)
医師事務作業補助者	柴崎 修一 宇治野 綾香

### 概要

後継者としての病理診断医が必要な時期に来ているため、今年度は、希望者の面談を3回行った。ご本人に転職の意志があり、約束を取り付けても、所属施設からの退職が難航し、果たせない。病理診断医の絶対数が少ないこともその要因ではある。

臨床検査技師は、4人が互いの仕事に配慮しながら、良好な雰囲気で行っている。自身の将来のために種々の資格取得に努力されてほしい。医療事務作業補助者には、カンファレンスの準備、データ入力と解析など、病理診断科の要の仕事にも協力してもらっている。

### 2023年度総括

・後任の病理診断医の募集を続けているが、よい結果は得られていない。

・臨床検査技師の卒後資格として、日比野智博が日臨床の主催する認定病理検査技師の資格試験に挑戦した。牧田佳奈は、身体上の理由から細胞検査士資格取得を諦め、認定病理検査技師資格取得へと動き始めた。上野貴博と門田華苗は、二級病理検査士取得を目指す。

・2014年に病理標本作製を院内化するに当たって購入した機器も10年を超え、老朽化が進んでおり、ここ数年は、機器更新の時期が続くと予想される。

・「図1」に、2023年度の組織診件数、細胞診件数の四半期ごとの推移を折れ線グラフで示した。また比

較のため、過去3年の年度別四半期平均値を入れた。

・組織診は、コロナ禍後2021年度(451.0件)、2022年度(486.5件)と順調に回復していると思われたが、2023年度は、四半期平均が431.8件と大きく下回った。診療科別に検体数を検索すると、耳鼻科の縮小が大きく響いたようである。

・これに比べ、細胞診は、婦人科健診の検体が順調に伸びたこともあって、四半期平均380.3件と、2022年度(353.5件)をさらに大きく上回った。今年度は、全細胞診件数に占める婦人科系の件数の割合はほぼ60%である(58.9%(896件/1521件))。細胞検査士資格取得のための環境が整ってきているので、臨床検査技師には、是非挑戦してほしい。

・2019年3月から院内化された、遺伝子変異自動解析装置 i-densy による遺伝子検査は、2023年度も引き続き実施されている。

・「図2」には、2014年度からの遺伝子検査数の推移を示す。2023年度に院内で実施された遺伝子検査件数は RAS/BRAF:56(41)件、IDH1/2:2(2)件、UGT1A1:3(4)件で、計61(47)件である(カッコ内は昨年度値)。次世代シーケンサーによる遺伝子検査の集中化により、多くの項目を一括して外注せざるを得ない状況があり、このため、院内で実施できる遺伝子検査の件数は減少傾向であるが、必要とされている対象検体も存在することが了解される。

・「表1」に示すように、剖検症例は、今年度は7例と、昨年度より2例増加した。剖検は、医療を検証する唯一の手段であり、医療の現場にあってこそ、死亡例という負の結果から学ぶ姿勢を絶やすべきではない。今年度の数字が、増加への萌しであることを願う。

・「表2」は、今年度開催されたC.P.C.の一覧である。第129回C.P.C.から司会の労を執っていただいている小児科部長北村勝彦先生には、C.P.C.前の打ち合わせにも出席いただき初期研修生の指導、他科との連携、的確な助言を賜るなど、感謝している。

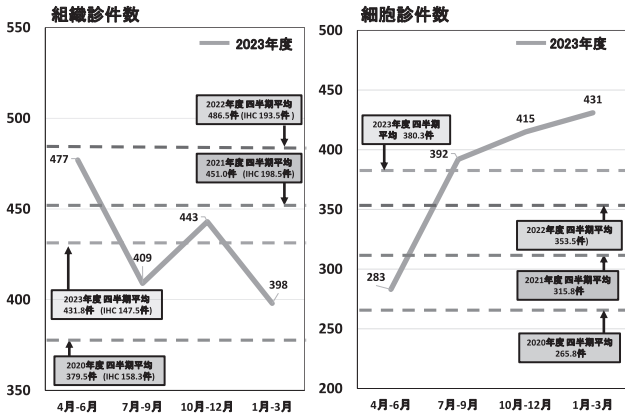
当院の剖検症例は、腫瘍死の症例が少なく、難しい症例が多く、学ぶところは多大である。

C.P.C.後の、ご遺族との面談も回を重ねるごとに、その持つ重みに感じ入るばかりである。

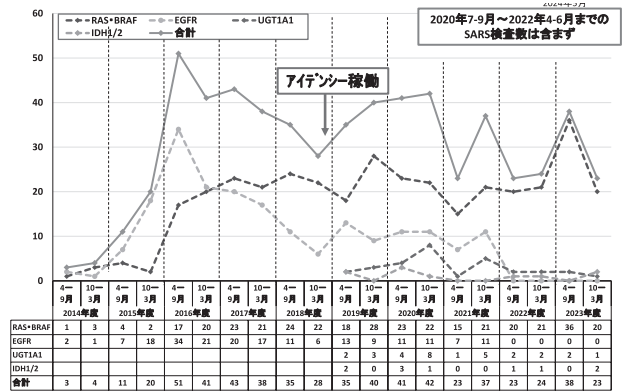
・「表3」には、病理診断科と臨床科とのカンファレンスの開催状況を記した。週もしくは隔週1回の頻度で、日々の症例に対し、臨床医との間で共通の認識を持ち、相互に連携して医療に当たることは大きな意味があると考えられる。

実績

[図1] 2023年度 四半期ごとの検体数の推移および過去3年間の四半期平均



[図2] 遺伝子検査件数の半年毎の推移



[表1] 2023年度 剖検症例一覧

剖検番号	死亡日	剖検月日	執刀医	出所	担当医	患者年齢	患者性別	臨床診断
0093	04/15	04/17	末松	救急	山口	80	M	腎障害 天疱瘡疑い 敗血症疑い
0094	04/17	04/17	末松	膠リ	花岡	87	F	悪性リンパ腫 RA
0095	04/25	04/25	末松	外科	永井	83	M	十二指腸乳頭部癌 心房細動 慢性心不全 高血圧 肺高血圧
0096	05/15	05/16	末松	外科	横山	87	F	絞扼性腸閉塞術後 非閉塞性腸管虚血症 敗血症性ショック
0097	07/24	07/24	末松	膠リ	青木	93	F	高齢発症関節リウマチ疑い 薬剤性再生不良性貧血疑い 非定型肺炎疑い 肺胞出血疑い 上部消化管出血 甲状腺機能低下症 慢性腎不全
0098	08/17	08/17	末松	心血	乗松	76	M	右重症下肢虚血バイパス術後 糖尿病 高血圧 胃潰瘍
0099	08/17	08/18	末松	総合	山口	82	M	慢性腎不全 左胸水貯留 透析困難 敗血症疑い

[表2] 2023年度 C.P.C.開催の一覧

開催回	開催月日	剖検番号	患者年齢	患者性別	臨床診断	病理診断
第131回	7/25	0091	79	男	敗血症 (尿路感染症) 関節リウマチ 原発性胆汁性肝硬変 多臓器不全	急激に顕在化した無症候性原発性胆汁性肝硬変症 (PBC) 急性・慢性腎盂腎炎 (E.coli 敗血症の原因疾患) 穿孔を伴う十二指腸の多発潰瘍+粘稠腹水貯留 (750ml)
第132回	9/26	0092	69	女	消化管出血 高度貧血 急性腎不全 精神発達遅滞 腎不全	左心不全と肺のうっ血・水腫 ASD閉鎖術後27年の状態(心および肺動脈性肺高血圧症と肝の慢性うっ血) 鉄剤長期投与に伴う骨髄の後天性芽球癆と諸臓器の hemosiderosis 直腸に多発する出血性潰瘍
第133回	11/28	0093	80	男	腎障害 天疱瘡疑い 敗血症疑い	水疱性類天疱瘡と自己免疫性筋炎 (抗 PM-Scl75 抗体陽性のオーバーラップ症候群) 死体血の顕著な減少 (1.5ml/Kg) びまん性肺炎+肺動脈枝内の壁在血栓と finbrin 塊
第134回	2/27	0090	56	男	虚血性心不全 冠動脈三枝病変 2型糖尿病	壊疽性胆嚢炎 (PTGBD 留置) + 敗血症 (E.faecalis) 著明な3枝狭窄に伴う左心の拡張性肥大+左室内血栓(→諸臓器の多発梗塞) Pulmonary capillary hemangiomas を伴う肺のうっ血・水腫 肝の急性うっ血 脾・腎・大脳の多発梗塞
第135回	3/26	0094	87	女	悪性リンパ腫 RA	methotrxate associated lymphoproliferative disorder の範疇 EBV-positive T- and NK-cell による全身リンパ節腫大とその節外性浸潤 RA に合併した全身性 AA アミロイドーシス

[表3] 2023年度 臨床科とのカンファレンス開催状況

	開催回数/年	定例開催頻度
外科 術前朝カンファレンス	51	週1回 木曜日 8時~
外科 術後検討会	5	不定期
消化器内科 内視鏡カンファレンス	21	月2回 第2, 4水曜日8時~
乳腺科 朝カンファレンス	49	週1回 火曜日 8時~

---

---

## 総合診療科

部長：山口 裕之

---

---

### 人員構成

部長 山口 裕之 (1993年)

### 2023年度総括

2023年度より総合診療科を標榜し、慢性期症例のレスパイトおよび当院に併設されている有料老人ホームである横浜エデンの園を担当することになった。

今まで担当していた救急科とは緊急度が変容したが、医療を行ううえでは特に変化はなく、時間の読めない救急から離れて個人的には時間外の診察時間が大幅に短縮された。

レスパイトは周辺の医療機関（主にクリニック、訪問医、訪問看護）からの紹介であり今まで救急科で紹介を受けていた機関から前もって入院の予約を受ける形となった。

また、救命救急センターで急性期加療を受けた亜急性期の症例を積極的に受ける方針とした。今まで救急で培った診療のスキルを応用出来、かつ近隣の急性期の医療機関のベッドを空けることで少しでも横浜市の救急医療に貢献できるのではないかと考えている。特に当院は予定入院が少ないため、転院やレスパイト入院を予定するとベッドコントロールにも貢献できるのではないかと自負している。

2022年と比較して転院は10件から50件に、レスパイト入院は59症例から81症例と増加した。

## ドック・健診科

部長：平野 進

### 人員構成

部長 平野 進（1991年）

### 2023年度総括

当院における健診も地域への認知度の上昇に伴い、当科開設以来順調に受診者数が増加し、業務内容も大幅に拡充されてきた。特に2023年4月より小職が総合診療科より離れ健診専従となり午後健診が可能となった。更に午前健診の増枠により受診者は昨年度の4,992名を超え6,087名の方が当科を受診した。また、6月からは保健師1名の増員がされ、204名の保健指導をおこなった。

インフルエンザの出張集団接種事業も引き続き行った、1社の契約解除があったものの新たに1社との新規契約を結んだ。（1校8社）1,081名

新たな取り組みとしては、関連各科の協力で聖隷関連施設である「油壺エデンの園」の出張健診を開始した。

また、当科の懸案事項であった電話予約が繋がりにくいという問題に関しては、9月に事務員1名の増員をおこない、年度末には問題解決に向けた体制を整えることが出来た。

当科における健診では異常所見を認めた場合には、速やかに当該専門科に受診依頼して午前中に専門診察を受けていただけるというのが最大の特徴である。2024年度も引き続き、この病院で行う健診のメリットを受診される方々に提供しつづける所存である。

### 実績

※出張インフルエンザ予防接種を除く

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比
実人数	2020年度	217	5	309	620	536	333	492	413	364	532	456	408	4,685	-
	2021年度	425	476	265	243	314	295	742	388	372	277	348	444	4,589	98%
	2022年度	449	505	314	315	357	358	738	427	370	281	398	480	4,992	109%
	2023年度	458	527	456	426	358	373	939	773	428	386	439	524	6,087	122%

## 看護管理室

総看護部長：兼子 友里

### 人員構成

看護師	307.8名
助産師	0.8名
准看護師	1.8名
救急救命士	5名
視能訓練士	3名
看護助手	34.5名
クラーク	11名

\*常勤換算数

### 看護部運営方針

#### 聖隷ファンを増やそう！

(利用者、スタッフ、関連業者、地域住民など当院を利用するすべての方々)

### 看護部運営方針

1. ひとり一人の看護の質をあげ、シームレスな入退院を可能にする体制づくり
2. 安全な医療の提供
3. 地域包括ケアシステムを好循環させるために多職種連携を極める
4. 多様な働き方・業務担当人材の受け入れ体制整備
5. 聖隷DXの推進・活用

### 2023年度総括

看護職員の人員確保と定着、特に看護補助者の採用に困難をきたした。各職場は、非常勤や業務担当看護師へのタスクシフト、職場間のタスクシェアと連携で働きやすい職場作りに取り組んだ。また、他部署研修制度や応援体制を活用して、個々の看護ケア経験値を深めるなどのキャリア開発を推進した。「人生100年時代」と言われライフキャリアの選択肢が多様化されている。マルチ・ステージの人生モデルで、自分らしい生き方や働き方へと社会も変化している。看護職員が働き続けられる組織となるために、ハード面のみでなく、キャリア支援や心理的

安全性の職場作りなどソフト面の整備が必要である。看護のやりがいを感じるチーム形成は次年度への取り組み課題となった。

看護ケアの質向上は、看護職として必要不可欠である。状態が悪化していく患者管理の強化にRRS（院内迅速対応システム）の活動は5年が経過した。そして、ACP（アドバンスケアプランニング）は200例/月以上に関わり、患者の「大切にしてきたこと」を尊重したケア実践が定着した。また、口腔ケアと嚥下機能訓練の注力で術後肺合併症の発生はない。さらに、身体拘束低減化の取り組みは当院看護部の現在のケアとなった。

私たちは、基本理念「隣人愛」の精神に基づき、当院を利用するすべての方々へ信頼されるケア提供の実現に努めていく。

### 実績

#### 採用者数

常勤看護師39名／パート看護師5名／非常勤看護師9名／派遣看護師7名／看護助手地区限定1名／パート看護助手4名／派遣看護助手8名／常勤救急救命士1名

#### 常勤看護師退職率

13.0%

#### 病床稼働率

一般急性期病棟	83.9%
ACU	88.9%
SCU	95.8%
地域包括ケア病棟	82.3%
回復期リハ病棟	82.6%
緩和ケア病棟	82.3%

#### 重症度、医療・看護必要度

一般急性期病棟（必要度Ⅱ）	30.2%
ACU（必要度Ⅰ）	89.8%
地域包括ケア病棟（必要度Ⅰ）	20.1%

## 血液浄化センター看護室

課長：鮫島 芳江

### 人員構成

看護師	10名
看護助手	1名
クラーク	1名

### 運営方針

腎臓病患者のその人らしい生活を支援する看護を実践する

### 2023年度総括

#### 1. 安全な療養環境の見直し

新型コロナウイルス感染症は患者の状態に応じて通院やコロナ病棟での出張透析で対応し、血液浄化センター内での感染拡大をすることなく対応できた。

患者・家族が災害時の自助を目指し患者・家族を対象とした防災セミナーを開催、49名の参加をいただいた。このセミナーを元に患者参加型防災訓練を全ての外来維持透析患者に参加していただき実施した。

安全機構付穿刺針を導入し、ガイドラインに沿った返血業務に変更、職員の体液曝露・患者の出血リスクへの対応を行った。

#### 2. 多様な腎代替療養への対応

新規導入患者18名、腎移植1名、腹膜透析2名、透析見合わせ5件と多様な腎代替療法への対応、意思決定支援を実践した。

#### 3. 腎臓病患者のよりよい生活に繋がる看護を実践する

透析腎臓リハビリ（透析時運動指導等加算）を開始しチーム医療の実践を行った。毎月数名の新規患者を開拓し年間151件の腎臓リハビリを合併症なく実施した。実践成果は院内学会にて発表した。

#### 4. お互いを認め合い気持ちよく働ける職場作り

遅番業務、出張・拘束業務に従事する指標の共有・客観的評価を作成。業務熟練度を可視化した。

他職場・多部署と協働しデスクカンファレンスや患者を偲ぶ会を開催し意思決定支援の振り返りを行った。

### 実績

項目	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
維持透析件数	6,293	5,806	6,992	7,929
入院透析件数	276	980	1,299	1,555
出張透析件数	73	142	232	214
合計	6,642	6,928	8,523	9,698
3月末外来維持患者数	40	44	50	49
新規導入件数	1	18	23	16

フットケア		
糖尿病疾患加算（170点）	361件	53,720点
胼胝・鶏眼削り（170点）	19件	3,230点
下肢末梢動脈加算（100点）	603件	60,300点

項目	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
外来維持透析件数	6,293	5,806	6,992	7,929
入院透析件数	276	980	1,299	1,555
出張透析件数	73	142	232	214
合計	6,642	6,928	8,523	9,698
3月末外来維持患者数	40	44	50	49
平均外来維持患者数	41.6	39.4	47.2	50.5
新規透析導入件数	1	18	23	16

## 手術室・中央材料室

課長：佐藤 典子

### 人員構成

看護師	12名
准看護師	1名
看護助手	1名
クラーク	1名

### 運営方針

患者中心に業務を考え看護の価値を高めよう

### 2023年度総括

#### 1. 手術室看護の質の上げるための人材育成

ベッドサイドケアへの充実に向け、申し送り時間の短縮を西2病棟と検討していくことができた。術前訪問の運用とパンフレットの見直し、患者不在時の対応を検討し実施率を76%まで引き上げることができた。術後疼痛管理チームに関しては、後継者の育成を含め、実施率も81%へ上昇した。人材育成としても、宅直導入に3名導入することができた。また、ナラティブを活用した看護の語りを実践し、あらためて手術室看護を考える年となった。

#### 2. 多職種と協働し安全な手術環境を提供する

多職種との防災訓練の継続的な実施、滅菌物リコール訓練などのシミュレーションを実施した。SSIへの取り組みに関して、カンファレンスを実施し手術器械の再検討を行い実践につなげている。また、抗菌薬投与について薬剤課と検討し、適正な投与に向け取り組んでいる。

#### 3. 働きやすい職場づくり

中央材料室・臨床工学技士とのミーティングにおいて、業務のシフトや滅菌業務について見直しを行っていった。また看護補助者の導入により、業務の幅を拡大できるよう取り組むことが出来ている。看護職・社会人としてのコミュニケーションの実践として、ワークショップを開催し、それぞれの価値観を知りチームワークに繋げるという課題をもち実践していくことができた。今後の評価とともに継続的な

課題であると考ええる。

### 実績

#### 2023年度手術件数

総件数（カテ室除く）	1850件（1821件）
緊 急	120件
準 緊 急	273件
予 定	1457件

## 外来

課長：亀井 由紀

### 人員構成

看護師	28名
助産師	1名
准看護師	1名
看護助手	2名
クラーク	10名
救急救命士	7名
視能訓練士	3名

### 運営方針

地域に選ばれる病院を目指し、質の高い安全な医療と看護を提供します

地域とともにある救急外来を目指しチーム医療を実践します

### 2023年度総括

#### 1. 安全な医療を提供する

2024年5月から、新型コロナウイルス感染症が5類となり、時代の変化と共に外来の体制を変更してきた。感染予防に取り組みつつ、安心して受診ができるよう心がけてきた。

また、救急救命士による急変トレーニングを部署毎に実施し、院内の急変対応能力の底上げに貢献した。加えて災害対応能力向上のために、防災訓練を定期的に行っている。

#### 2. 看護の質を上げ、地域住民の暮らしを支える看護を実践する

患者の高齢化が進み、住み慣れた自宅で生活ができるよう調整をする機会が増加している。

外来で、ケアが必要な患者を察知し、MSWや訪問看護師と連携して看護介入が出来る体制を整備してきた。また、待合室をラウンドナース（待合室を巡回する看護師）の役割を明確にし、体調不良の患者に早期に介入出来るよう配慮したり、待ち時間対策のために力を発揮したりできるよう体制を整えた。

入院支援体制確立のために外来でできることを考え、今年度は整形外科入院の患者に対し、外来からお薬手帳を薬剤課に提出することを始めた。それにより、入院後スムーズに処方ができるよう、病棟につなぐ体制が整備できた。今後は全科に拡大する予定。今年度は、院内認証IVナース1名が誕生し、専門性を発揮している（化学療法薬のルート確保）。

#### 3. チームワークを発揮し、働きやすい職場環境を整える

多職種で外来を支えているため、コミュニケーションを大事にしてきた。多様な働き方を各々が理解し、チームとして支え合う職場を実践した。倫理カンファレンスやナラティブを開催し、看護を語る場を設定。お互いに話し合える環境作りに取り組んだ。

### 実績

	2020年	2021年	2022年	2023年
糖尿病看護外来	601	878	1107	1379
慢性腎不全看護外来	134	381	358	279
リウマチ看護外来	1724	1702	734	408
ストマ看護外来	261	316	297	340
がん看護相談	40	34	57	44

業務改善にも繋げることができた。

## 画像診断・内視鏡センター看護室

課長：高井 千晶

### 人員構成

看護師 14名  
看護助手 1名

### 運営方針

専門性を発揮し安心・安全なケアを提供する

### 2023年度総括

#### 1. 私たちの看護を高めよう（予測する 備える）

- ・急変時のスキルアップトレーニングの継続：多職種でのCT急変対応シミュレーション実施、心内科主催急変対応プラネックス研修への参加、また2023年度は新たに内視鏡エリアでの急変対応シミュレーションを実施した。
- ・内視鏡検査における鎮静時の急変リスクに備え、CO2モニターの導入、安静解除基準の作成と運用を開始した。
- ・血管撮影室における全身麻酔看護の知識・技術について、勉強会を実施し全スタッフが基礎知識を習得できるよう努めた。

#### 2. 安全な医療提供ができる

- ・患者誤認0、検体間違い0を達成。
- ・薬剤の過少投与1件、重複投与1件あり、薬剤投与時のマニュアルの再確認と再発防止に努めた。
- ・TV室でのタイムアウトを導入した。
- ・withコロナの対策として、院内の対応に合わせた検査室での感染対策マニュアルを変更、スタンダードプリコーションの継続に努めた。

#### 3. 慣例にとらわれない業務改善

- ・スムーズな検査受け入れを可能にする体制整備として、申し送り方法の再検討（テンプレート内容と運用の見直し）、検査記録の見直しを行い申し送り時間短縮にも繋がった。
- ・下部内視鏡検査のパンフレットの見直しと、説明方法の再検討を行い、説明時間の短縮により

### 実績

項目	2022年度	2023年度
上部消化管内視鏡検査（内視鏡治療含）	1641件	3115件
下部消化管内視鏡検査（内視鏡治療含）	1331件	1466件
経乳頭的胆管膵管造影（内視鏡治療含）	112件	211件
カテーテル検査・治療（心内科）	533件	535件
アブレーション	68件	74件
ペースメーカー移植・交換（体外ペースメーカー含）	45件	43件
脳血管造影検査（血管内治療含）	243件	254件
CT造影検査	4036件	4014件
MRI造影検査	331件	335件

## B3病棟

課長：小林 明日香

### 人員構成

看護師	14名
看護助手	2名
クラーク	1名

### 主な担当科

麻酔科（緩和ケア）

### 運営方針

患者とスタッフの「今」を大切にしよう！

### 2023年度総括

- 緩和ケア病棟として、看護の質向上を目指す
  - 入棟相談外来へ病棟スタッフの介入開始
  - 踵の褥瘡0の取り組み
  - ELNEC-Jに3名参加
- 安全な緩和ケアの提供
  - 面会マニュアルの作成
  - 患者誤認インシデント 0件
  - レベル3aの転倒 4件
  - 麻薬の過少過剰投与インシデント 17件（同一IAを含む）
- もっと院内外で緩和ケア病棟を知ってもらう
  - 夏祭りやクリスマス会の様子をYouTube制作や院内回覧を実施
  - 近隣医療機関からの実習の受け入れを実施
- ポジティブに働き続けられる環境づくり
  - ワークショップの開催
  - チェックリストやテンプレート、記録の見直し、一部機能別看護（入院担当）の取り組み

### 実績

2023年度 緩和ケア病棟入棟日数（人）

3日以内	7日以内	14日以内	30日以内	60日以内	61日以上
35	59	94	90	40	6

2023年度 病床稼働率（％）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
80	70	85	85	85	70	70	75	85	75	73	72	77

## 東1病棟 (回復期リハビリテーション病棟)

課長：鹿野 佐緒里

### 人員構成

看護師	16名
看護助手	6名
クラーク	1名

### 主な担当科

リハビリテーション科、整形外科

### 運営方針

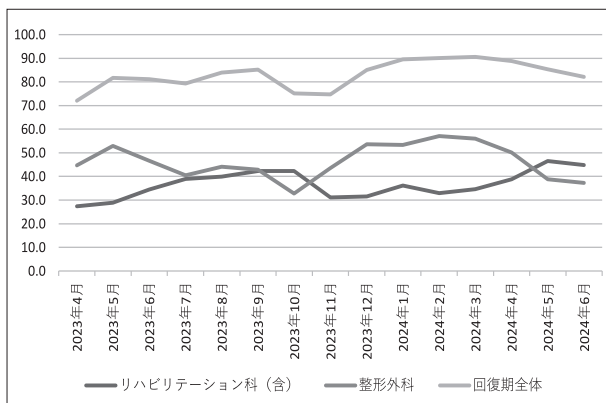
多職種チームで患者の持てる力を引き出し、共に喜べる  
～専門性を高め合い患者に向き合う～

### 2023年度総括

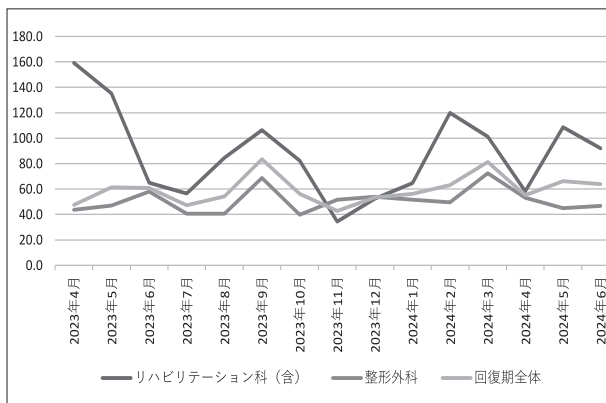
1. 多職種と協働しながらケアの質を向上させる
2. ポジティブな職場感情をはぐくみ、強みを活か  
し補完し合うチームづくり (チームビルディング)
  - ・患者の二次的合併症予防を目的に、リハビリテーション、看護補助者を含めたKYTカンファレンスを(2回/月)実施
  - ・安全な歩行自立を目指して多職種で評価基準の作成、実施、継続、院内学会発表
  - ・退院支援を円滑に進めるためのプライマリー活動の体制の変更
  - ・各グループ会で自らアクションプランを設定、実施、評価による役割の明確化と成果の言語化による看護の質の向上
  - ・急性期、リハビリテーション、訪問看護のシャドーイングを実施による役割理解
  - ・訪問看護の一日留学での退院後の患者の生活に触れたことによる退院支援の強化
  - ・看護、リハビリテーション、看護補助者対象のワークショップによる自分・他者の価値、相互理解によるチームの構築

### 実績

病床稼働率



平均在院日数



## 東2病棟

課長：小川 実花

### 人員構成

看護師	26名
看護助手	5名
クラーク	1名

### 主な担当科

呼吸器内科、呼吸器外科、乳腺科

### 運営方針

アフターコロナ さまざまな疾患をもつ患者の急性期・慢性期・終末期によりそう

### 2023年度総括

機能評価受審を機会として、病棟内の安全・感染に関する対策強化と、ケアの提供システムについて見直しを行った。COVID-19感染患者の受け入れを継続しつつ、他病棟での受け入れに伴って、他病棟へ感染対策スキルの伝授を行った。

#### 1. 医療の安全を再構築する

医師との連携強化やカンファレンス方法の改善によって、情報共有の充実を図った。記録方法の周知や監査によって充実を図り、看護ケアへ活用した。

#### 2. 病期を見極める看護

終末期や急変の勉強会を開催し、患者の病期に合わせたケアの提供に繋げた。感染に留意しCOVID-19感染隔離中の終末期患者の面会制限緩和による家族ケアを提供した。

#### 3. なるほど体験 スタッフ育成プロジェクト

乳癌手術見学や多職種による勉強会を開催し、看護を深めた。また、病棟会ではポジティブフィードバックを行い、スタッフのモチベーション向上に繋がった。

### 実績

平均在院日数	16.9日
看護必要度	23.77%
コロナ陽性病床 陽性患者受け入れ	107件

## 東3病棟

課長：伊東 路子

### 人員構成

看護師	25名
看護助手	5名
クラーク	1名

### 主な担当科

消化器外科・消化器内科・泌尿器科

### 運営方針

多職種連携を極め、チームワークを発揮しよう

### 2023年度総括

2023年度は、外科の周術期管理から消化器・泌尿器科の急性期治療の受け入れ、病床稼働率を90%以上維持することができた。

1. 排尿ケアチームを設立し、多職種にてチームラウンドを週1回行った。排尿時室支援加算の取得もでき、多職種協働によるチーム医療の展開ができた。また、専門性を高め、根拠に基づいた看護を実践するために、ストマリハビリテーション士講習会に1名参加、ACU留学も1名行っている。
2. 緊急入院後や手術後のせん妄発症のリスクが高い職場である。身体行動制限は原則行わないという院内の基本方針に基づき、せん妄リスクアセスメントを適宜行いチューブ類の事故抜去、せん妄ケアを実践し、身体行動制限率は7%に維持できた。
3. 早期退院を目指し、意思決定支援や退院支援カンファレンスに力を入れている。平均在院日数は13.6日である。急性期病棟として即時入院も積極的に受け入れを、病棟稼働率は90.0%を維持できた。

4. チームナーシングの中に一部機能別看護を取り入れ、緊急入院や侵襲的治療のケアに対応できる体制を整備した。さまざまな時間帯で働くスタッフを活用し環境変化にも対応できる業務改善が行えた。同時に看護補助者のフロアー化を行い他職場においても業務ができるよう業務整理をした。

## 東 4 病棟

課長：利根川 綾

### 人員構成

看護師	28名
看護助手	10名
クラーク	1名

### 主な担当科

総合診療科、内分泌内科他

### 運営方針

新時代、こっからもど派手に行くぜ!!

### 2023年度総括

2023年度は診療報酬の改訂で、直接入院を地域から受けていく使命のもと多くの入院を地域包括ケア病棟で受け入れを行い、直接入院40%以上維持することができた。

#### 1. Rize in motivation

スタッフがそれぞれのモチベーションを保ちながら仕事を行うために、スタッフ同士のコミュニケーションが円滑にいくような言葉のかけ方、行動を看護補助者が中心となり病棟内に周知した。働きやすい職場環境とともにスタッフが笑顔で働き続けられるよう、時間外超勤の削減のためさまざまな時間帯で働くスタッフを活用して、業務調整を行った。

#### 2. 地域包括ケアシステムを活用したE4退院支援

患者のACPを大切にし、聴取したACPを基に退院調整が進められるよう職場内でACPに関する勉強会を行った。患者家族との話し合いを重要視し、他職種と連携し希望に添った退院支援が行えるよう努めた。コロナ禍でなかなか進んでいなかった家屋調査も、積極的にを行い退院後に不安や困りごとのないようサービス調整を行うことができた。

#### 3. つないでつなげてつづけていく！

今まで、病棟で取り組んできたこと（自律を目指す療養環境づくり、RRSの活用、院内デイ）を継続した。継続するにあたって他職種と共同しタイムリーにカンファレンスを実施することができた。

高齢な患者層の中で、安全にかつ安心して療養生活を送れるように環境調整だけでなく、病院内のスペシャリストを活用し、直接指導・勉強会の開催をすることでフィジカルアセスメントを通して患者を診ていく力を養うことができた。

### 実績

病床稼働率（平均）	77%
在宅復帰率（平均）	89.25%
拡大カンファレンス	111件／年
直接入院件数	183件／年

## 西1病棟

課長：岩瀬 猛之

### 人員構成

看護師	21名
看護助手	4名
クラーク	1名

### 主な担当科

脳神経外科、整形外科

### 運営方針

一人一人の持っている力を職場に還元し、継続できる看護を実践しよう

### 2023年度総括

#### 1. 患者の病期に合わせた看護実践ができる人材の育成

手指消毒剤の使用量目標を立案し5つのタイミングで手指消毒ができるように介入したが、目標値には届かなかった。

褥瘡発生は目標値患者5名に対し、6名の発生で目標値に届かなかった。摂食嚥下リンクナースを活用し、患者の状態にあったケアを提供し加算取得90%を取得した。職場内での中堅層と若年層に向け急変シミュレーションを実施した。今後OJTを実践する中でチームリーダーの更なる育成が今後の課題である。

#### 2. 地域包括システムを意識した退院支援の構築

脳疾患患者の退院パンフレットを使用し統一した退院指導が可能となった。指導対象疾患を拡大しパンフレット作成および指導の強化を図る必要がある。外来や他施設につなげる看護サマリの記載率の向上に努め、年間90%を達成した。

#### 3. 安全な入院生活の提供

患者誤認事例の事例検討およびKYTカンファレンスを行った。トリアージの学習会を開催した。

START法について事例を通して学び、今後は実践が必要である。リハビリおよび医師を交えて防災訓練の実施した。

#### 4. 働きやすい職場作り

看護補助者との助手会を通じ、意見交換を行いながら看護業務の委譲、整理を図った。

### 実績

	2022	2023
病床稼働率	82.4%	85.8%
平均在院日数	19.9日	22.4日
脳神経外科手術件数	53件	51件

## 西2病棟

課長：野上 智子

### 人員構成

看護師	33名
看護助手	5名
クラーク	1名

### 主な担当科

整形外科・膠原病リウマチ内科・内分泌糖尿病科・  
麻酔科・耳鼻咽喉科

### 運営方針

チーム力を活かして変化を乗り越えよう 2023

### 2023年度総括

2023年度は、整形外科の周術期管理から内分泌糖尿病科や膠原病リウマチ科の内科的疾患まで幅広い患者を受け入れ、病床稼働率90%以上を維持することができた。

#### 1：ケアミックス病院の機能を活かし、地域にもどれる退院支援

整形外科の患者数増加に伴い周術期の管理だけでなく、退院支援や他職種との協働を強化した一年であった。入院時より介入を行い、リハビリ見学や拡大カンファレンスを行うことにより自宅退院を見据えたサービスの調整や円滑な地域包括ケア病棟の活用を実現できた。

#### 2：患者の持てる力を活かす安全医療看護の提供

周術期から内科的疾患まで幅広い看護を必要としNEWSを活用し異常の早期発見に努めRRSと連携する機会をもうけることができた。

また、院内で二次性骨折予防としてOLS（骨粗鬆リエゾンサービス）活動を行っている。

整形外科の患者を中心に積極的に介入し、他職種とともに予防医療への参画を行なった。

#### 3：すべての人に優しい環境づくり

働きやすい職場環境・スタッフが心身共に健康に働けるよう時間外超過勤務の削減のため業務検討を実施した。

また、スタッフ各自でもノー残業DAYを実施し、意識的に健康づくりに取り組んでいた。

また、子育て中のスタッフも多くWLBを考えた人材活用・業務検討を実施した。

## 西3病棟

課長：内野 友美

### 人員構成

看護師	29名
看護助手	5名
クラーク	1名

### 主な担当科

心臓血管センター内科・外科、腎臓内科、救急科、アレルギー科

### 運営方針

患者のニーズを捉えた看護実践をしよう！  
～愛を持って関わる～

### 2023年度総括

#### 1、専門職として心豊かな感性を持った看護職員の育成

- ・ACUへ6ヶ月間の院内留学を1名実施。留学を通し重症患者、術後の看護に実際に触れ実践できたことで急性期看護の強化へ繋がった
- ・心不全療養指導をスタッフ全員が介入できるよう療養士による勉強会を実施し介入の強化へ繋げた  
新たに2名の心不全療養指導士が誕生している
- ・入院加療後に心不全教育入院へ切り替えるシステムを構築。20名/年の心不全教育入院介入を行った。

#### 2、安全な医療の提供

- ・毎月、病棟で起きたインシデントに対しKYT実施。また、有害事象に対する分析をスタッフ全員と行い対策を講じた。再発の防止に向け現在も対策を実行中である

#### 3、DPCを意識した退院支援システムの構築

- ・退院支援を円滑にすすめるためプライマリー活動の再構築を図った。また、スタッフ自ら退院調整を行えるよう退院支援ナースにも協力をも

らい実践に努めた

#### 4、多職種連携を深めた「TSUNAGU」看護の推進

- ・ハートサポートチームと連携し、心不全カンファレンスを毎週実施。患者の人生を考え最良の支援が提供できる機会となった

#### 5、業務改善と多様な働き方の維持

- ・看護補助者のフロアー化を継続
- ・看護補助者、クラークの業務整理を行い、業務委譲を図った

### 実績

平均病床稼働率	93.0%
平均在院日数	12.3日

# 急性期ケアユニット

課長：向井 久絵

## 人員構成

看護師	13名
看護助手	1名

## 主な担当科

全診療科（ハイケアユニット運用規定の入室基準に則った患者）

## 運営方針

「命を守るため」質の高い医療・看護の提供  
 「患者のため」できることを考えられる個からチームへ

## 2023年度総括

ハイケアユニット入院加算の算定可能な全科の重症患者の受け入れを行い、チーム医療を実践している、NEWS記載率は324件、2023年度より開始になった心大血管算定40件以上、看護必要度80%以上維持。

さらに2023年度は、西3病棟、東3病棟から院内留学2名受け入れ実施。

### 1. 安全な医療・看護の提供

有害事象のKYT実施、機能評価を機にローカルルールの見直しを行った。

### 2. 多職種と連携し地域包括ケアシステムの推進

心臓リハビリテーション導入に向けたチーム医療への参画→軽症、中等症MIパスの見直し、活用。

### 3. 一人一人が働きやすい職場環境を整える

多くのスタッフの異動と数人の既卒者の入職あり、受け入れ体制の見直しを行った。本人の進捗の見える化を行い、スタッフ全員で教育できるよう整え実践できている。

## 脳卒中ケアユニット

係長：森谷 のり子

### 人員構成

看護師 13名

### 主な担当科

脳神経外科

### 運営方針

一人一人の持っている力を職場に還元し、継続できる看護を実践しよう

### 2023年度総括

1. 集中的な治療と早期からのリハビリテーションを計画的かつ組織的に提供する
2. 患者の病気に合わせた看護実践が出来る人材の育成
3. 地域包括ケアシステムを意識した退院支援の構築
4. 安全な入院生活の提供
5. 働きやすい職場づくり

SCUは上記目標1にあるように、集中的な治療と早期からのリハビリテーションを計画的かつ組織的に提供することが求められている。

2022年度にセラピスト（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）ごとのカンファレンスを導入した事で患者各個人の目標に合わせた課題を見出せるようになった。その結果、看護師でのリハビリテーション介入が24時間体制で介入が可能になった。カンファレンスを通しながら、看護師とセラピストが共通認識を図ることにより専門性の高いリハビリをすることで、患者へ効果的なりハビリテーションの提供が出来るようになってきている。2023年度は、毎日のウォーキングカンファレンスの中で、チーム（医師・看護師・セラピスト・栄養師）が患者の現状を把握し、適切なタイミングでのリハビリテーションのステップアップや退院支援の介入が出来るようになってき

ている。

また、2023年度は脳卒中早期栄養加算の取得を開始、ウォーキングカンファレンスに栄養師が参加し、日々の状態を共有することで、患者の病態だけでなく、日々の栄養や食形態の調整・検討をすることで患者に重要な栄養の確保を適切にアプローチするシステムが構築された。

### 実績

実病床稼働率	95.5%
平均在棟日数	14.4日

疾患	総数	脳梗塞	脳出血	くも膜下出血	その他
人数	232人	182人	49人	8人	2人

転帰先	自宅	回復期	その他
人数	128人	59人	45人

在宅復帰率 55%（SCUから直接在宅復帰）、  
回復期経由含め総数187人・80%

---

---

## 看護相談室

職場長名：根岸 恵

---

---

### 人員構成

看護師 2名

〈がん看護専門看護師1名、精神看護専門看護師1名（非常勤）〉

### 運営方針

- ・エンドオブライフケアの質向上
- ・多様な人材育成に向けたキャリア支援

### 2023年度総括

がん看護専門看護師の活動件数は678件。緩和ケア病棟関連の面談がほとんどを占めた。緩和ケア病棟の入棟相談外来と入院調整を担当し、入棟相談外来件数は493件、入棟患者数346名であった。ACPに関しては、年間で2,714件の事前指示書が提出され、2,096件のもしもの話し合いが診療録に記載されていた。質の高いもしもの話し合いをまとめた「ACP Letter」を毎月発信し、啓発活動を行った。

精神看護専門看護師（非常勤）の活動件数は268件。スタッフのメンタルケア、新入職員のケアを中心に関わった。

# せいれい 訪問看護ステーション横浜

職場長名：酒井 志乃

## 人員構成

看護師	常勤8名、非常勤4名
理学療法士	非常勤2名
作業療法士	常勤1名、非常勤1名
事務	常勤1名

## 運営方針

住み慣れた地域で自分らしく生きることを支援する  
相互に学びあい、信頼しあえるチームをつくろう

## 目標

1. 人材確保と安定した事業運営
2. 安全で質の高い看護サービスの提供
3. 院内各部署との連携を強化し、シームレスな入退院を支援する
4. 状況に応じた感染対策の見直しと実施
5. 働きやすい職場環境づくり

## 2023年度総括

人材確保・定着が不十分であり実績は予算に未達であった。その中でも利用者に対し安全で質の高い看護の提供は継続できた。在宅でのコロナ陽性者に対しても、病院での感染マニュアルをもとに対応し、職員への感染拡大はみられず、事業を縮小することなく訪問を継続できた。

院内からの看護職員の異動が徐々に増え、病院と訪問看護ステーションとのシームレスな連携に繋がってきている。引き続き連携を強化し、地域住民が安心して在宅で生活できるよう支援していく。

## 実績

	収入 (千円)	支出 (千円)	訪問単価	介護訪問件数	医療訪問件数
実績	92,782	94,873	10,536円	7,176件	1,563件

看護部委員会 2023年度 実績報告（年報用）

委員会名称	開催回数	年間活動目標（大項目のみ）	活動実績
在宅療養支援 (TUNAGU) 委員会	9回	<ol style="list-style-type: none"> <li>在宅療養支援において、中心的役割となり職場の退院支援システムを整える</li> <li>リンクナースの活動を通し、病院と地域の「TUNAGU」をひろげる</li> <li>聖隷訪問看護との連携促進</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事例検討11件</li> <li>DPCと退院調整、意思決定支援・ACP、地域包括ケア・緩和ケア・回復期リハ病棟の特徴、地域サービス・施設等の学習会実施</li> <li>退院支援カンファレンス、入院時患者基礎データの記載率を上げた</li> <li>入院病名に関連する病棟リンクナース同士での相談や看護ケアの共有が促進された</li> </ul>
NQC (看護ケア質向上) 委員会	11回	<ol style="list-style-type: none"> <li>重症度、医療・看護必要度Ⅱの確実な取得に向けた対策と教育</li> <li>学研メディカルサポート(e-learning)の手順書を広め、標準化した看護の提供・業務の遂行につなげる</li> <li>口腔ケアラウンドを継続し、看護の質向上に向けたケアの提供</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>医事課からの情報をもとに、職場で取り漏れる傾向を把握し、職場内で確実に取得ができるよう検討した</li> <li>看護行為基準の紙のマニュアルを削除し、現場教育に学研メディカルサポートを活用した。また、新たな手順書を追加し、当院の運用に即した手順書作成を行った</li> <li>歯科医師の口腔ケアラウンドは毎週実施した。職場スタッフがスムーズに対応できるように運用方法、手順を見直し、スタッフの口腔ケアに対する意識向上を図った</li> </ol>
看護リスクマネジメント 委員会	12回	<ol style="list-style-type: none"> <li>転倒転落のアセスメントと評価を行い、有害事象が昨年度より減少する</li> <li>すべてのスタッフが確実な確認行為を実施する</li> <li>医療事故・急変危険予知、気づき力、対応力の向上</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>転倒転落時記録の監査を行い、監査結果を基に傾向と対策を委員会内で共有した。有害事象は、17件と昨年度と同様の件数に留まった</li> <li>搬送マニュアルを作成した。正しい患者情報の伝達方法の確立が出来た。搬送における患者誤認件数は、3件であった</li> <li>年4回の事例検討を実施。新たな研修として医療安全研修Ⅳ・Ⅴを開催し、リーダーや中堅層の医療安全教育を行った</li> </ol>
せん妄認知症ケア向上 委員会	10回	<ol style="list-style-type: none"> <li>認知症・せん妄ケアが職場内で実施していけるようリンクナースとして活動する</li> <li>認知症サポートチームが介入しケアの質向上を図る</li> <li>身体行動制限の適正使用を働きかける</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>せん妄アセスメントシートを活用し各職場の事例を共有した</li> <li>看護部研修・認知症ケア加算法定研修の企画・運営を行った</li> <li>医療安全マニュアルの身体行動制限の項目を改定した</li> <li>身体行動制限時の記録監査の実施</li> <li>リンクナースと認知症サポートチームによる職場ラウンドの実施</li> </ul>

委員会名称	開催回数	年間活動目標（大項目のみ）	活動実績
看護パス・記録監査委員会	11回	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護記録の質の向上を図る</li> <li>2. 看護記録マニュアル改訂と整備</li> <li>3. クリニカルパス運用マニュアルの修正と整備</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 記録監査表を見直し監査を毎月各病棟2症例ずつ実施。退院サマリ記載率を10月に調査した</li> <li>2. マニュアルの改訂と退院時サマリー記入チャートの作成</li> <li>3. 院内クリニカルパス委員会と協働し各診療科クリニカルパスの修正と更新を実施</li> </ol>
看護感染予防委員会	11回	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 職場の特性を踏まえた感染対策に取り組む</li> <li>2. 感染予防委員としての知識・技術の習得</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手指消毒剤の目標使用量を各部署で立案し、客観的に職場内を評価出来るツールとした。針刺し切創の減少に向け、原因分析結果を共有した</li> <li>2. リンクナースに向けた学習会を5回開催した。各職場内ラウンドを行い、改善点を共有した。職場の良い取り組みを他職場の改善につなげた</li> </ol>
褥瘡予防委員会	11回	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 褥瘡予防ケアの知識と技術を身につけ褥瘡対策周知活動を実践する</li> <li>2. 褥瘡診療計画書監査を実施し、正しい記録を周知する</li> <li>3. 体交枕の見直し・定数管理</li> <li>4. 看護部・院内研修の実施</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事例検討・褥瘡回診に参加し、知識・技術を習得。排尿ケアチームのリンクナースとして活動を開始した</li> <li>2. 監査結果をもとに、職場特有の問題点を共有・周知した</li> <li>3. 褥瘡発生率・疾患特有のリスクから必要数を検討し、管理方法を検討した</li> <li>4. e-learningによる院内研修と新人研修（2回）を実施した</li> </ol>
共育委員会	12回	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 習得した知識・技術を患者理解に繋げる力を育む（研修の学びをOJTに）</li> <li>2. e-learningなどのデジタル教材を活用した研修のスタイルの実施</li> <li>3. クリニカルラダーの内容と運用の見直しを行う</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研修を通して技術やアセスメント力だけでなく、看護論や看護倫理など看護感を育むようねらいを明確にし、研修を実施した</li> <li>2. 研修参加前にe-learningを聴講し研修前に自己学習できるような環境を整えた</li> <li>3. クリニカルラダーの改訂完了し、2024年度から使用予定</li> </ol>

## 薬剤課

課長代行：高岡 雄一

### 人員構成

薬剤師：24名

うち NST 専門療法士	4名
心不全療養指導士	3名
外来がん治療認定薬剤師	2名
日本糖尿病療養指導士	1名
感染制御認定薬剤師	2名
周術期管理チーム薬剤師	1名
老年薬学認定薬剤師	1名
リウマチ財団登録薬剤師	1名
スポーツファーマシスト	4名

薬剤助手：2名

### 業務内容

調剤業務、製剤業務、病棟業務、薬剤管理指導業務、医薬品情報業務、手術室業務、外来業務、医薬品購入管理業務、抗癌剤混注業務、高カロリー輸液混注業務、持参薬鑑別業務

### 2023年度総括

テーマ：質の高い医療の提供と薬剤師の育成

#### 1. 業務の効率化

- ・注射カートを新規導入し、あわせて調剤方法と内規の変更を実施した。
- ・麻薬及び化学療法の調剤手順を見直し、調剤時間の削減、業務の効率化をはかった。
- ・疑義照会プロトコルを追加した。(貼付剤の適用部位の変更・追記)

#### 2. 外来薬剤師業務の連携強化

- ・記録のひな形を整備し、指導内容の標準化と業務効率を図った。

#### 3. 院外薬局との連携強化

- ・地域薬局連絡会を5回開催し連携を図った。また、薬剤課主催の勉強会を2回実施した。

①2023年8月：「化学療法連携充実加算算定の現状報告」

②2024年2月：「FLS活動について」

#### 4. 薬剤師の育成

- ・有資格者による勉強会を実施し、資格取得のためのイントロダクションを行った。
- ・実務実習生7名の受入を実施。手術室やCEの業務見学等薬剤課以外の実習も増やすことで多職種連携に重点を置いたカリキュラム内容に更新した。

### 実績

項目		2022年度	2023年度	前年度比(%)
外来	院内処方箋枚数	2,791	1,660	59.5
	院外処方箋枚数	76,531	77,591	101.4
	注射箋枚数	21,037	22,647	107.7
入院	処方箋枚数	58,207	57,429	98.7
	注射箋枚数	112,322	112,699	100.3
薬剤管理指導	薬剤管理指導料1	2,082	1,959	94.1
	薬剤管理指導料2	4,393	4,366	99.4
	薬剤管理指導料<合計>	6,475	6,325	97.7
	退院時薬剤情報提供料	2,829	2,716	96.0
病棟薬剤業務	病棟薬剤業務実施加算1	11,989	12,338	102.9
	病棟薬剤業務実施加算2	1,807	2,142	118.5
外来抗癌剤調製件数		740	991	133.9
入院抗癌剤調製件数		136	135	99.3
TDM解析報告件数		113	194	171.7

## 検査課

課長：弘島 大輔

### 人員構成

臨床検査技師	23名
うち 認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師	1名
医療情報技師	1名
栄養サポートチーム専門療法士	1名
日本不整脈心電学会認定心電図専門士	2名
心血管インターベンション技師	1名
超音波検査士（消化器）	4名
超音波検査士（体表臓器）	3名
超音波検査士（循環器）	3名
超音波検査士（血管）	2名
超音波検査士（泌尿器）	1名
乳房超音波検査講習会認定	2名
聴力測定技術講習認定（一般）	3名
聴力測定技術講習認定（中級）	2名
緊急臨床検査士	4名
二級臨床検査士（呼吸生理学）	1名
二級臨床検査士（微生物学）	1名
二級臨床検査士（病理学）	2名
細胞検査士	1名
ピンクリボンアドバイザー（初級）	1名
有機溶剤作業主任者	1名
特定化学物質及び四アルキル鉛作業主任者	1名
毒劇物取扱者	4名
受付事務	4名

### 運営方針

専門性を高め、新しいことにチャレンジする。  
 精度と迅速性を追求した臨床検査情報を提供する。  
 知識・技術を常に高め、地域医療に貢献する。  
 医療人として広い視野を持ち、バランスのとれた  
 行動思考を持つ人材を育成する。  
 医療情勢を知り変化に迅速に対応する。  
 多職種と協働しチーム医療に貢献する。

### 業務内容

1. 外来患者採血、他検体採取
2. 検体検査（一般・血液・生化学・免疫・微生物）
3. 生体検査（呼吸循環機能・脳波・神経・筋・超音波検査）

4. 耳鼻咽喉科学的検査
5. 輸血検査
6. 病理検査
7. チーム医療への参画（NST・ICT・AST・SMBG指導等）

### 2023年度総括

- ・ドック健診業務の拡充や外来診療体制の変更に合わせ、早朝も含めエコーの予約枠を増設した。
- ・ドック健診室と連携し油壺エデンでの出張職員健診を実施、今後の業務拡大に向けた出張健診の運用が構築できた。
- ・心臓リハビリテーション開始に伴い心肺運動負荷検査装置を導入、医師やりハビリテーション課と連携し運用や検査体制を構築した。またトレッドミルからエルゴメーターに変更したことで転倒のリスクが低減し、より安全な検査環境を整えた。今後も病院のニーズに合わせて柔軟に対応していくとともに、患者さんにとってより安全で質の高い検査を受けていただけるよう改善活動を継続していきたい。

### 実績

検査件数	2023年度(件)	2022年度(件)	前年度比(%)
外来採血	39,272	38,823	101
検体検査	1,581,983	1,523,117	104
生理検査	17,714	16,681	106
超音波検査	10,924	10,863	101
耳鼻科検査	6,869	8,243	83
輸血検査	3,323	3,238	103

チーム医療参加回数	回数
NST（栄養サポートチーム）	344回
ICT（感染制御チーム）	49回
AST（抗菌薬適正使用支援チーム）	48回
SMBG（自己血糖測定）指導	26回

# 栄養課

課長：仲戸川 豊

2023年度総括

## 人員構成

管理栄養士	8名
内 NST専門療法士	2名
日本糖尿病療養指導士	1名
心不全療養指導士	2名
腎臓病療養指導士	2名
調理師	4名
内 製菓衛生士	1名
介護食士	1名

## 業務内容

1. 残食量前年度比5%削減
2. 災害時でも滞りなく食事提供出来る体制づくり
3. アレルギー、禁止食材の誤提供防止
4. 栄養課収支前年度比+6%

## 1. 残食量の削減

残食量の分析から献立の改善、食器や盛り付けの見直しを行い、2022年度と同等、2021年度比で8%削減出来た。

## 2. 災害時でも滞りなく食事提供出来る体制作り

藤沢ウェルフェアタウンとの非常時食事提供について協定締結。(株)クックデリとの法人契約により非常時の食事確保がより可能となった。消費期限の迫った備蓄を使用した調理訓練を実施。

## 3. アレルギー、禁止食材の誤提供防止

アレルギーに関するPCシステムの整備と患者本人を巻き込んだ確認方法により、誤提供は3件まで減少(2022年度6件、2021年度9件)

## 4. 栄養課収支向上

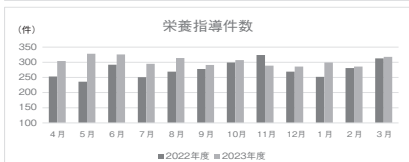
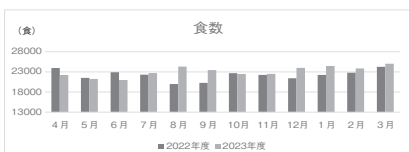
前年度比+37%達成、食材料費は増加傾向だが、人員配置の調整や栄養指導件数の増加などが寄与。

## 実績

### 2023年度 栄養課成果抜粋

食数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
2023年度	22227	21231	20976	22689	24295	23443	22474	22512	24004	24459	23837	25022	277169	23097
2022年度	23976	21508	22905	22299	19983	20250	22683	22255	21404	22241	22780	24252	266536	22211
(昨年度比)	93%	99%	92%	102%	122%	116%	99%	101%	112%	110%	105%	103%	96%	96%
食材料費	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
2023年度	¥716	¥812	¥805	¥804	¥813	¥833	¥828	¥745	¥793	¥837	¥787	¥792		¥797
2022年度	¥767	¥699	¥760	¥729	¥787	¥778	¥807	¥780	¥811	¥722	¥742	¥729		¥759
(昨年度比)	93%	116%	106%	110%	103%	107%	103%	95%	98%	116%	106%	109%		95%
特別食比率	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
2023年度	56.7%	59.4%	58.5%	56.1%	54.6%	54.9%	56.8%	55.4%	55.5%	56.2%	55.0%	53.7%		56.1%
2022年度	50.4%	53.8%	54.7%	50.6%	46.8%	48.0%	50.7%	51.3%	48.7%	51.4%	49.9%	49.8%		50.5%
目標達成率(50%)	113%	119%	117%	112%	109%	110%	114%	111%	111%	112%	110%	107%		112%
(昨年度比)	113%	110%	107%	111%	117%	114%	112%	108%	114%	109%	110%	108%		90%
栄養指導件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
2023年度	304	328	326	295	314	291	307	289	286	299	286	318	3643	304
2022年度	253	236	292	251	269	278	299	324	269	252	281	313	3317	276
目標達成率(320件)	95%	103%	102%	92%	98%	91%	96%	90%	89%	93%	89%	99%	95%	95%
(昨年度比)	120%	139%	112%	118%	117%	105%	103%	89%	106%	119%	102%	102%	110%	110%

年度平均値	食数	食材料費	特別食比率	栄養指導件数
2023年度	23097	¥797	56.1%	304
2022年度	22211	¥759	50.5%	276



## リハビリテーション課

課長：向井 庸

### 人員構成

理学療法士 26名、作業療法士15名、言語聴覚士5名、リハビリ助手1名

### 運営方針

地域住民のために急性期を中心としたリハビリテーション・サービスを提供し、健康と自己実現に貢献する

### 2023年度総括

2023年度回復期リハビリテーション病棟病床稼働・その他病床稼働増大に対応すべく理学療法士5名、作業療法士5名の職員が入職した。疾患別リハビリだけでも1万単位/月を提供できるようになった（図1参照）。

2023年4月「透析時運動指導等加算」運用を開始（理学療法士による運動負荷決定のための評価介入）。

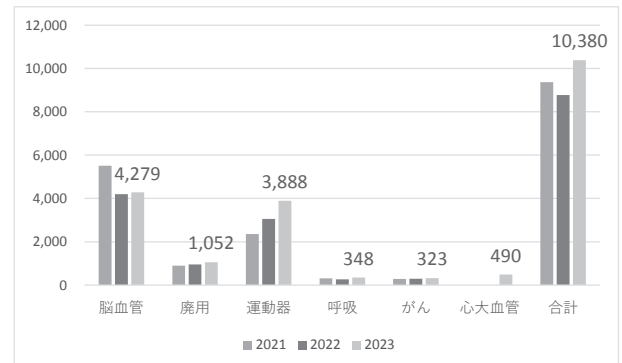
また2023年10月から心大血管疾患リハビリテーション（心臓リハビリテーション）を開設し、2024年1月から外来患者についても対応を開始した。

### 実績

表1：対応指示件数（摂食機能療法指示含む）

	2021年度	2022年度	2023年度
理学療法士	2,928	2,748	2,906
作業療法士	1,308	1,326	1,071
言語聴覚士	1,059	846	828
計	5,295	4,920	4,805

図1：疾患別リハビリ単位数（月平均の年度比較）



## 臨床工学室

課長：物江 浩樹

### 人員構成

臨床工学技士 21名  
 認定血液浄化臨床工学技士1名、認定集中治療臨床工学技士2名、認定医療機器管理臨床工学技士1名、透析技術認定士2名、3学会合同呼吸療法認定士4名、臨床ME専門認定士1名、消化器内視鏡技師4名、臨床検査技師2名、心血管インターベンション技師4名

### 業務内容

血液浄化センター、手術室、内視鏡センター、カテーテル室、ME管理室等での医療機器操作および管理業務、検査・治療時の臨床補助業務

### 2023年度総括

2023年度は新たに5名のスタッフを迎え入れ、またスタッフの入れ替えもあったことから各領域の育成に注力した。結果として透析業務対応人数5名、カテ業務対応人数2名、内視鏡業務対応人数2名、手術室業務対応人数3名、不整脈業務対応人数2名、機器管理業務対応人数2名、宅直業務対応人数2名の育成を行なった。

透析業務では腎臓リハビリテーション活動を看護部と連携し、8名の患者に実施することができた。また透析災害時の訓練と患者家族に向けた災害セミナーを看護部と合同で企画、開催した。

各業務領域において事業団内外の施設、企業と情報交換会を複数回開催し、業務改善につなげた。

## 実績

臨床工学室立ち会い件数

### 1. カテーテル室業務

アブレーション	68
ペースメーカー新規植え込み	26
ペースメーカー交換	5
ペースメーカーチェック	2,468
心カテ件数	501
脳カテ件数	127
その他カテ件数	34
清潔介助業務件数	636

### 2. 人工呼吸器業務

人工呼吸器導入	108
使用中点検	1,057

### 3. 手術室業務

眼科手術	245
ナビゲーション	8
術中誘発モニタリング	98

### 4. 透析業務

血液透析件数	9,369
外来維持透析	7,900
入院維持透析	1,469
CHDF	73
血漿交換	4
吸着式血液浄化療法	14
シャントエコー件数	127

### 5. 内視鏡業務

上部内視鏡	検査	2,303
	治療	54
下部内視鏡	検査	580
	治療	258
ERCP	検査	2
	治療	183
緊急・出張対応	治療	147

## 放射線課

課長：釜谷 秀美

## 人員構成

診療放射線技師	20名
内訳 マンモグラフィ認定技師	6名
血管撮影・インターベンション専門技師	3名
磁気共鳴専門技術者	2名
X線CT認定技師	4名
救急撮影認定技師	1名
第一種放射線取扱主任者	3名
放射線管理士	3名
放射線機器管理士	3名
医用画像情報精度管理士	1名
Ai認定診療放射線技師	2名
衛生工学衛生管理者	1名
シニア診療放射線技師	2名
アドバンスド診療放射線技師	3名
事務兼検査補助員	3名

## [業務内容]

- 単純撮影装置、乳房撮影装置、骨密度測定装置、X線テレビ装置、血管撮影装置、CT装置、MRI装置を用いた診断目的画像撮影
- 各装置を用いた放射線診断技術の治療的応用（IVR）時の機器操作
- 放射線機器の保守管理業務
- 撮影画像管理業務
- 高精細モニタ管理業務
- 放射線被ばく低減のための管理業務
- 放射線検査に対する相談窓口業務
- 撮影技術等の学術研究
- 画像診断読影報告書の未読防止メール送付

## 2023年度総括

- ・ 院外からの紹介検査（実績）  
CT：年間2,452件（対前年比128.7%）  
MRI：年間210件（対前年比121.4%）

## 実績

(月平均件数)

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	前年度比 (%)
一般撮影	胸部・腹部	2,254	1,754	1,956	1,949	1,994	102.3
	骨	1,204	1,056	1,224	1,197	1,152	96.2
	マンマ軟線	112	127	148	167	186	111.4
	ポータブル	711	566	670	687	698	101.6
	骨塩定量	42	53	69	95	107	112.6
	小計	4,323	3,556	4,067	4,095	4,137	101.0
造影	GI	29	42	47	52	58	111.5
	注腸	4	6	3	6	5	83.3
	ブロック	11	11	9	10	9	90.0
	TVその他	69	69	76	72	61	84.7
	小計	113	128	135	140	133	95.0
CT	件数	1,542	1,742	1,831	1,618	1,637	101.2
	造影率	22.3%	18.0%	16.6%	20.8%	21.0%	101.0
MRI	件数	568	531	549	530	513	96.8
	造影率	5.2%	5.1%	5.0%	5.2%	5.4%	103.8
ANGIO	循環器	70	54	54	54	55	101.9
	頭頸部	29	17	18	12	12	100.0
	体幹部	2	2	1	1	1	100.0
	四肢	4	4	0	1	1	100.0
	小計	105	77	73	68	69	101.5

事務部 2023年度 実績報告

職場名称	人員構成	業務内容	2023年度総括
総合企画室	室長 1名 課員 2名	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療経営情報、分析に関する業務 入退院予定数、平均患者数・稼働率、KPI、各種指標による他病院とのベンチマーク</li> <li>その他経営企画に関する業務</li> <li>各診療科および各部門の診療状況の把握と対策</li> <li>補助金に関する業務</li> <li>行政、学会等からのアンケート調査対応</li> <li>役職者研修企画</li> <li>職務分掌に該当しない業務の実施</li> <li>コロナ対策に関する支援</li> <li>臨床研修室</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>診療部長と患者数増加のための重要指標を設定し、達成のために関連部署とともに様々なアクションを実行した</li> <li>毎週火曜日の幹部連絡会にて他院とのベンチマークを行いアクションプランの作成を行ったその情報を元に病院と診療科で経営に対する意識のすり合わせを行った</li> <li>患者動線を調査し、再来受付機の移動および院内のサインの見直しを行った</li> <li>新型コロナウイルス感染症に関連した業務に感染管理委員会と協働して対応した</li> <li>新型コロナウイルス感染症に関連した補助金を漏れなく、遅滞なく申請した</li> </ul>
総務課	課長 1名 課長補佐 1名 係長（～2024年1月）1名 課員 7名 非常勤 11名	<ul style="list-style-type: none"> <li>人事（採用活動、実習受け入れ）</li> <li>労務（給与全般、社会保険）</li> <li>庶務（補助金、施設基準、免許管理、院内保育園管理など）</li> <li>広報（対外的な広報、患者サービス、イベントに関する業務）</li> <li>医局事務、電話交換、事務日当直</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医師働き方改革への対応</li> <li>医療機能評価の受審準備、当日対応</li> <li>法人本部の住所変更に伴う各種届出を実施</li> <li>医療情報管理課と連携した施設基準届出と管理</li> <li>病児保育開始の準備</li> <li>YouTubeを利用した病院広報（オンライン市民公開講座：1本、栄養レシピ：2本）</li> </ul>
経理課	一般会計 3名 支払窓口（内訳） 4名 常勤職員 4名 非常勤職員 3名	<ul style="list-style-type: none"> <li>出納業務</li> <li>月次、年次決算業務</li> <li>原価計算業務</li> <li>予算管理</li> <li>患者自己負担金の授受</li> <li>資金調達事務</li> <li>資産保全業務（登記事務）</li> </ul>	<p>【特記】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2023年10月からのインボイス制度への対応を実施</li> <li>2024年1月からの電子帳簿保存法への対応を実施</li> <li>患者自己負担金の未収金督促サイクルを従来より短くし顧問弁護士法人とも共同し未収金回収に注力した</li> <li>2024年7月3日の新紙幣対応として自動支払機の機種選定及び新運用をWGにて行った</li> </ul>
医療情報管理課	課長 1名 課長補佐 1名 外来医事係 3名 入院医事係 6.5名 情報システム係 3名 診療録管理室 3.5名 エルダー 1名 (委託・派遣除く)  (2023年4月 現在)	<ul style="list-style-type: none"> <li>外来医事係：外来受付、外来会計計算・外来診療報酬請求、予約変更受付等の業務</li> <li>入院医事係：入院受付、DPC分類コーディング、入院会計計算・入院診療報酬請求等の業務</li> <li>情報システム係：電子カルテ等の各種システム保守管理、データ抽出等の業務</li> <li>診療録管理室：診療録の管理・点検、がん登録業務、DPCデータ作成管理、スキャナーセンター運営等の業務</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症に係る診療報酬上の臨時的な取り扱い対応</li> <li>2024年度診療報酬改定対応</li> <li>施設基準管理&amp;監査</li> <li>実習生受入れ</li> <li>医事業務として、請求止めや保留、査定返戻などの適正化</li> <li>病院機能評価対応</li> <li>電子カルテ更改準備</li> </ul>
施設資材管理課	課長 1名 課長補佐 1名 資材係 4名 施設係 2名 合計 8名	<ul style="list-style-type: none"> <li>資材係：院内のあらゆる『もの』に関する管理全般（予算管理、購入管理、在庫管理）</li> <li>施設係：施設管理業務、建築物、電気、空調設備、給排水、防災、医療ガス、環境設備管理業務増改築・改修工事計画に関わる業務</li> <li>工程、予算、図面、既存改修調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主な備品整備実績：128列CT、泌尿器内視鏡システム、外科イメージ、IABP装置、錠剤分包器、他</li> <li>主な施設管理実績 エネルギー使用量前年度比 電気 94.7% ガス 123.9% 灯油 100.1% 水道 72.1%</li> <li>改修工事等実績：既存棟LED更新工事、新サーバー室改修工事、B棟空調入替工事</li> </ul>

## 医師臨床研修委員会

委員長名：新村 剛透

### 開催実績

開催回数：年 12回

※内、「医師卒後臨床研修管理委員会（外部委員招聘の会議）」3回を含む

定例開催日：毎月第2週水曜日

### 目標・開催目的

初期臨床研修医の研修内容をさらに向上し、より優秀かつチーム医療を大切にする人材の確保および育成を図る。

初期臨床研修人気地区である横浜において、選ばれ続ける病院となり、募集定員の充足を継続する。

### 2023年度総括

#### ●医師臨床研修委員会（院内会議）

9回開催

2023年4月12日

2023年5月10日

2023年7月12日（書面会議）

2023年8月9日

2023年9月13日

2023年11月8日

2023年12月13日

2024年1月10日

2024年2月14日

#### ●医師卒後臨床研修管理委員会

（外部委員招聘の拡大会議）

3回開催

2023年6月14日（期首・ハイブリッド会議）

2023年10月11日（中間・ハイブリッド会議）

2024年3月13日（期末・ハイブリッド会議）

#### ●研修全般

今年度はコロナ禍による制限が若干緩和され、各学会への参加・発表および院外の対面勉強会も昨年

度より参加できるようになった。院内では、研修医のリクエストを受け、今年度より臨床検査技師によるエコー勉強会を行うなどして、診療科の基礎や専門的な知識を学ぶことができた。外部委員を招聘する管理委員会は、参加者の移動時間等を考慮しWebを利用したハイブリッド会議のまま開催とし、各外部委員より貴重なご意見を賜ることができた。

剖検数も各科担当医の協力により年間7件となり、病理診断科 末松医師に協力していただきCPCを5回実施でき、2022年度採用研修医（5名）全員が、修了要件である病理症例を経験することができた。

2023年度も5名全員が無事初期臨床研修を修了することができた。

#### ●採用活動

コロナ禍の影響も徐々に緩和されはじめ、2023年も年度を通じて88名と多くの見学者を受け入れた。また、39名の採用試験受験者を確保することができ、結果的に募集定員の5名をマッチングで充足することができた。

### 2024年度目標

#### ●研修医向け勉強会参加の継続と参加率増加

臨床・病理症例検討会を、内科系だけでなく、外科系やその他の診療科の医師にも協力していただき、広く症例が報告でき、院内の診療科や年代などの垣根を超えた教育の場として活用できるよう病院の公式行事としていく。

また、初期・後期研修医向けの内科各科のクルズスや勉強会をさらに充実できるよう、協力を呼びかけていく。

#### ●後期研修までイメージできる広報の刷新

初期研修医あるいは採用試験を控えた医学生に当院の後期研修まで視野に入れた研修先として選択してもらえるよう、ホームページや各メディアに掲載している情報の充実を図る。

## 医療ガス設備安全委員会

委員長名：木下 真弓

### 開催実績

開催回数：年1回  
定例開催日：不定期

### 目標・開催目的

医療で供するガス及びガス設備の安全を確保し、医療ガスの安全な取り扱いと、正しい基礎知識の普及活動の実践

### 【活動報告】

#### 保安講習

医療ガス設備やボンベの安全な取り扱い等の保安講習を関連職員対象に実施

医療ガス設備取り扱い講義（対象：研修医）

実施日：2023年4月7日（金）

内 容：医療ガス取り扱い方法

#### 医療ガス設備講習会の開催

（全職員対象：アンケート機能）

期 間：2024年3月11日（月）～3月31日（日）

内 容：医療ガス取り扱い方法

参加率：（2022年度54% 2023年度 40%）

#### 医療ガス設備定期保守点検について

##### 点検実施日

4月19日～21日 [12ヶ月点検]

7月26日～29日 [3か月点検]

10月25日～27日 [6か月点検]

1月10日～12日 [3か月点検]

医療ガスマニュアル 改定  
既存棟 圧縮空気供給設備更新

### 2024年度目標

医療ガス設備の安全管理と患者の安全を確保する保安体制強化の為、医療ガス設備を使用する職員向けに保安講習を実施する

また、保安講習の受講率向上に向け職員への案内強化を図る

# 衛生委員会

委員長名：兼子 友里

## 目標・開催目的

- ①職員健診受診率100%の維持
- ②職員本人の健康意識向上のための取り組み
- ③メンタルヘルスケアへの取り組みの継続
- ④労働環境改善のための活動
- ⑤時間外労働の上限規制に対応した取り組み
- ⑥年次有給休暇の確実な取得に係る取り組み

## 開催実績

開催回数：年12回

定例開催日：毎月第1週水曜日

## 2023年度総括

### ①（1）職員健康診断・特殊健康診断の実施

\*長期休職者・病欠者を除く

時期	対象者数	受診者数	受診率	有所見者	未受診者	受診者	受診率
春期4-6月	758	758	100%	87	28	59	67.8%
秋季10月	288	288	100%	48	18	30	62.5%

### （2）特定保健指導対象者人数と実施率

対象者	実施	未実施	実施率
40人	34人	6人	85%

### ②職員に対する予防接種の実施

○T-spot検査：医師・研修医・看護師の新入職員全員に対して実施 受検者：58名

### ③メンタルヘルスケア

（1）メンタルヘルスケア担当者を置き、部会実施。職員のメンタルヘルスを推進。

（2）新卒入職者対象のストレスマネジメント研修、体験カウンセリングの実施

ワクチン	時期	接種者
HBワクチン	①8月 ②9～11月 ③5月	①18名 ②18名 ③13名
麻疹・風疹ワクチン	①8月 ②9月	①14名 ②2名
水痘	①8月～9月 ②11月～1月	①20名 ②2名
流行性耳下腺炎	①8月～9月 ②9月～1月	①6名 ②3名
インフルエンザワクチン	①10月	①753名
	実施状況	備考
ストレスマネジメント研修	出席：29名、欠席：10名	リハビリスタッフ欠席
体験カウンセリング	参加：43名	1人15分
産業医による面接指導実施	実施：13名	

### ④職場巡視：衛生管理者とメンバーで週1職場巡視を実施。（休憩状況、有給管理、設備状況等）

### ⑤ノー残業デイ・時間外労働についての取り組み

（1）毎月末に各職場より提出されるノー残業デイ報告書の取りまとめと報告の実施。

（2）36協定特別条項違反の該当者なし。月45時間以上が年6回を超えた職員が14名。

職場長と共に原因と今後の対処について確認し合い、委員会でも共有を実施

### ⑥年次有給休暇取得への取り組み：有休消化状況の把握。年間取得数5日未満の該当者なし

## 2024年度目標

### ①職員本人の健康意識向上のための取り組み

（職員健診受診率100%の維持、有所見者受診率70%、特定保健指導の実施率75%）

### ②メンタルヘルスケアへの取り組みの継続

（精神専門看護師によるカウンセリングや産業医面談状況と転帰確認など）

### ③衛生ラウンドを活用した職場環境の改善

### ④時間外労働の上限規制に対応した取り組み（各職員が毎月1日以上設ける）

### ⑤年次有給休暇の確実な取得に係る取り組み（各職員年間取得数5日以上）

## 栄養委員会

委員長名：永井 啓之

### 開催実績

開催回数：年6回

定例開催日：奇数月第4週木曜日

### 目標・開催目的

個々の適切な栄養管理と食事提供のために、食事療養の内容および安全な食事の提供方法について検討を行う。

### 2023年度総括

1. 食事・栄養関連実績報告
2. 栄養課内発生 of IA レポート報告と分析
3. 嗜好調査の結果報告  
対象献立：【普通食】豚肉角煮、キュウリ酢の物、  
サツマイモキントン  
日程：2023年8月25日（金）昼食
4. 残食量調査の結果報告
5. 検食の実施
6. 凝固剤の変更  
ゼラチンからスルーパートナーに変更し、嚥下障害でゼラチンゼリー禁止指示のある方にも、提供が可能となった。  
対象のゼリー：  
お茶ゼリー、果汁ゼリー（アップルゼリー、グレープゼリー）、V-クレスゼリー
7. トレーと食器を新規購入
8. 早期栄養介入加算を10月に運用実績を確認後、11月より加算取得
9. 藤沢ウェルフェアタウンとの非常時食事提供提携
10. 約束食事箋の改訂  
日本人の食事摂取基準2020年版に準じ2024年4月1日より幼児食と小児食の内容を変更  
移行食の内容を変更

### 2024年度目標

- ・他部署と連携し、食事提供における安全性を保持
- ・IA レポートの分析と対策検討
- ・検食簿の意見を反映した食事提供
- ・より良い食事サービス提供につながる嗜好調査の実施

# 化学療法委員会

委員長名：野澤 聡志

## 開催実績

開催回数：年12回

定例開催日：毎月第2週火曜日

## 目標・開催目的

化学療法を安全かつ適正に推進することを目的とし、レジメンの妥当性の評価や承認、治療計画書の作成、化学療法運用方法の検討、スタッフへの啓発・教育などを行う。

## 2023年度総括

申請レジメンの検討や承認、血管外漏出の発生報告・検討について年間を通し行った。化学療法を施行した診療科は外科、乳腺科、呼吸器外科、消化器内科、脳神経外科、膠原病・リウマチ内科の計6科であった。

その他に下記の取り組みを行った。

- ・研修医向けに化学療法勉強会開催した。
- ・化学療法マニュアルの改訂作業を開始した。
- ・看護部にてCVポート運用フローの作成を行った。

## 2024年度目標

- ・化学療法マニュアル2024年度改訂版を完成する。
- ・化学療法計画書の改訂を行う。

## 実績

	通常申請	患者限定申請	既存レジメン改訂
レジメン承認件数	20件 (10)	0件 (1)	20件 (2)

	入院	外来	入院外来合計	前年比
化学療法施行件数	149件 (194)	1684件 (1459)	1833件 (1653)	110.9%
化学療法混注件数	273件 (282)	2626件 (1953)	2899件 (2235)	129.7%

# 感染対策委員会

委員長名：野澤 聡志

## 開催実績

開催回数：年12回

定例開催日：毎月第4週水曜日

## 目標・開催目的

院内感染予防及び感染防止対策の充実と強化を図る

## 2023年度総括

### ①職員対象院内感染対策勉強会開催

第1回：「5類へ移行後の新型コロナウイルス感染対策」（受講率98.6%）

第2回：「風邪とインフルエンザ」（受講率98.1%）

第3回：「血液培養のすゝめ」（受講率97.6%）

### ②毎月の検出菌分離状況・耐性菌検出状況・結核陽性患者の把握

### ③特殊抗菌薬使用状況

1) 想定される感染症に対して必要な培養を採取している 86.2%

2) 培養の結果に基づいて適切な抗菌薬が選択されている 95.6%

3) 抗菌薬投与中に、継続の妥当性について評価が行われている 91.9%

### ④針刺し切創及び血液体液曝露状況の把握と対策

・針刺し切創 22件、皮膚粘膜曝露 8件

### ⑤手指衛生実施回数 7.66回/患者日（病棟）、19.85回/患者日（急性期ケアユニット）

### ⑥ICT/ASTラウンドの実施（週1回）

・環境ラウンド

・抗菌薬適正使用ラウンド 499件

・特殊抗菌薬使用者数 591件

うちAST介入件数 158件（27%）

・全抗菌薬に対してASTが介入を行い、カルテに記載した件数 160件

### ⑦血液培養2セット率 99.3%

### ⑧感染対策向上加算1取得

・第1回合同カンファレンス及び相互ラウンド（於聖隷横浜病院）

・第2回合同カンファレンス、新興感染症訓練（於聖隷横浜病院）

・第3回合同カンファレンス及び相互ラウンド（於横浜保土ヶ谷中央病院）

・第4回合同カンファレンス（於横浜保土ヶ谷中央病院）

### ⑨新型コロナウイルス感染症対策

各所と情報共有を図り、連携して感染防止に努めた。

## 2024年度目標

・院内感染防止対策の徹底及び推進

・抗菌薬適性使用支援チーム（AST）活動の充実～外来抗菌薬の使用状況介入～

・地域との連携を図り、感染対策向上加算1取得の継続

・サーベイランス還元情報の活用

・新型コロナウイルス感染症対策

## 緩和ケア委員会

委員長名：木下 真弓

### 開催実績

年12回 毎月第2週月曜日

### 目標・開催目的

- 緩和ケア病棟へのスムーズな移行
- 心不全チームとの連携強化
- 一般市民・医療者への緩和ケアセミナーの開催
- 緩和ケアマニュアル改訂

### 2023年度総括

2021年度は一般病棟から緩和ケアチームへの依頼件数が減少したが、2022年度は61件、2023年度は72件に介入依頼が増えた。依頼内容は緩和ケア病棟の申込が多く、一般病棟で緩和ケアチームが介入した後、39名の患者が緩和ケア病棟に入棟した。さらに、緩和ケア外来を利用する患者も年々増加し、2023年度は101名の患者が緩和ケア外来を利用した。

### 2024年度目標

- 緩和ケア病棟へのスムーズな移行
- 一般市民・医療者への緩和ケアセミナーの開催

## 実績

### 入院患者緩和ケアコンサルテーション実績

依頼件数		72
区分	がん	72
	非がん	0
がん患者について		
依頼の時期	診断から初期治療前	4
	がん治療中	12
	積極的がん治療終了後	56
依頼時のPS	0	0
	1	14
	2	15
	3	16
	4	27
転帰	終了（生存）	0
	退院（うち在宅ケア導入）	25（16）
	死亡退院	4
	緩和ケア病棟転院	39
	その他の転院	1
入院中	0	
非がん患者について		
病名	神経疾患	0
	呼吸器疾患	0
	循環器疾患	0
	腎疾患	0
	消化器疾患	0
	膠原病・免疫疾患	0
	内分泌・代謝・血液疾患	0
	感染性疾患	0
	慢性疼痛	0
	その他	0
がん患者・非がん患者の症状		
依頼内容	疼痛	47
	疼痛以外の身体症状	40
	精神症状	3
	家族ケア	1
	意思決定支援	9
	地域との連携/退院支援	12
	その他（緩和ケア病棟依頼）	40

## 救急委員会

委員長名：芦田 和博

### 開催実績

開催回数：年12回

定例開催日：毎月第4週月曜日

### 目標・開催目的

聖隷横浜病院における、救急患者の受入強化、院内急変対応の強化等、救急業務全般の効率化を検討することを目的として開催する。

### 2023年度総括

救急委員会が現場に直結する委員会であることを鑑み、診療現場に対する問題点には迅速に改善するよう取り組んだ。

#### ○救急車受入強化対策

- 1) 搬送患者の報告書を作成し各救急隊へ持参。  
その際、意見・要望を把握し委員会の議題に取り上げ改善を行った。
- 2) 救急車の受入状況について月次で情報分析を図った。
- 3) オンラインにて教育講演会の実施。

#### ○院内急変対応の強化

- 1) 早期患者対応システム（RRS）の活動  
入院患者の急変を早期に気付き対応できるように、特定行為研修を履修した認定看護師が計178回（月平均14.8回）の要請に対応。

また院内患者の状態を監視し、急変を起こしそうな患者に対し、早期介入を行うCCOTでの注意喚起も計104回（月平均8.7回）行った。

患者急変におけるアセスメントの一つとしてNEWSの記載を促進し、記載率も委員会内で共有した。

#### 2) 救急救命士の業務拡充

CPRコーチ（急変対応時の質の管理役）。

診療・処置介助、患者の問診実施。

BLS講習の実施（対面26回）。

防災・搬送訓練、急変対応勉強会の開催。

救急カートの管理・点検。

救急要請時の応需対応（夜間・休日を除く）。

#### ○特別顧問 相馬一亥 先生

2015年度より特別顧問として着任、救急体制や救急救命士の教育など幅広い見地からご助言・評価をいただいた。

#### ○ICLS講習会

3回開催し院内より28名が受講。

#### ○救急フォーラム

3回開催（オンライン）し、合計395名の隊員が受講。

#### ○コードブルー対応

10件の要請があり、各々事例について報告を行い適切な対応を検討した。

### 2024年度目標

#### 救急診療体制の充実

- ①救急医療の体制を充実し地域医療への貢献 救急車受け入れ：年間4,500件
- ②「急性心疾患」、「脳血管疾患」、「外傷（整形外科）救急」の受け入れ体制の強化
- ③入院・外来に通じた救急救命士の活用

### 実績

#### ■救急車受入実績

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度合計
2017年度	415	387	371	453	429	396	412	423	500	560	458	445	5,249
2018年度	418	399	410	520	447	400	477	418	501	558	390	388	5,326
2019年度	430	396	387	452	536	484	462	479	521	526	360	324	5,357
2020年度	279	274	261	254	325	285	334	339	397	366	357	343	3,814
2021年度	308	330	318	377	404	346	381	356	394	459	418	453	4,544
2022年度	312	365	362	494	331	296	298	313	343	406	280	272	4,072
2023年度	278	291	351	380	462	324	354	386	477	414	374	393	4,484

## クリニカルパス委員会

委員長名：天野 景治

### 開催実績

開催回数：年7回

定例開催日：毎月第3週月曜日

### 目標・開催目的

疾患に対して科学的根拠に基づいた質の高い水準で保たれた医療を提供できるクリニカルパスの作成を行っていくとともに、情報を共有化しチーム医療を実現、患者および家族と医療を提供していく中で問題点の共有、診療報酬の適正化を図っていくためにクリニカルパスの審査や普及に向けた取り組みを行う。

### 2023年度総括

1. クリニカルパスの導入支援。膠原病リウマチ内科に運用開始の支援を行い、新たに1種類のクリニカルパスの運用を開始している。
2. 機能評価受審に伴い、院内の関係部署に協力を依頼し、クリニカルパスの更新を行った。
3. バリエーションの集計を実施した。クリニカルパスの精度を高めるために3月に1回バリエーションの集計結果を報告している。また、集計結果は院内で共有されている。
4. クリニカルパス関連統計の分析を行った。年間のクリニカルパス使用率推移比較、クリニカルパス使用傾向分析等を行った。
5. 2023年度は、クリニカルパス使用患者数2178名（入院患者数5589名）使用率39.0%であった。（参考：21年度40.4%、22年度42.7%）

### 2024年度目標

1. バリエーションの分析  
昨年度に引き続きバリエーションの集計を行う。集計結果を分析・報告してパスの精度を高める。

2. パス使用率の向上（使用率40～50%）  
バリエーションの分析を行い、クリニカルパスの精度を上げて使用率40%から50%を目指す。
3. パス関連文書・マニュアルの整理、見直し  
電子カルテ内の患者用パス・運用マニュアル等について、使用状況や内容を確認し、整理・見直しを行う。

## 血液浄化センター委員会

委員長名：物江 浩樹

### 開催実績

開催回数：年12回

定例開催日：毎月第2週火曜日

### 目標・開催目的

血液浄化センター委員会（以下委員会）は、血液浄化センターの運営を円滑にするため、また人工透析を用いた治療（以下血液浄化療法）に関する機器および使用される透析液の安全管理を行う事を目的に設置されるものである。

### 2023年度総括

外来維持透析患者55名を目標とし、透析コンソールの安定稼働を目指した。目標数には達しなかったが外来維持透析件数は過去最高件数となった。また、コロナ禍における隔離透析や急性期病床での出張透析の件数も昨年に引き続き高い推移で経過した。腹膜透析2名（Baxter、TERUMO）複数機器に対応し、腎移植も1名の実施があった。透析患者の高齢化に伴い高齢者の新規導入や透析見合わせなど倫理的課題についても検討がされた。新型コロナウイルス感染症の5類移行に合わせ、透析患者における感染症管理についても検討がなされた。

#### 透析機器安全委員会

- ・徹底した水質管理を実施し、超純水透析液の基準を維持した。
- ・定期的に機器の保守点検を実施し、機器の安全性の確保に努めた。
- ・自施設で生菌測定が実施できる体制を確立し迅速な検査を実施した。

### 2024年度目標

- ・引き続き外来維持透析患者55名を目標とし、透析コンソールの安定稼働を目指す。
- ・血液透析、腹膜透析、血液・腹膜のハイブリッド透析など患者の個別性に合わせた導入支援を行う。

### 実績

項目	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
外来維持透析件数	6,293	5,806	6,992	7,929
入院透析件数	276	980	1,299	1,555
出張透析件数	73	142	232	214
合計	6,642	6,928	8,523	9,698
3月末外来維持患者数	40	44	50	49
平均外来維持患者数	41.6	39.4	47.2	50.5
新規透析導入件数	1	18	23	16

## 研修委員会

委員長名：田淵かおり

### 開催実績

開催回数：年12回

定例開催日：毎月第4週火曜日

### 目標・開催目的

病院理念を基盤に、職員ひとり一人がチーム及び組織の中で自己の役割を、責任をもって遂行し、よりよい医療を提供できるようになることを目的に人材育成を行う。

### 2023年度総括

#### <新人職員研修>

2023年6月15日に研修生37名、ファシリテータ8名で開催した。

前年度までは、半日体を動かす競技式のチーム体験の演習としていたが、より研修生が同時に参加できる演習（競技型1種、テーブル演習1種）に変更して実施した。結果、ねらいは達成できたと評価する。

#### <2年目職員研修>

第1回を2023年7月20日に研修生21名、ファシリテータ8名で開催した。第2回は、2024年2月15日に研修生17名、ファシリテータ8名で開催した。

院内の新型コロナウイルス感染者が増えた時期の開催となったため、十分な換気時間をプログラムに組み入れた。第2回は体調不良による欠席者が多かった。

#### <中堅職員研修>

第1回を2023年08月08日に、第2回を2023年10月13日、第3回を2023年11月10日、第4回を2024年02月20日に、研修生18名、ファシリテータ8名で開催した。

新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し、年6回だった開催回数を4回に割愛したり e-learning による自己

学習時間を導入したりと、研修全体の構成や時間配分を検討しながら実施した。

#### <アドバンス研修>

2023年11月17日に研修生11名、ファシリテータ7名で開催した。

前年度に引き続き、事前学習にe-learningを活用し、集合研修はグループ討議などを中心に行った。

### 2024年度目標

病院理念に基づいた“育てたい人材”のイメージを大切にしつつ、研修生の特性や様々な社会状況に柔軟に対応した研修内容や学習方法を検討していく。併せて、研修委員自身の研鑽も取り組んでいく。

## 減免・無料低額診療委員会

委員長名：山本 功二

### 開催実績

開催回数：年8回  
定例開催日：毎月第2週火曜日

### 目標・開催目的

生活困窮者の医療費の一部または全額を免除し、必要な医療を受け自立した日常生活を営めるよう支援する。

### 2023年度総括

2023年度の減免率は11.5%だった。そのうち、相談員が介入し、無料低額診療事業の対象となったのは2件あった。具体的には、長期入院によって経済的な状況が明らかになり、退院後すぐの仕事復帰が困難だったため、制度について案内し、医療費の減免を行った。

相談があった際には相談員が面談を行い、無料低額診療事業の対象にならない場合は利用できる他の制度についても案内しており、それぞれの社会背景にあった支援を行っている。

### 2024年度目標

- ・無料低額診療事業を行うための条件となる基準を全て満たし、当該事業における減免実績が患者総数の10%以上となるよう努める
- ・院内外に対する「無料低額診療事業」について周知方法について検討していく

## 広報委員会

委員長名：齋藤 徹

### 開催実績

開催回数：年12回  
定例開催日：毎月第2週金曜日

### 目標・開催目的

利用者および職員に当院を理解していただき、また当院と利用者および職員をつなぐものとしての広報活動を目的とし広報委員会を開催する。

### 2023年度総括

- ・季刊誌「聖隷よこはま」(No.140～144)を年4回、各2,500部発行
- ・外来診療担当表を毎月1日に3,000部発行
- ・季刊誌および外来診療担当表の企画立案・執筆・校正作業
- ・2022年度年報(第14号)43部
- ・ホームページの「聖隷よこはま～スタッフブログ～」の継続更新、アクセス解析及びモバイル利用件数の把握(毎月)
- ・社内報「SEIREI」の企画立案・執筆
- ・院内掲示管理(年1回)

### 2024年度目標

- ・広報活動を通し聖隷横浜病院のファンを院内・院外に増やし、「集患」へつなげる

---

---

## 購入委員会

委員長名：山本 功二

---

---

### 開催実績

開催回数：年12回

定例開催日：毎月第4週木曜日

### 目標・開催目的

3千円以上20万円未満の医療消耗備品・消耗備品の購買および設備修繕における妥当性・必要性・公平性・汎用性等を、多職種からの考察をもって適正に判断するために行う。

### 2023年度総括

#### ○医療消耗備品の部

申請総数169件のうち新規は25件、増数は57件、消耗交換は86件、紛失が1件の申請であった。新規のうち3割が、2023年度開始となった心臓リハビリテーションで必要な装具等の購入であった。また、消耗交換の約3割が手術室で使用する消耗器具類で、新規購入から2～5年程度経過しているものの交換であった。

#### ○消耗備品の部

申請総数91件のうち新規は13件、増数は23件、消耗交換は55件の申請であった。

また、消耗交換のうち4割が什器、コピー機、レンジ等で新規購入から7～8年程度経過しているものの交換であった。

### 2024年度目標

経年劣化が進んでいる備品類の更新検討や新規購入を計画的に行い、購入の価値分析（必要性、効用性、費用対効果、使用満足度、廉価性、標準化）に基づいた審議を引き続き行っていく。

## 呼吸ケアサポートチーム(RST)

委員長名：千葉 桃子

### 開催実績

開催回数：年3回

定例開催日：不定期 第1週火曜日

### 目標・開催目的

院内の人工呼吸器装着患者に対して、安全で適正に呼吸管理できることを前提としたラウンドと人工呼吸器からの早期離脱を目指すために現場でアドバイスすることを目標とした。また患者の苦痛が少ない呼吸に関する治療やケア、最新の治療や器具に関して検討する会とする。

### 2023年度総括

院内の人工呼吸器装着患者はACUにほぼ搬送するため、ACUにおいて主にラウンドを実施。ARDS患者に関しては呼吸器内科医師との協働で離脱への対応を行った。また、脳外科における人工呼吸器装着患者は脳外科病棟及びSCUで患者を管理しているため、上記部署でも離脱等の評価と実践も行った。

敗血症からのARDSや脳血管疾患による意識障害により離脱困難患者も多く、人工呼吸器装着期間も長く、VAC（人工呼吸器関連肺障害）院内発生件数は7件であった。

### 2024年度目標

- ・人工呼吸器使用患者の安全面での注意点や離脱に向けたケアを多職種で提案し、人工呼吸管理における合併症の発生を最小限にする。
- ・最新の治療や器具などを検討し、より安全で安楽な呼吸管理を目指す。

### 実績

RSTラウンド総数	28回
内離脱成功者	5名

VAEサーベランス年間集計	
人工呼吸器導入患者数	59名
述べ人工呼吸器使用日数	563日
VAC	7人
IVAC	1人
PVAP	0人

# NST委員会

委員長名：仲戸川 豊

## 開催実績

開催回数：年6回

定例開催日：奇数月第4週木曜日

## 目標・開催目的

当委員会はNST（栄養サポートチーム）の活動、運営に関する事項の審議や養成セミナー、合同カンファレンスの企画開催など、NST全体のマネジメントを行う。

## 2023年度総括

1. NST加算算定病棟での積極的な栄養介入（東3病棟・西1病棟）
2. NSTセミナーを年1回開催、商品説明等の勉強会【第1回】
  - ・アボットジャパン製品紹介（グルセルナREX）

## 【第2回】

- ・脳卒中早期栄養介入管理について1症例
- ・大塚製薬工場より栄養再開初期の患者に向けた、エネルギー・たんぱく質等を補給する濃厚流動食品ハイネックスリニユートについての説明会

## 3. 濃厚流動食ハイネックスリニユートの採用

早期栄養介入加算を10月の運用実績確認後11月より取得予定の為、栄養再開初期の患者に向けた、エネルギー・たんぱく質等を補給する濃厚流動食品を脳卒中ケアユニットで採用

## 4. NSTマニュアル改訂

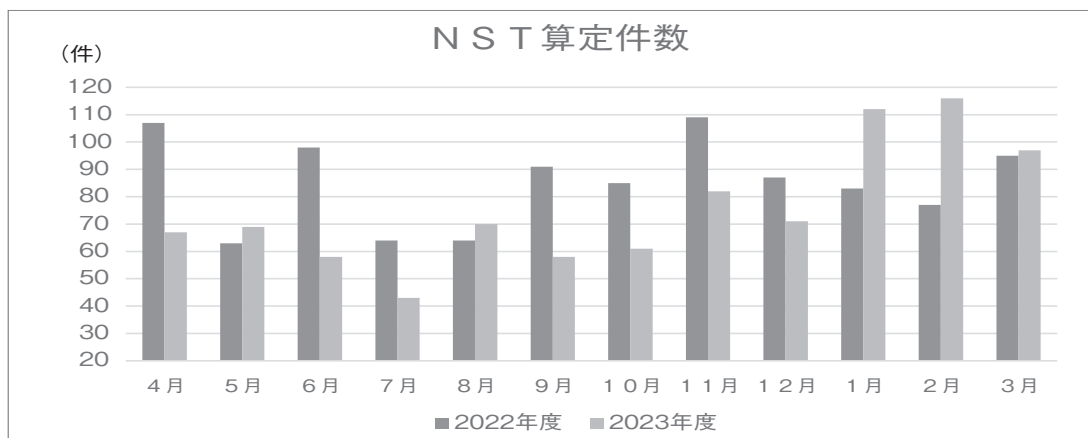
## 5. 各種濃厚流動食の検討

- ・ネクサス（クリニコ）
- ・テルミールアップリード（ニュートリー（テルモ））

## 2024年度目標

- ・栄養管理にかかわる所定の研修を修了した、常勤医師・看護師・管理栄養士・薬剤師の拡大と各病棟への配置
- ・栄養管理における最先端の知識の普及
- ・より実践に活かしやすい内容の勉強会実施
- ・急性期病棟での早期栄養介入
- ・採用濃厚流動食の見直し

## 実績



NST算定件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
2023年度	67	69	58	43	70	58	61	82	71	112	116	97	904	75.3
2022年度	107	63	98	64	64	91	85	109	87	83	77	95	1023	85.3

# 褥瘡対策委員会

委員長名：齋藤 徹

## 開催実績

開催回数：年6回

定例開催日：偶数月第4週水曜日

## 目標・開催目的

推定褥瘡発生率1.0%未満、ステージ3以上の褥瘡発生ゼロ、院内褥瘡発生患者数60名以下

## 2023年度総括

2023年度の推定褥瘡発生率は1.49%、褥瘡発生患者数は81名、ステージ3以上の褥瘡発生は0名だった。2022年度の推定褥瘡発生率よりも低下し、褥瘡発生患者数も減少することができた。発生部位と

しては、仙骨部が一番多く発生し、次いで踵、尾骨の順に多かった。NPUAP分類のステージ別ではステージ2の褥瘡が全体の61.7%を占めた。医療関連機器褥瘡は12名発生しており、発生の原因となる医療機器は弾性ストッキング・弾性包帯や酸素カスラ、ギプスシーネ、点滴の固定、尖足予防のための装具で発生していた。

自力体位変換が困難で、骨突出があり、栄養状態は低く、呼吸困難感や疼痛により得手体位がある患者の発生が多かったと考えられる。

## 2024年度目標

推定褥瘡発生率1.2%未満、ステージ3以上の褥瘡発生ゼロ、院内褥瘡発生患者数80名以下

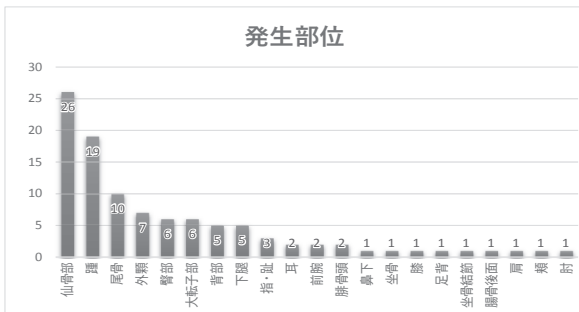
入院時の褥瘡発生リスクアセスメントを引き続き行っていく。褥瘡発生リスクがあり、長時間の頭側挙上を行う患者や得手体位のある患者などはさらに高リスクと考え、エアーマットレスなども利用し、入院時から褥瘡予防ケアを行っていく。

## 実績

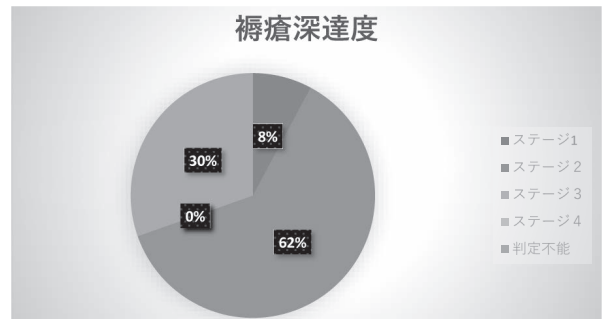
### 褥瘡発生率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均/合計
推定褥瘡発生率全体	1.12	1.68	1.22	2.18	1.16	1.28	1.88	1.11	1.91	1.17	1.56	1.65	1.493229054
褥瘡保有率全体 (%)	4.74	5.04	5.95	5.23	3.94	4.75	3.47	4.106598233	6.93	4.76	4.74	4.41	4.839357328
推定褥瘡発生率(褥瘡のみ)	0.95	1.58	1.13	1.92	1.03	1.02	1.78	1.11	1.75	0.86	1.17	1.23	1.295036019
推定発生率MDRPU (%)	0.173586041	0.10	0.09	0.26	0.13	0.26	0.09	0.00	0.00	0.31	0.39	0.41	0.185188686
褥瘡院内発生数(人)	7	9	9	7	4	9	6	5	6	8	7	4	81

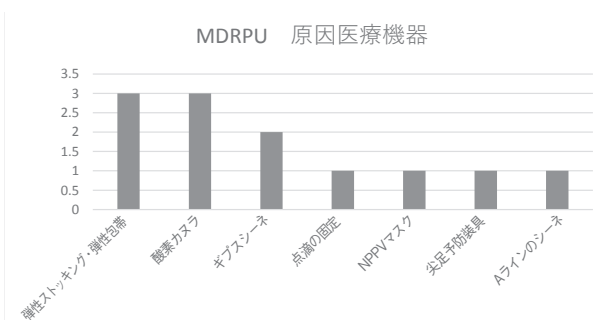
### 発生部位



### 褥瘡深達度



### MDRPU 原因医療機器



## 役割分担推進委員会

委員長名：野澤 聡志

### 開催実績

開催回数：年9回

定例開催日：毎月第3週木曜日

### 目標・開催目的

医師および看護職員の負担軽減等を目的として、多職種による役割分担を推進・調整する。

診療支援室が行う医師事務作業補助業務の妥当性を評価・検討する。

### 2023年度総括

診療体制の変更や業務整理を進めていくなかで生じる課題について、タスクシェア・タスクシフトの視点を含めて多職種で検討し、安全な医療サービスの提供に努めてきた。また医師・医療従事者の負担軽減計画や看護職の負担軽減計画を策定し、目標達成に向けた活動を推進してきた。

- ・新任常勤医師オリエンテーションの実施（5回）
- ・病院勤務医、看護師の負担軽減計画の立案と評価、次年度計画の検討
- ・特定看護師による末梢挿入型中心静脈カテーテル抜針の実施
- ・薬剤課による外来服薬指導（手術前と化学療法）と処方代行入力拡大
- ・放射線課スタッフによる造影剤ルートの抜針（12名の技師が対応可能）
- ・リハビリテーション課で気管チューブ内の吸引技術を学ぶための勉強会・講習会開催
- ・臨床工学室（CE）による内視鏡処置（内視鏡的逆行性胆道膵管造影）の補助拡大
- ・医師事務作業補助増員による予診聴取の診療科拡大

### 2024年度目標

2024年度は医師の働き方改革が始まり、より一層の多職種連携、タスクシフト・タスクシェアの業務整理が求められる。単に業務を委託するだけでなく、患者への良質な医療提供となるよう「線」を意識し、効率的・効果的業務整理を目指していく。

## 個人情報管理委員会

委員長名：平野 進

### 開催実績

開催回数：年12回

定例開催日：毎月第2週木曜日

### 目標・開催目的

個人情報保護法と厚生労働省のガイドラインに基づき定められた聖隷横浜病院個人情報保護方針に従って、個人情報の正しい管理と運用を行うことを目標とする。

### 2023年度総括

個人情報管理委員会では、個人情報の提供（診療情報の開示）に関する審査を随時実施し、個人情報の適正な管理のため、院内システムのセキュリティ対策について検討を行っている。

以下に2023年度の主な活動内容を挙げる。

- ・個人情報提供（診療情報の開示）審査
- ・個人情報の取扱いに関するインシデントの報告と対策検討
- ・入職者への個人情報取り扱いに関するオリエンテーションの実施
- ・全職員を対象とした個人情報・院内セキュリティ勉強会（e-learning）の実施  
2023年11月27日～2023年12月15日開催『2023年度・個人情報プライバシー勉強会・サイバー攻撃から病院とスタッフを守るための心得』
- ・サイバー攻撃によるシステムダウンを想定したシミュレーション実施
- ・迷惑メール、インターネット利用における注意喚起
- ・職員への個人情報保護に対する注意喚起
- ・ファイルサーバ等活用によるUSBメモリ利用数の削減の推進
- ・貸出USBメモリ棚卸し

・厚生労働省のガイドラインに準拠した各種規程の改版

### 2024年度目標

2023年度も全国で「ランサムウェア」によるサイバー攻撃が多く発生した。当院・事業団においてもセキュリティ対策・個人情報保護の対策を行っているが、さらなる対応が求められる。2024年度は情報システムの機器更新を実施するため、新しいシステムに合わせたセキュリティ対応、マニュアルの見直しなど必要な対応を行う。

## 診療情報管理委員会

委員長名：平野 進

### 開催実績

開催回数：年12回

定例開催日：毎月第2週木曜日

### 目標・開催目的

診療情報管理業務の効率的な運用のために、診療録に関する事項を検討、討議する活動を行い、質の高い診療録の管理および診療記録を用いた適切なインフォームドコンセントを達成することを目標とする。

### 2023年度総括

- ・新規診療記録審査。
- ・インフォームドコンセント成立のための説明書・同意書作成基準の設定。
- ・診療記録の量的監査実施と結果報告。
- ・診療記録の質的監査実施と結果報告。
- ・診療録管理体制加算1の算定に向けた取り組み。
- ・退院サマリの退院後14日以内記入に向けた取り組み。
- ・死亡解剖統計報告。
- ・ICD分類別疾病統計表の作成・報告。
- ・身体行動制限実施記録の入力評価・入力率向上への取り組み。
- ・同意書を用いた患者説明について立ち会いについての基準・指針の設定。

### 2024年度目標

- ・診療録管理体制加算1の算定条件である退院後14日以内の退院サマリ記入率90%以上の継続に向けた取り組みを行う。
- ・診療記録の量的・質的監査を実施し、各診療科へ結果報告を行い診療録の規定に基づいた診療記録の質向上を図る。
- ・病院機能評価受審結果を受けてより適切な診療録の作成に向けて取り組む。

## 図書委員会

委員長名：河合 慧

### 開催実績

開催回数：年6回  
定例開催日：偶数月第3週木曜日

### 目標・開催目的

- ・図書利用の周知
- ・定期購読雑誌の継続確認
- ・各部署の図書管理
- ・図書の整理

### 2023年度総括

- ・古書の清掃
- ・電子ジャーナルの入れ替えと契約更新
- ・ジャーナル以外の書籍の充実化

### 2024年度目標

- ・電子ジャーナルの利用促進

## 診療報酬適正化委員会

委員長名：波多野 孝史

### 開催実績

開催回数：年12回  
定例開催日：毎月第4週金曜日

### 目標・開催目的

診療報酬請求の適正化を目的として、以下の取り組みを行う。

- ・毎月の返戻・減点・再審査請求の傾向分析
- ・DPC出来高差上位・下位事例からの傾向分析
- ・適切なDPCコーディングの理解
- ・診療報酬制度のより深い理解と適正な請求を推進するための勉強会を開催

### 2023年度総括

- ・査定事例を毎月報告・検討し、最新の査定傾向を理解するとともに、多職種視点で査定対策を行い当該診療科に指導および助言を行った。
- ・再審査請求事例の検討を強化し、再審査請求件数の増加につなげた。  
(再審査提出件数：2022年度47件→2023年度55件)
- ・DPCコーディング確認の取り組みを継続し、部位不明コードについて、10%未満を維持した。
- ・保険診療に関する講習会を、下記期間・内容にてe-learning上で実施した。  
第1回 2023年7月26日～8月31日 「重症度、医療・看護必要度Ⅱ」(受講率56.5%)  
第2回 2023年3月5日～4月5日 「診療報酬改定2024」(受講率62.9%)

### 2024年度目標

- ・査定・返戻傾向を分析し、適正な診療報酬請求を多職種間で検討する。
- ・積極的な再審査請求に取り組み、請求復活率の向上を目指す。
- ・診療報酬制度の勉強会を開催する。受講率のさらなる向上にむけ、対面開催とe-learning配信のハイブリッド形式を確立する。
- ・DPC制度と傷病名コーディングについて、事例を元に検討し理解を深める。

## 接遇委員会

委員長名：竹下 宗徳

### 開催実績

開催回数：年11回  
定例開催日：毎月第2週木曜日

### 目標・開催目的

職員の接遇マナーを向上させることで、利用して下さる方々の安心感・満足感につなげる。また、職員の快適な職場環境の形成を目的として聖隷横浜病院接遇委員会（以下、委員会）を開催する。

### 2023年度総括

#### 1. 接遇巡視

巡視場所をランダムで行うようにし、1ヶ所当たり時間に時間をかけて巡視を行うことができた。それにより職員も身だしなみの確認を積極的に行うようになり、接遇マナーに対する意識向上につながった。

#### 2. 接遇だよりの発行

「利用者の声」や職員からの指摘や意見により、改善すべき内容とアドバイスを記載したものや、「接遇マニュアル」より抜粋した内容を記載したものを接遇だよりのとして月1回配信を実施。親しみやすい内容にこだわった「ワンポイント接遇」や「接遇マニュアル」の抜粋を各部署に回覧掲示することで、接遇を毎月違った内容で定期的に意識してもらえよう働きかけた。結果、職員から「接遇に対して意識するようになった」「接遇マニュアルを見直す機会になった」という声が上がリ、接遇について考えるきっかけとすることができた。

#### 3. あいさつの取り組み

「利用者の声」の意見により、あいさつについて改めて見直し、ポスター掲示や接遇委員が積極的にあいさつを行い職員の挨拶に対する意識を高めることができた。

#### 4. 次回巡視案内の発行

次回巡視の案内を配布し、接遇の巡視への意識を高めてもらうことができた。

### 2024年度目標

委員会で演習ロールプレイ・総合案内での実践、各職場での勉強会・ロールプレイを行う。「接遇マニュアル」を修正し内容を接遇だよりにて配信をする。全職員が全ての利用者・患者に対する接遇、および職員同士の接遇への理解を深め、相手の立場に立った行動ができるよう、接遇のスキルを身につけ向上するよう推進していく。

## 病院安全管理委員会

委員長名：波多野 孝史

### 開催実績

開催回数：年12回

定例開催日：毎月第3週水曜日

### 目標・開催目的

当院利用者の安全性の確保および向上を図るため、医療行為、その他業務における危険性の認知、分析と対策、実行を統合して行う

### 2023年度総括

#### 1. 安全管理体制の評価と職員間での共有

- ・17件の事例検討を行いマニュアルの運用方法や再発防止策などを決定、職員へ周知した。
- ・医療安全マニュアルについて、27のマニュアル・指針について策定、改定、廃止を行い、セーフティマネージャーと共有した。
- ・医療安全標語の募集を行い、職員へ医療安全への関心を高める取り組みをした。

#### 2. 研修実施

e-learning SafetyPlusにて研修を実施し、未受講者に対して資料及び確認テストを配布し伝達講習を実施した。

- ・職員医療安全研修：「MRI検査 安全管理講習」受講率98.0%  
(対象職員706名、受講者692名)
- ・医薬品安全管理セミナー：「ハイリスク薬の管理について」受講率96.8%  
(対象職員681名、受講者659名)

#### 3. 医療安全推進週間の取り組み

11月19日～25日を当院の医療安全推進週間とし、職員の安全意識向上に努めた。

- ・患者誤認撲滅キャンペーンとして指差呼称の強化を目的に研修を開催

- ・不審者対応マニュアルを整備しシミュレーションを実施
- ・「患者安全GoodJobアワード」を開催し、良い取り組みを表彰

#### 4. 他施設との連携

横浜保土ヶ谷中央病院（加算1連携病院）、育生会横浜病院（加算2連携病院）との相互ラウンドを全3回実施した。

### 2024年度目標

1. 患者誤認撲滅
2. 転倒転落による有害事象発生予防対策の整備
3. 医療安全体制の再構築
4. セキュリティ体制の強化
5. 地域連携加算1取得の継続
6. 身体拘束の最小化（適正化）

## 防災委員会

委員長名：青井 瑞穂

### 開催実績

開催回数：年6回  
定例開催日：奇数月第2週火曜日

### 目標・開催目的

火災予防および防災対策の強化を図るとともに職員の防災意識、知識の向上を目指す。

### 2023年度総括

#### ○地域防災活動

- ・保土ヶ谷区火災予防協会連絡会
- ・保土ヶ谷区・南区通信訓練
- ・南区のぼり旗掲出訓練
- ・神奈川県広域災害医療（EMIS）訓練
- ・保土ヶ谷区自衛消防隊技術訓練会
- ・保土ヶ谷区地域防災拠点診療検証訓練

#### ○防災訓練

- ・地震訓練  
開催日程：12月20日（水）  
開催時間：15：30～16：30  
訓練内容：救護所（トリアージエリア）設置訓練
- ・火災訓練  
開催日程：3月7日（火）  
開催時間：15：00～15：30  
訓練内容：夜間想定東3汚物処理室にて火災発生（初期消火・通報・避難誘導訓練）

#### ○マニュアル作成・改訂

- ・防災管理マニュアル改訂
- ・BCPマニュアル作成

### 2024年度目標

火災予防および防災対策の強化を図り、大規模災害における業務継続ができる体制および防災計画の検討を行っていく。

## 安全運転委員会

委員長名：青井 瑞穂

### 開催実績

開催回数：年2回  
定例開催日：奇数月第2週火曜日

### 目標・開催目的

交通ルールの遵守と正しい交通マナーの周知により安全運転意識の推進を行い交通事故防止の徹底を図る。

### 2023年度総括

#### ○交通安全クイズの実施

期間：2023年1月5日（金）～1月31日（水）

#### ○交通安全講習会の開催（e-learning）

期間：2024年1月9日（火）～1月31日（水）

#### ○業務用車両運転前の酒気帯び確認

- ・公用車使用前後の酒気帯び確認の実施
- ・飲酒運転撲滅運動の周知

### 2024年度目標

交通安全関連の法令・マナーに関する情報の発信や安全運転講習会などにより、職員の安全運転意識の向上に努め、交通事故の撲滅を目指す。

## 薬事（治験）委員会

委員長名：高岡 雄一

### 開催実績

開催回数：年6回

定例開催日：偶数月第4週火曜日

### 目標・開催目的

医薬品等選択の審議決定を通し、医薬品の適正使用および薬剤管理の合理的運営に資する。

### 2023年度総括

- ・隔月（偶数月）の第4火曜日に計6回（第123～第128回）開催され、各薬剤の採用・中止などについて討議・決定された。
  - ・DPC対策として、経済性、安全性、情報提供の充実度などを総合的に考慮した結果、第124回委員会において3種5薬剤を、第126回委員会において1薬剤を、第127回委員会において3種4薬剤を後発品へ変更した。
- この結果、2024年3月度の後発使用の数量割合は基準値の90%を超え、後発品使用体制加算1を算定している。
- ・2024年3月31日現在、後発医薬品採用品目率（院外限定を除く）が22.27%となり、中核的医療機関として使用促進を図った。
  - ・使用期限切迫薬剤及び使用期限切れ薬剤の削減のため採用区分変更検討を行い、第123回で1剤の採用中止、第123回で1剤、第124回で3剤、第125回で4剤、第127回で1剤、第128回で2剤の採用区分変更が承認された。
  - ・採用医薬品の定期的な見直しのため、前年度の購入実績0～1（包装単位）の採用薬品を薬剤課で抽出・確認し採用中止出来ないものを除外したリストを作成し診療科固有の薬剤は該当診療科へ、診療科がいくつにも関係するなどの全般的な薬剤のリストは全診療部長に配信し採用中止の可否について意見を募り、第126回委員会にて3剤の採

用中止、20剤の採用区分変更が承認された。

- ・院外限定採用薬を処方時に明確化すべきとの意見が挙がったため、薬品名称の前に「(院外)」と表記することが第126回委員会にて承認された。
- ・医薬品による健康被害情報報告書作成の報告は1件、医薬品安全性情報報告書作成は1件であった。

### 2024年度目標

- ・DPC対策として、後発医薬品採用品目・使用率の増加検討、フォーミュラリー策定と活用を検討。
- ・医薬品の適正使用、安全使用のための対策を検討。

### 実績

2023年3月31日現在の採用薬剤数

	内服	外用	注射	計
採用薬剤数	1006	403	556	1965
院外限定	487	174	17	678
用時購入	59	17	151	227
その他採用区分	460	212	388	1060
後発品目数	184	48	124	356
後発品目数 (院外限定)	40	12	1	53
後発品比率 (院内)	27.75%	15.72%	22.82%	23.54%

2024年3月31日現在の採用薬剤数

	内服	外用	注射	計
採用薬剤数	1060	409	547	2016
院外限定	541	181	23	745
用時購入	68	22	164	254
その他採用区分	451	206	360	1017
後発品目数	181	45	121	347
後発品目数 (院外限定)	50	13	1	64
後発品比率 (院内)	25.24%	14.04%	22.90%	22.27%

## 輸血療法委員会

委員長名：永井 啓之

### 開催実績

開催回数：年6回

定例開催日：奇数月第4週金曜日

### 目標・開催目的

1. 輸血運用について検討し、必要に応じて改善する
2. 輸血マニュアルを最新の情報に基づき作成・改訂し、随時更新および啓発することで安全な輸血療法実施を推進する
3. 血液製剤および血漿分画製剤の適正使用を推進し、適正使用加算の算定継続を目指す
4. 安全な輸血療法実施を目的とした輸血勉強会を、年1回以上開催する
5. 輸血療法の説明および同意書の取得・輸血実施時の3点認証の徹底を推進する
6. 同意書の取得漏れ及び内容不備件数の減少

### 2023年度総括

1. 院内における血液製剤及び血漿分画製剤の使用状況と輸血副作用の把握
2. 輸血適正使用加算の算定基準達成
3. 輸血同意書、血漿分画製剤同意書の取得状況及び記載内容不備件数の把握
4. 血漿分画製剤同意書の取得漏れ対策として、オーダー画面で注意喚起が出るよう設定
5. 輸血管理料Ⅱおよび適正使用加算取得状況の把握
6. 輸血マニュアルの改訂
7. アルブミン製剤について輸血療法勉強会を開催

### 2024年度目標

1. 輸血運用について検討し、必要に応じて改善する
2. 輸血マニュアルを最新の情報に基づき作成・改訂し、随時更新および啓発することで安全な輸血療法実施を推進する
3. 血液製剤および血漿分画製剤の適正使用を推進し、適正使用加算の算定継続を目指す
4. 安全な輸血療法実施を目的とした輸血勉強会を、年1回以上開催する
5. 輸血療法の説明および同意書の取得・輸血実施時の3点認証の徹底を推進する
6. 同意書の取得漏れ及び内容不備件数の減少

## 臨床検査適正化委員会

委員長名：横山 元昭

### 2024年度目標

1. 外部精度管理調査に参加し、検査精度の向上に努める
2. 医療安全と検査効率を考慮した運用方法を検討する
3. 新規検査項目導入や測定方法の変更などを検討し、関係部署への迅速な啓発を行う
4. 検査依頼件数および診療報酬査定状況をふまえ、臨床検査の適正化を図る

### 開催実績

開催回数：年6回

定例開催日：偶数月第4週金曜日

### 目標・開催目的

1. 外部精度管理調査に参加し、検査精度の向上に努める
2. 医療安全と検査効率を考慮した運用方法を検討する
3. 新規検査項目導入や測定方法の変更などを検討し、関係部署への迅速な啓発を行う
4. 検査依頼件数および診療報酬査定状況をふまえ、臨床検査の適正化を図る

### 2023年度総括

1. 検査室運営状況報告として以下5点を定例報告し、委員会で情報共有した
  - ①検査件数及び診療報酬請求点数
  - ②内部・外部精度管理調査報告
  - ③COVID-19関連検査件数
  - ④ポータブル検査件数
  - ⑤採血室の時間毎の患者数および待ち時間報告
2. 院内実施検査項目および外部委託検査項目の内容変更について検討、周知した
3. 分析装置の更新および測定試薬変更について検討、周知した
4. 手術室血液ガス分析装置の内部精度管理状況を確認し、臨床工学室へ運用を提案した
5. 検体採取容器の変更について検討した

## 倫理・臨床研究審査委員会

委員長名：兼子 友里

### 開催実績

開催回数：年12回

定例開催日：毎月第3週火曜日

### 目標・開催目的

聖隷横浜病院において行う医療行為および医学研究の実施にあたり、「ヘルシンキ宣言」の趣旨に沿った倫理上の指針を尊重し倫理的配慮を図る。

### 2023年度総括

2023年度は当院の倫理指針に基づき16件の審議検討を行った。

第1回：2023年4月18日（回覧審査）

- ・新型コロナウイルス陽性患者における全身麻酔下手術の転帰に関する全国調査。研究第二次アンケート調査
- ・高齢発症関節リウマチに対する生物学的抗リウマチ薬単独療法の有用性

第2回：2023年5月23日（回覧審査）

- ・CCT Coronary Web Live 2023 Yokohama
- ・位置合わせの透視時間短縮により得られた骨密度検査の被ばく低減効果について

第3回：2023年6月20日（回覧審査）

- ・自施設の脳血管内治療における手技ごとの造影剤使用量について
- ・統合レジストリによる多発性筋炎/皮膚筋炎関連間質性肺疾患の個別化医療基盤の構築

第4回：2023年7月18日（回覧審査）

- ・インターネットによる遺族調査
- ・脆弱性骨盤骨折におけるMRI予後予測

第5回：2023年10月17日（回覧審査）

- ・マンモグラフィ検査における圧迫圧低減の試み
- 臨時開催1：2023年11月20日（回覧審査）
- ・創傷ケアにおける新しい製品の使用について

第6回：2023年11月21日（回覧審査）

- ・VitalStaim Plus デモ機の使用

臨時開催2：2023年11月30日（回覧審査）

- ・ペディクルスクリューシステム刺入方法における固定性・術後変化に関する調査創傷ケアにおける新しい製品の使用について

第7回：2023年12月19日（回覧審査）

- ・「エンハーツ点滴静注用100mg 特定使用成績調査（乳癌）」患者を登録対象としたトラスツズマブデルクステカンデルクステカン中止後の後治療に関するコホート研究」の研究計画内容変更について

臨時開催3：2024年2月7日（回覧審査）

- ・個別 同意書の取得について

臨時開催4：2024年2月28日（回覧審査）

- ・あの世にお土産は持たせない！緩和ケア病棟における褥瘡発生減少に向けた取り組み

臨時開催5：2024年4月8日（回覧審査）

- ・大腸癌術後感染性合併症予測因子の検討

### 2024年度目標

病院として検討すべき臨床倫理に関する課題および臨床研究に関する事項について、2名の外部委員を加え、リスボン宣言やヘルシンキ宣言に示された倫理規範や、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、改定個人情報保護法等を踏まえた審議を引き続き実施する。

また、新たな診療・治療を実施する場合は、倫理面や安全面に配慮しながら組織的に検討および承認ができる体制づくりを目指したい。

## 特定行為管理委員会

委員長名：野澤 聡志

### 開催実績

開催回数：年3回  
定例開催日：不定期

### 目標・開催目的

看護師による特定行為についての実践状況や、安全管理上の問題・有害事象の有無などを院内で把握する。

### 2023年度総括

クリティカルケア関連に関しては、末梢留置型中心静脈栄養カテーテル（PICC）挿入や動脈血採血などを安全にタイムリーに実施。特にPICCに関しては30件以上／月と多く、タスクシフトという面で活用が推進された。

血糖コントロール関連では、年間150件ほど、医師と手順書を交わしインスリン投与量の調整を実施。周術期などでタスクシフトを担い、現場の看護師と医師との架け橋になっている。

創傷処置関連では、褥瘡等に対する処置は特定行為看護師が担い、患者に最適な皮膚ケアについて助言し現場の信頼を得てきている。

創部ドレーン関連では、対象となる疾患の手術症例数が少ないため件数は増えず。

人工呼吸器関連では、患者の状況に左右されるが、現場で医師と協働し調整が必要な患者に適切な人工呼吸器設定調整を行っている。

### 2024年度目標

2024年度は、各分野においてどうすれば特定行為を増やしていけるか、各個人の目標値をもち、クリアするための対策を練って件数増加を図る。

また、患者状況により件数が伸び悩む部門では、医師からの依頼が多い特定行為を追加で習得するなど、よりタイムリーに、安全に、タスクシフトできる特定行為実践を推進する。

### 実績

2023年度 特定行為者 実践件数

	坂田	平田	渡邊	武良	名倉
計	715	1629	112	4	37

---

---

## 外来運営会議

委員長名：山田 秀裕

---

---

### 開催実績

開催回数：年12回

定例開催日：毎月第1週木曜日

### 目標・開催目的

- ・外来運営に関する現状を共有し、問題点の解消、新規事項の検討を行う

### 2023年度総括

#### ○外来満足度調査の実施

実施期間：2023年12月11日（月）～12月15日（金）

回答数（合計）595枚

うち 初診：128枚 再診：467枚

調査結果を会議にて共有し、接遇等の改善を促した。

#### ○患者待ち時間調査の実施

実施期間：2023年9月4日（月）～9月9日（土）

- ・外来受付エリアに到着してから診察開始までの時間を調査した

#### ○看護部外来健康講座実施について

毎月テーマを決めて資料を配布し、啓発を行った。

### 2024年度目標

- ・外来運営に関する問題点の共有や新規運用についての検討
- ・外来患者増加に向けた取り組み

# 手術室運営委員会

委員長名：木下 真弓

## 開催実績

開催回数：年10回

定例開催日：毎月第1週水曜日

## 目標・開催目的

1. 手術枠の柔軟で効率的な運用の検討
2. 手術室感染対策の強化
3. 手術における問題の共有と対策の検討

## 2023年度総括

2023年度は感染対策を図りながら1850件の手術を安全に提供することができた。その他以下について検討した。

- ・コロナ感染症対策・手術運用マニュアル等各種マニュアル改訂・ME機器や衛生材料の効率使用・不良在庫の削減・中央材料室リコール訓練計画・その他手術運用に関する検討や情報共有 など

## 2024年度目標

1. 手術室感染対策の強化
2. 手術枠の効率的で安全な運用の検討
3. 手術における問題の共有と対策の検討

## 実績

2023年度手術件数1850件（2022年度1990件）

科名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	昨年
外科	28	30	34	20	28	32	27	32	34	30	26	31	352	357
眼科	19	25	19	26	28	17	26	29	16	27	20	14	266	181
呼吸器外科	5	6	4	9	4	5	5	2	3	3	6	4	56	56
耳鼻咽喉科	2	1	3	5	8	7	5	3	1	2	1		38	215
心臓血管	6	5	5	9	4	3	8	6	4	8	5	6	69	58
腎臓・血浄	2	3	2	3	5	66	4	4	3	4	3	4	103	38
整形外科	44	55	54	46	71	8	70	82	77	66	71	71	715	808
乳腺科	8	4	10	6	5	6	5	3	3	7	3	4	64	80
脳神経外科	6	9	9	8	6	8	6	6	5	4	4	7	78	70
泌尿器科	10	10	11	12	12		10	5	12	6	8	10	106	124
麻酔科		1									1	1	3	3
合計	130	149	151	144	171	152	166	172	158	157	148	152	1850	1990

## セーフティマネージャー運営会議

委員長名：清水 宏恵、田口 和美

### 開催実績

開催回数：年6回

定例開催日：奇数月最終月曜日

### 目標・開催目的

1. セーフティマネージャーの役割に基づき、医療事故および利用者からの苦情、クレーム防止活動を行う
2. 患者および職員・病院を守るとともに医療安全管理および患者サポート体制の充実、改善、強化を目指す

### 2023年度総括

- ・2022年度IAレポート年間報告
- ・2023年度運営会議の年間計画周知、医療安全管理室重点施策の共有
- ・ワーキンググループ活動  
院内暴力対策と院内防犯体制再構築、患者誤認撲滅、急変予測・早期対応力向上（A）[タイムアウト/鎮静]、急変予測・早期対応力向上（B）[術前後薬剤関連/指示薬標準化]、転倒転落予防対策検討の5グループにて、活動計画を策定し取り組んだ。結果として、各種マニュアルの改定および周知、シミュレーション実施による課題の気づきなど、セーフティマネージャーの役割に基づいた活動が実践できた。
- ・患者安全管理活動の実施  
各職場の安全に関する目標を「患者安全管理活動計画書」を活用して安全管理室と共有し、共に活動した。

## 糖尿病療養運営会議

委員長名：升田 雅史

### 開催実績

開催回数：年9回

定例開催日：奇数月第1週金曜日

### 目標・開催目的

- ・院内外の糖尿病療養指導を担うスタッフの指導力の刷新や向上を目指す
- ・糖尿病患者に関わる各部署のスタッフが統一した内容で指導できるシステムを作る
- ・当院が患者にとってよりよい指導、療養環境となるような環境作りを行う
- ・スタッフそれぞれの実績、実践報告と疑問点について医師に直接相談できる
- ・最新の治療や機器、薬剤に関する勉強会を開催する（医師）

### 2023年度総括

- ・SMBG機器の教育ツール（動画教材）の導入、勉強会
- ・リスクマネジメント委員会の依頼にて、その違いと注意点を盛り込んだ注射製剤の一覧表作成し、各部署に設置 使用方法について啓蒙
- ・新しく採用する注射製剤の勉強会開催
- ・健診で治療を要する方の外来受診促進のため、各医師の外来枠の調整を行った
- ・11月に当院外来患者向け糖尿病セミナー開催
- ・教育困難事例の話し合い

### 2024年度目標

- ・糖尿病学会の参加（東京で開催）
- ・SMBG機器の新機種への変更（リブレ、テルモ）
- ・教育テキストの変更
- ・新薬勉強会開催
- ・院内の糖尿病指導・啓蒙活動
- ・災害時のための患者指導マニュアルの作成と実施

## ボランティア運営会議

委員長名：兼子 友里

### 開催実績

開催回数：年4回

定例開催日：3ヶ月毎の最終月曜日

### 目標・開催目的

ボランティアの募集、受け入れ、活動支援を行い、ボランティア個人のモチベーションの維持、活性化を促すと共に、職員全体でサポートできる体制の強化を図る

### 2023年度総括

2023年度は、総合案内を中心に活動を行っている。昨今の日本と同じく高齢化の波が当院のボランティア活動にも見られるが、それぞれ体調に合わせて継続し活動いただいている。一方で専門学校の学生ボランティアからの応募が2年連続となり、新たな学生も活躍してくれた。縫製活動では、ユニフォームのほつれやボタン付けなど細かい作業に都度対応してくれている。聖隷横浜病院at山の上ギャラリーに関しても、季節を感じるタペストリーや写真など、患者さんや職員の気持ちに寄り添う展示を継続している。

また、コロナ禍で延期されていた活動時間表彰（ランチ会）が開催され、日頃の感謝をお伝えすると共に、モチベーションの維持、活性化を促すことが期待できる和やかな会となった。

### 2024年度目標

2024年度も総合案内を中心に、待機中のボランティア活動の再開を進めて行く予定である。今後も安全でやりがいのあるボランティア活動の強化と拡大を目指していく。

## リハビリテーション課運営会議

委員長名：内川 研

### 開催実績

開催回数：年6回

定例開催日：奇数月第4週水曜日

### 目標・開催目的

リハビリテーション運用の安定や効率向上のため、関連する各部署の職員の参加を要請し、共同（協同）して課題解決に向けて取り組む。

- ①回復期病棟基準I維持安定可能な体制づくり（人員配置）を検討する。
- ②現在リハビリテーション課が関わっている領域の安定運営を図る。

### 2023年度総括

以下について、関連医師および病棟スタッフと情報交換・意見交換を行った。

- ①リハビリテーション実績報告  
新人10名採用の中で、療法士1人あたりの平均単位提供数が年度平均14.8単位/日であったが、下半期の平均では15.5単位/日と過去最高であった。
- ②リハビリテーション課目標共有
- ③回復期リハビリテーション病棟（以下、回復期リハ病棟）の休日リハビリ介入体制報告  
新人の単位提供数増加に伴い、回復期リハ病棟の土曜日・日曜日の介入療法士人数を増やし、患者一人あたりへの提供単位数を増加することができた。しかし、最終四半期は他病棟病床稼働数増加・療法士人数減少に伴い、介入人数を減らし対応した（結果、患者一人あたりの提供単位数は減少した）。
- ④心大血管リハビリ開設報告
- ⑤採用状況報告

### 2024年度目標

- ①回復期病棟病床稼働向上に対する職員配置の検討  
急性期病棟への介入とのバランスをみながら検討する。
- ②急性期リハビリ運用（365日運用）の検討  
診療報酬改定を受け、次年度以降に向けて運用方法と必要人員のシミュレーション等を行う。

## ドック・健診室運営会議

委員長名：平野 進

### 開催実績

開催回数：年12回  
定例開催日：毎月第2週火曜日

### 目標・開催目的

私たちは、隣人愛の精神のもと、安全で良質な医療を提供し、地域に貢献し続けることを理念として、利用者の方々が安心して選び続けられる施設であるよう、関係各課の代表者により円滑な運営の検討を行う。

### 2023年度総括

- ・ 聖隷横浜病院職員健診の運用調整
- ・ 運用確認と改善案の検討
- ・ 日曜乳がん・婦人科検診の運用調整
- ・ 出張インフルエンザワクチン接種運用調整
- ・ エコー予約枠の検討と増枠調整
- ・ 聖隷関連施設の出張定期健診の運用調整
- ・ 聖隷関係施設向け出張ドック予約開始
- ・ 2階予約受付窓口開設
- ・ WEB予約の運用調整
- ・ 聖隷横浜病院ドック・健診室パンフレット作成
- ・ 電話回線増設
- ・ 初診者ミニアンケートと受診者アンケートの実施

### 2024年度目標

- ・ 当施設の特徴である健診と病院医療が連携できるメリットを活かしながら、予防医療を推進し、利用者により永続的に選び続けていただけるドック・健診室を目指す。

## 地域連携・患者支援センター運営会議

委員長名：山田 秀裕

### 開催実績

開催回数：年11回  
定例開催日：毎月第3週木曜日

### 目標・開催目的

地域住民、近隣医療機関・施設の医療ニーズに貢献するため、院内関連部署と連携・情報共有を図り活動していくこと

### 2023年度総括

- ・ 紹介、逆紹介件数報告、検討
- ・ 紹介元への返信状況の報告、検討  
<2023年度 即日返信実績>  
上半期：99.6%、下半期：99.7%
- ・ 時間外紹介患者受入れに関する件数報告、検討
- ・ 地域連携に携わる訪問活動・各行事の報告、検討
- ・ 各月ごとにテーマを取り決め、地域連携における課題について検討を行い、改善に向け活動を行った
- ・ 市民健康講話 2回開催  
(六ツ川一丁目コミュニティハウス)  
①2023年7月7日  
排尿からみた健康長寿の秘訣  
～知って得する！？尿漏れ・排尿障害の予防～  
②2023年3月3日  
のぼせ、冷え症、めまい、倦怠感、節々の痛み  
～諦めていたその症状に漢方薬はいかがですか？～

### 2024年度目標

地域住民・近隣医療・福祉・介護機関の医療ニーズを把握し、必要な医療に貢献できるよう、院内関連部署と連携を取り、計画的・戦略的な活動を行っていく

# 病床管理センター

委員長名：永井 啓之

## 開催実績

開催回数：年12回

定例開催日：毎月第4週水曜日

## 目標・開催目的

経営状況をふまえ患者入退院をコントロールすることを目的とする。

数値目標は病棟稼働率85%、平均患者数310名以上

## 【業務内容】

1. 入院しやすい病棟稼働への支援
2. 空床に関する情報収集と提供
3. 適正な平均在院日数への支援
4. 患者の治療状況に応じた病床環境の支援
5. 地域連携・患者支援センターと連携し、長期に渡る入院患者の転棟・転院等の支援
6. 医療・看護必要度管理の安定的な基準達成に向けた取り組み

## 2023年度総括

- ・各月入院患者数報告
- ・他院からの転院の受入調整
- ・入院患者増加による入退院調整
- ・特定入院料病棟の安定稼働
- ・地域包括ケア病棟の院内転棟率管理
- ・HCU・SCU稼働への取り組み
- ・退院予定指示の早期化
- ・転棟対象情報の提供
- ・診療科別入院経路
- ・GWや年末年始等の連休対応
- ・判定会の実施
- ・病棟入退室運用規程の更新
- ・重症度、医療・看護必要度と患者数検討

## 2024年度目標

病院理念に基づき、以下をふまえて効果的な病床管理に貢献するとともに、回復期病棟、緩和ケア病棟、地域包括ケア病棟に焦点をあて、総合的に多様なニーズに合わせた病床管理を実践する。

1. 最後の一床まで活用し地域医療に貢献する
2. 地域住民のために急性期を中心とした医療提供と救急医療を提供する

## 実績

病棟別病床稼働率

：%

病棟	定床	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
東1病棟	38	—	55.7	85.6	78.8	82.4
東2病棟	53	79.3	37.8	44.5	48.8	54.3
東3病棟	52	88.3	74.9	87.3	90.0	91.5
東4病棟	60	93.7	66.9	92.8	81.3	82.0
西1病棟	34	89.8	79.5	82.2	82.4	85.8
西2病棟	47	98.6	93.9	99.1	97.4	97.3
西3病棟	46	91.5	70.5	90.1	87.8	93.0
急ユニ	8	73	72.7	82.0	73.4	88.7
脳ユニ	9	99.5	99.7	98.9	93.7	95.5
B3病棟	20	—	59.2	82.2	80.7	82.1
全病棟	367	89.8	70.2	83.1	80.7	83.6

※東2病棟：新型コロナウイルス感染症回復後患者受入病棟

---

---

## 内視鏡センター運営委員会

委員長名：吹田 洋將

---

---

### 開催実績

開催回数：年6回

定例開催日：偶数月第1週金曜日

### 目標・開催目的

内視鏡センターにおける検査、治療を安全かつ円滑に施行するために、問題点の抽出・解決、関連部署の連携、設備・機器の検討を行なう

### 2023年度総括

- ・内視鏡検査枠及び業務の検討・整備
- ・稼働土曜日の内視鏡（ドック健診）枠の拡大
- ・鎮静剤使用後の安静解除基準の運用開始
- ・TV室治療検査におけるタイムアウトの実施範囲拡大
- ・内視鏡検査におけるIAの共有
- ・経鼻内視鏡検査推進の取り組み

### 2024年度目標

内視鏡センターにおける検査、治療を安全かつ円滑に施行するために、問題点の抽出・解決、関連部署の連携、設備・機器の検討を行なう

## 脳血管センター運営会議

委員長名：佐々木 亮

### 開催実績

開催回数：年12回

定例開催日：毎月第3週水曜日

### 目標・開催目的

脳卒中診療を中心に、脳神経疾患の急性期から回復期までを包括的に、より効率よく行うため、多職種にて情報交換、問題共有し、病院運営にフィードバックしていくことを目的とする。

### 2023年度総括

脳血管障害患者の包括的治療について多職種で情報交換を行った。

- ・西1・SCU・ACUの稼働状況

- ・リハビリ介入実績、急性期病棟から回復期病棟への介入状況
- ・放射線学的検査（CT・MRI）の実績
- ・地域連携室より紹介実績、救急車受け入れ状況
- ・医療機器購入や機器の情報報告
- ・脳卒中治療に関する薬剤や栄養療法の情報交換・栄養指導について
- ・回復期・地域包括病棟への転棟、早期退院を目指しMSWの介入状況
- ・入院単価・稼働率・手術件数等の医事データの報告

### 2024年度目標

- ・地域に対して救急診療での医療貢献、周辺のクリニックとの病診連携、また横浜市大との病病連携の強化により、診療実績を維持しつつ、脳神経疾患診療にてさらなる地域貢献を行う。
- ・SCUを含めた急性期から回復期、退院後の外来診療と継続した診療にて、「医療の質」の向上を目指す。

### 実績

入院単価

：点

診療科名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	今年度平均	前年度平均
脳神経外科	6689	6895	8106	6355	6500	6056	6681	7039	7213	6518	5972	7402	6786	5730
リハビリテーション科	3890	3892	3926	3999	4027	3995	4073	4057	3989	3889	3915	3695	3945	
全科平均	5736	5824	5739	5516	5787	5505	5522	5814	5615	5380	5601	5452	5624	5551

病棟稼働率

：%

病棟 (定床)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	今年度平均	前年度平均	
西1病棟	34	79.9	67.6	71.2	76.7	88.8	92.8	83.0	89.9	93.9	95.4	96.9	93.6	85.8	82.4
東1病棟	38	72.0	81.7	81.1	79.4	84.0	85.2	75.1	74.6	85.1	89.6	90.0	90.6	82.4	78.8
ユニット	8	78.8	72.6	87.1	86.7	90.3	93.3	90.3	85.8	92.7	94.8	93.5	98.0	88.7	73.4
SCU	9	100.4	100.0	94.1	97.1	100.0	93.3	95.0	98.5	89.2	97.5	84.7	96.1	95.5	93.7
一般病棟平均	235	80.8	73.4	79.5	80.0	87.1	86.7	81.0	83.1	90.0	89.5	92.0	89.6	84.4	81.3
全病棟平均	367	80.5	75.0	80.3	80.4	87.2	86.1	78.9	81.2	86.8	87.6	91.0	87.8	83.6	80.7

---

---

## 膠原病・リウマチ内科運営会議

委員長名：山田 秀裕

---

---

### 開催実績

開催回数：年5回

定例開催日：毎月第3週金曜日

### 目標・開催目的

- ・スタッフ間の連携を円滑に行い、入外患者の診療の質を高める。
- ・毎月第3金曜日にセンター運営会議を開催し、情報共有と今後の方針を相談する。
- ・関節リウマチ患者を対象としたリウマチ包括ケアを推進する。
- ・地域連携・患者支援センターや総務課と共同して広報活動やホームページ作成を行う。

### 2023年度総括

リウマチ包括ケアに関わる多職種のメンバー間で必要な情報を共有した。

### 2024年度目標

- ・スタッフ間の連携を円滑に行い、入外患者の診療の質を高める。
- ・毎月第3金曜日にセンター運営会議を開催し、情報共有と今後の方針を相談する。
- ・関節リウマチ患者を対象としたリウマチ包括ケアを推進する。
- ・地域連携・患者支援センターや総務課と共同して広報活動やホームページ作成を行う。

## 乳腺センター運営会議

委員長名：徳田 裕

### 開催実績

開催回数：年9回

定例開催日：毎月第4週火曜日

### 目標・開催目的

患者中心の最先端医療を提供するために、多職種のスタッフより構成されるセンターのシステム構築とその改良および発展を目標とする。

構成メンバーは、以下のとおりである。

化学療法担当看護師、病棟看護師、放射線課（マンモトームを含む）、検査課（遺伝子検査、超音波検査）、地域連携室（センチネルリンパ節生検用RI注射及びリンパ節スキャン）、医師事務作業補助者、医療情報管理課、ドック・健診科などのスタッフ

### 2023年度総括

米国のガイドラインでは、標準的な診断システムであるExact Science社が開発したOncotypeDXが2021年12月1日より保険承認されたが、登録システム不備のため承認延期となったため無償提供となり、2023年3月までに10例で実施した。2023年7月末にて無償提供は終了し、その後9月1日より保険対象となった。

2023年12月にフェスゴが承認され、ポートの入っていない患者で、希望によりハーセプチン+パージェタ2剤静注の代わりに、フェスゴを使用した。

### 2023年度主要項目実績

乳がん感受性遺伝子（BRCA1/2）検査の施設認定を獲得しており、2023年度の検査数は、44例であった。（前年度43例）

センチネルリンパ節生検実施症例数の増加に伴い、新たにみなと赤十字病院にRI注射を委託し、運用を開始しているが、2023年度の症例数は24例となり、

従来の市大センター病院と合わせると合計55例であった。

マンモグラフィで発見されたカテゴリ-3以上の微細石灰化巣に対するステレオマンモトーム生検を2020年2月13日より開始し、第2、4火曜日午後各2例の予約で継続している。2023年度の実績は、41例実施し、悪性7例であった。

### 2024年度目標

総合企画室からの提案に基づき、月間紹介患者数を2023年度の目標値に設定しているが、概ね目標値を達成した。

また、入院外来合計の医療費実績は、2022年度は、273,676,440に対し、2023年度は308,145,700と34,469,260（12.6%）の増加となった。

## 緩和ケア病棟運営委員会

委員長名：木下 真弓

### 開催実績

開催回数：年6回

定例開催日：不定期金曜日

### 目標・開催目的

- 効果的な病床運用について
- 医療機能評価に向けての整備
- 面会ルールの整備・修正
- 患者獲得へ向けての広報活動の検討など

### 2023年度総括

#### 2023年度 緩和ケア病棟 入退棟データ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入棟相談外来件数	38	38	42	44	53	39	48	41	37	34	37	42	493
	院内紹介	6	5	7	10	12	7	8	6	7	3	6	90
	院外	32	33	35	34	41	32	40	35	30	31	31	403
入棟患者数	30	26	36	30	29	31	32	23	28	26	27	28	346
	自宅からの入院	23	16	25	17	17	16	16	12	14	17	18	206
	病院からの転院	5	5	5	7	5	10	9	9	8	6	5	81
	当院→転棟	2	5	6	6	7	5	6	2	6	3	4	58
入棟待機日数	4.9	3.4	3.5	5.1	7	3.8	3.8	3.3	5	3.1	3.2	2.9	
転帰	死亡退院	25	19	22	24	24	28	26	15	26	17	21	267
	自宅退院	7	4	8	4	9	3	5	0	3	5	6	57
	施設退院	1	3	1	0	0	2	1	2	3	1	3	20
	転棟/転院	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
入棟日数	13.7	21.3	16.6	18.3	18.6	15.0	14.8	17.2	20.2	15.4	15.3	20.2	

2023年度、入棟相談外来受診者は493名あり、80%の方が院外からの紹介だった。開棟後、過去最高の346名の入院を受け入れることができた。75%の方が在宅からの入院であり、今後も近隣医療機関との連携を強化できるように、効果的な病床運用を行い、患者獲得へ向けて広報活動の検討を行った。また、医療機能評価受審に向けて整備を行い、無事に審査合格することが出来た。

### 2024年度目標

- 患者の苦痛緩和のために、緩和ケアの質向上を行う
- 効果的な病床運用の継続（病床稼働率90%を目指すため）
- 患者獲得へ向けての広報活動の検討
- ボランティアや病棟内アクティビティの推進準備

## 情報システム運営会議

委員長名：平野 進

### 開催実績

開催回数：年11回

定例開催日：毎月第3週金曜日

### 目標・開催目的

本運営会議においては、病院の基幹システムである電子カルテを中心とした情報システムの導入や稼働に関わる運用の検討、周知を行っている。電子カルテをはじめとする院内の情報システムのユーザは他職種にまたがり、その運用も複雑となる。このため、本運営会議では医師・看護師・コメディカル・事務と各部署から代表者が集まり、職種間で運用等を議論し集約することにより、安全かつ効率的な運用を目指す。

### 2023年度総括

当年度は個人情報管理委員会と共同で、サイバー攻撃を想定したシステムダウン時のシミュレーションを実施。また、情報システム機器のハードウェア更新を翌年度に控え、更新を円滑に進める為の運用検討やシステム変更点の周知などを行った。

1. サイバー攻撃を想定したシステムダウン時のシミュレーション実施
  - ・実施方法・マニュアルの周知、運用の検討
  - ・当日の実施状況を踏まえた今後の運用改善に関する協議
2. 2024年度情報システム機器のハードウェア更新に向けた検討・周知
  - ・システム更新当日の運用検討
  - ・予定されるシステム変更点の周知、更新スケジュールの周知
3. 障害発生状況と対応状況報告
4. 機器の取扱いや故障対応に関する注意喚起

### 2024年度目標

2024年度は5月に情報システム機器のハードウェア更新を予定している。継続して当日の運用検討や更新に関する周知を本会議にて行う。これまでの検討事項に加え、さらに詳細な運用の調整および院内への周知を行いスムーズな更新ができるよう準備を進める。更新後はシステム停止時に課題となった内容を踏まえBCP対策および運用マニュアルのブラッシュアップを行っていく。

# 医師・医療従事者の働き方 改革プロジェクト

委員長名：新美 浩

## 開催実績

開催回数：年1回

定例開催日：不定期

## 目標・開催目的

医師や医療従事者の働き方に関する事項を検討し、病院で働くすべての職員の働き方の適正化を図る。

2024年4月から施行される医師の働き方改革関連法の中で求められている時間外労働時間や連続勤務時間の適正化、勤務間インターバル時間の確保などの要件を病院として達成するために、勤務時間などの現状の把握、分析、解決策の検討および実行を行う。

## 2023年度総括

2024年4月の医師働き方改革関連法に適應するための準備として、宿日直許可取得、特例B水準指定のための医療機関勤務環境評価センター受審、特定地域医療提供機関申請を適切に行った。

上記許可や認定等を取得するために、特定の診療科の医師の時間外労働時間短縮計画を策定したほか、医師の日当直制度を宿日直許可に適應した制度に変更、長時間労働が発生した医師の面接指導の実施方法、就業上の措置の実施に関するマニュアルの策定、勤務間インターバル・代償休息に関するルールの策定、などを実施した。

## 【関連する許可、認定等の取得等】

- ・2023年6月29日 宿日直許可取得（労働基準監督署）
- ・2024年2月08日 医療機関勤務環境評価センター受審-認定（日本医師会）
- ・2024年3月28日 特定地域医療提供機関（特例B水準）指定（神奈川県）

## 【参加した説明会や講演会等】

- ・2023年4月21日（金）「医療機関勤務環境評価センター 評価受審のポイントおよびC-2水準に関する説明会」（主催：日本医師会）
- ・2023年8月8日（火）「医療機関労務管理実務者対象のオンラインセミナー」（主催：神奈川県）
- ・2023年9月～11月「医師の働き方改革推進セミナー（WEB）」（主催：厚生労働省）

## 2024年度目標

2024年4月より医師働き方改革関連法が施行されるため、医師の時間外労働時間のモニタリングしながら、長時間労働医師に対する面談の実施、必要があれば病院長などの病院幹部と協力して就業上の措置を行うなど、医師働き方改革関連法に適切に対応していく。

## 教育・症例検討・講演会実績・市民公開講座

### 病院学会

- ・第21回 聖隷横浜病院学会 開催日 2024年1月13日

### 職員研修

- ・新入職員研修  
開催日 2023年6月15日 場所 聖隷横浜病院
- ・2年目職員研修  
開催日 2023年7月20日、2024年2月15日 場所 聖隷横浜病院
- ・中堅職員研修  
開催日 2023年8月8日、10月13日、11月10日、2024年2月20日 場所 聖隷横浜病院
- ・アドバンス研修  
開催日 2023年11月17日 場所 聖隷横浜病院

### 委員会主催研修・講演会・e-learning

- ・病院医療安全管理委員会  
第1回 職員医療安全研修「MRI検査 安全管理講習」  
受講期間 2023年6月26日～7月17日
- ・安全運転委員会  
2021年度交通安全講習会  
受講期間 2024年1月9日～1月31日
- ・感染対策委員会  
第1回 感染対策勉強会「5類へ移行後の新型コロナウイルス感染対策」  
受講期間 2023年8月7日～8月28日  
第2回 感染対策勉強会「風邪とインフルエンザ」  
受講期間 2023年12月25日～2024年1月15日  
第3回 感染対策勉強会「血液培養のすゝめ」  
受講期間 2024年2月13日～2024年2月26日
- ・個人情報管理委員会  
2023年度 個人情報・プライバシー勉強会  
開催日 2023年11月27日～2023年12月15日

### 症例検討会

- ・第129回 CPC症例検討会  
症例 HCVの既往感染者（HCV-RNA陰性）に発生したびまん型肝細胞癌の症例  
開催日 2023年1月24日
- ・第130回 CPC症例検討会  
症例 Aspergillus niger肺感染に伴う oxalosis に起因する、肺炎・尿細管傷害・凝固異常を来した症例  
開催日 2023年3月28日
- ・第131回 CPC症例検討会  
症例 PBC伴存RAの治療中にアバタセプト投与中止後、急激にPBCが増悪、肝不全で死亡した症例  
開催日 2023年9月26日
- ・第132回 CPC症例検討会  
症例 慢性疾患に伴う貧血に対し長期にわたり鉄剤投与した結果、異常鉄沈着症来した一例  
開催日 2023年11月22日
- ・第133回 CPC症例検討会  
症例 剖検により類天疱瘡と自己免疫性筋炎の合併が疑われた症例  
開催日 2023年11月28日

- ・第134回 CPC症例検討会  
症例 虚血性心不全の診断で血行再建を行うも救命できなかった症例  
開催日 2024年2月27日
- ・第135回 CPC症例検討会  
症例 メトトレキサート関連リンパ増殖性疾患に急性腎不全を伴い、急激に悪化し死亡した一例  
開催日 2024年3月26日

### 聖隷横浜病院 健康講和

- ・オンライン市民公開講座  
丈夫で長生き！ 排尿からみた長寿の秘訣 泌尿器科 波多野長補佐  
自宅のできる運動 パート5 リハビリテーション課 木村、シュレスト  
配信日 2023年6月1日

### YouTube 動画配信記録

- ・管理栄養士が考える栄養レシピ  
暑さで食欲が無くなるこの時期に！-夏野菜でバテ予防-  
配信日 2023年7月4日  
食物繊維で腸活！-腸の健康を保ち免疫力UP-  
開催日 2023年10月20日

### 実習生受入

- ・看護部  
横浜市医師会聖灯看護専門学校  
横浜中央看護専門学校  
関東学院大学  
横浜未来看護専門学校  
神奈川県立保健福祉大学  
横浜市病院協会看護専門学校
- ・薬剤部  
星薬科大学
- ・検査課  
杏林大学
- ・栄養課  
神奈川工科大学  
関東学院大学  
鎌倉女子大学  
駒澤大学  
東京聖栄大学  
相模女子大学
- ・リハビリテーション課  
帝京科学大学  
文京学院大学  
東京工科大学  
帝京平成大学  
城西国際大学

## 2023年度 学術業績 講演会・学会発表

地域連携・患者支援センター	
区 分	学会発表
演 題 名	紹介状即日返書の徹底と効果 ー変革推進の軌跡ー
演者・共同演者	演者：柳田 悠太 共同演者：伊藤 絵里香、橋本 紗知、亀田 つかさ、中山 栄佳、蛭海 綺音 山田 秀裕、山本 功二
学 会 名 等	第73回日本病院学会 仙台国際センター 2023.9.22
腎臓・高血圧内科	
区 分	学会発表
演 題 名	急性腎後性腎障害に合併した中枢性尿崩症の一例
演者・共同演者	野田 翔平、内田 木香、大石 真理子、眞弓 健吾
学 会 名 等	第53回日本腎臓学会東部学術大会 仙台国際センター 2023.9.16-17
アレルギー内科	
区 分	講演会（WEB）
演 題 名	気管支喘息治療における吸入トリプル製剤選択と導入のポイント
演者・共同演者	渡邊 直人
学 会 名 等	GSK Asthma Web Seminar in YOKOHAMA、2023.6.5
区 分	院内研修セミナー
演 題 名	気管支喘息とCOPDとの鑑別
演者・共同演者	渡邊 直人
学 会 名 等	内科専門医研修セミナー、2023.8.21 病院大会議室
区 分	講演会（WEB）
演 題 名	COPDの定義から考える吸入トリプル製剤の位置付け
演者・共同演者	渡邊 直人
学 会 名 等	城東地区 COPDを考える会、2023.8.30
区 分	講演会
演 題 名	座長：講演1 プライマリケアにおける咳嗽診療～咳喘息の診断と新規鎮咳薬の選択についての提案～
演者・共同演者	渡邊 直人
学 会 名 等	Cough Expert Seminar、2023.9.7 横浜
区 分	講演会
演 題 名	パネリスト 難治性慢性咳嗽診療の新展開について考える"
演者・共同演者	渡邊 直人
学 会 名 等	Cough Expert Seminar、2023.9.7 横浜
区 分	講演会（ハイブリッド）
演 題 名	Closing Remarks 喘息患者における吸入トリプル製剤選択の利点
演者・共同演者	渡邊 直人
学 会 名 等	第49回西横浜喘息・COPD懇話会、2023.9.29 横浜
区 分	講演会（ハイブリッド）
演 題 名	座長：特別講演1加熱式タバコの最新情報と今後の懸念点そしてCOPDとの関係は
演者・共同演者	宮尾 直樹先生（日本鋼管病院副院長／内科統括部長）
学 会 名 等	第50回西横浜喘息・COPD懇話会、2023.11.17 横浜
区 分	講演会（WEB）
演 題 名	漢方薬による感染症対策～インフルエンザを中心に～
演者・共同演者	渡邊 直人
学 会 名 等	第7回横浜市薬剤師会学術研修会、2023.11.18 WEB
区 分	講演会（ハイブリッド）
演 題 名	座長：特別講演咳症状から考える呼吸器診療 up to date～咳嗽診断から最新治療まで～
演者・共同演者	丸毛 聡先生（医学研究所北野病院呼吸器内科部長）
学 会 名 等	第51回西横浜喘息・COPD懇話会、2023.12.15 横浜

● 教育・学術実績 ●

区 演 演者・共同演者 学 学 会 名 等	分 題 名 名 等	講演会（ハイブリッド） Closing Remarks咳過敏症候群（Cough Hypersensitivity Syndrome:CHS）について 渡邊 直人 第51回西横浜喘息・COPD懇話会、2023.12.15 横浜
区 演 演者・共同演者 学 学 会 名 等	分 題 名 名 等	講演会（ハイブリッド） 第7回漢方セミナー 咳嗽に対する麦門冬湯の有用性～自主研究結果からの考察～ 渡邊 直人 第17回DMU-K総合臨床懇話会、2024.1.27 横浜
区 演 演者・共同演者 学 学 会 名 等	分 題 名 名 等	講演会（ハイブリッド） 座長：特別講演2重症喘息におけるType2炎症の役割と併存症を考慮した治療戦略 高橋 浩一郎先生（佐賀大学医学部附属病院呼吸器内科講師） 第52回西横浜喘息・COPD懇話会、2024.2.16 横浜
区 演 演者・共同演者 学 学 会 名 等	分 題 名 名 等	講演会（WEB） 座長 気管支喘息-臨床的寛解は何をもたらすのか 加志崎 史大先生（横浜南共済病院呼吸器内科部長） 重症喘息ランチセミナー、2024.3.5 WEB
区 演 演者・共同演者 学 学 会 名 等	分 題 名 名 等	学会発表：国際学会 A follow-up report on the duration of efficacy in case of marked response to single-dose administration of tezeperumab Naoto Watanabe 第32回国際喘息学会日本・北アジア部会、2023.12.1-2 東京
区 演 演者・共同演者 学 学 会 名 等	分 題 名 名 等	学会発表：国内学会 アンケート調査による院内薬局と院外薬局職員の新型タバコ認知状況の比較 渡邊 直人、荒井 一徳 第63回日本呼吸器学会総会、2023.4.28-30 東京
区 演 演者・共同演者 学 学 会 名 等	分 題 名 名 等	学会発表 喘息病態が気道のTRPV1に及ぼす影響 渡邊 直人 第88回日本温泉気候物理医学会、2023.5.13-14 別府
区 演 演者・共同演者 学 学 会 名 等	分 題 名 名 等	学会発表 座長：一般演題 渡邊 直人 第53回日本職業・環境アレルギー学会、2023.5.27-28 東京
区 演 演者・共同演者 学 学 会 名 等	分 題 名 名 等	学会発表 ヒスタミン加人免疫グロブリン療法がアナフィラキシーに有効であった果物アレルギーの症例 渡邊 直人 第53回日本職業・環境アレルギー学会、2023.5.27-28 東京
区 演 演者・共同演者 学 学 会 名 等	分 題 名 名 等	学会発表 市販薬スグナIPにより発症したイブプロフェン過敏症 渡邊 直人 第9回日本アレルギー学会関東地方会、2023.7.8 東京
区 演 演者・共同演者 学 学 会 名 等	分 題 名 名 等	学会発表 テゼベルマブ1回投与で著効し効果が持続した症例 渡邊 直人 第9回日本アレルギー学会関東地方会、2023.7.8 東京
区 演 演者・共同演者 学 学 会 名 等	分 題 名 名 等	学会発表 座長：一般演題 渡邊 直人 第4回日本喘息学会、2023.7.22-23 東京

● 教育・学術実績 ●

区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会	学会発表 開業医を対象とした喘息治療生物学的製剤自己注射についてのアンケート調査結果 渡邊 直人 第4回日本喘息学会、2023.7.22-23 東京
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会	学会発表 テゼペルマブ初回投与で著効した重症喘息症例 渡邊 直人 第4回日本喘息学会、2023.7.22-23 東京
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会	学会発表 座長：一般演題 渡邊 直人 第25回日本咳嗽学会、2023.9.16-17 宇都宮
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会	学会発表（WEB開催） 気管支喘息患者における3剤吸入配合剤（テリルジーR）についてのアンケート調査結果からの考察 渡邊 直人 第25回日本咳嗽学会、2023.9.16-17 宇都宮
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会	学会発表 開業医を対象とした喘息治療生物学的製剤自己注射についてのアンケート調査結果 渡邊 直人 第25回日本咳嗽学会、2023.9.16-17 宇都宮
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会	学会発表 開業医を対象とした喘息治療生物学的製剤自己注射についてのアンケート調査結果 渡邊 直人 第89回臨床アレルギー研究会、2023.10.7 東京（WEB）
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会	学会発表 テゼペルマブ初回投与で有効であった3症例から得た考察 渡邊 直人 第72回日本アレルギー学会総会、2023.10.20-22 東京
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会	学会発表 同時多項目アレルギー検査のSiLISアレルギー45+1（開発品）とView39とのデータ比較検証 渡邊 直人、北村 勝彦、増田 敬、竹下 郁伶、山本 伸也、小田 操 第72回日本アレルギー学会総会、2023.10.20-22 東京
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会	学会発表（WEB） アンケート調査結果にみる東京都調剤薬局職員の新型タバコおよびタバコ対策の認知状況結果からの考察 渡邊 直人、荒井 一徳 第17回日本禁煙学会、2023.10.29-30 WEB開催
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会	学会発表 喘息・COPD治療薬の3剤吸入配合剤（テリルジーR）についてのアンケート調査結果 渡邊 直人 第257回日本呼吸器学会関東地方会、2023.11.11 東京
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会	学会発表（WEB開催） テゼペルマブ1回投与で著効した重症喘息症例において、気道炎症への持続効果より得られた考察 渡邊 直人 アレルギー・好酸球研究会2023、2023.11.23 東京
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会	学会発表 食物アレルギーが疑われたが、コチニール色素が原因と判明したアナフィラキシー症例 渡邊 直人 第10回日本アレルギー学会関東地方会、2023.11.25 東京
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会	学会発表（共同演者） Differences in amount of knowledge among pharmacists and clerical staffs in dispensing pharmacies about new-type tobacco products and tobacco controls Kazunori Arai, Naoto Watanabe 第63回日本呼吸器学会総会、2023.4.28-30 東京

区 演 者 学 会 名 等	分 名	学会発表 1都6県14都県立高校生の市中における受動喫煙曝露（Community-exposed secondhand smoke:CE-SHS） 実態調査結果 荒井 一徳、吉原 重美、福田 啓伸、宮本 学、南部 光彦、望月 博之、川合 厚子、渡邊 直人 第12回日本小児禁煙研究会学術集会、2023.4.1-2 名古屋
区 演 者 学 会 名 等	分 名	学会発表 高校生が慢性疾患および急性疾患で受診する診療科についての移行期医療に関する実態調査 ～地域の診療所数の割合との関係～ 荒井 一徳、渡邊 直人、福田 啓伸、吉原 重美 第39回日本小児臨床アレルギー学会、2023.7.15-16 福岡
区 演 者 学 会 名 等	分 名	学会発表 インフルエンザワクチンフルービックHAの有用性についての検討 下野谷 聡、渡邊 直人、山田 秀裕、芦田 和博 第688回内科学会関東地方会、2023.9.9 東京
膠原病・リウマチ内科		
区 演 者 学 会 名 等	分 名	講演会 リウマチ包括ケア研究会の趣旨 山田 秀裕 第7回リウマチ包括ケア研究会ー食の安全ー オンライン 2023.4.15
区 演 者 学 会 名 等	分 名	講演会 多職種連携診療チームによるリウマチ包括ケアの実践と課題 山田 秀裕 RA多職種連携会 in 神奈川 平塚 2023.9.14
区 演 者 学 会 名 等	分 名	講演会 地域の先生方と育てる病診連携についてー乾癬を中心にー 山田 秀裕 地域の先生方と育てる病診連携の会 横浜 2023.10.12
区 演 者 学 会 名 等	分 名	講演会 関節リウマチに対する薬物療法の限界と今後の課題 山田 秀裕 RA Expert Meeting in 横浜西部 あざみ野 2023.10.31
区 演 者 学 会 名 等	分 名	講演会 神奈川県リウマチ膠原病対策委員会の活動について 山田 秀裕 内科-整形外科-リウマチ医療連携を考える会～腰痛～ 2023.11.24
区 演 者 学 会 名 等	分 名	講演会 リウマチ包括ケア研究会の趣旨 山田 秀裕 第8回リウマチ包括ケア研究会 オンライン 2023.11.25
区 演 者 学 会 名 等	分 名	学会発表 心筋梗塞と急速進行性糸球体腎炎（RPGN）を呈したANCA陰性の好酸球性多発血管炎性肉芽腫症（EGPA） の1例 岸 健一郎、松下 広美、青木 海斗、先崎 香朱実、児島 希典、 伊東 宏、山田 亘、河合 慧、山田 秀裕 医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ 東京 2023.4.15
区 演 者 学 会 名 等	分 名	学会発表 高齢発症関節リウマチに対する生物学的製剤単独療法の有用性の検討 児島 希典、青木 海斗、松下 広美、伊東 宏、山田 秀裕 第67回日本リウマチ学会 福岡 2023.4.25
区 演 者 学 会 名 等	分 名	学会発表 タンパク漏出性胃腸症を併発したSLEに対してベリムマブが有効であった1例 青木 海斗、児島 希典、伊東 宏、松下 広美、先崎 香朱実、山田 秀裕 第67回日本リウマチ学会 福岡 2023.4.25

区 分	学会発表
演 題 名	高齢発症関節リウマチに対する生物学的抗リウマチ薬の有用性の検討
演者・共同演者	小林 恵、臼田 奈美、山崎 宜興、山田 秀裕
学 会 名 等	第67回日本リウマチ学会 福岡 2023.4.25
区 分	学会発表
演 題 名	症例から学ぶ脊椎関節炎診療
演者・共同演者	山田 秀裕
学 会 名 等	横浜市整形外科医会 横浜 2023.8.24
区 分	学会発表
演 題 名	多量心嚢液貯留による心不全を呈し外科的開窓術による 改善が得られた IgG4 関連心膜炎 の一例
演者・共同演者	長谷川 和喜、河合 慧、仙波 貴之、中島 啓介、乗松 東吾、新村 剛透 芦田 和博、末松 直美、児島 希典
学 会 名 等	日本循環器学会関東甲信越地方会 東京 2024.2.17
心臓血管センター 内科・外科	
区 分	学会発表
演 題 名	座長：PCI Live
演者・共同演者	芦田 和博
学 会 名 等	第5回 Yokohama Live Demonstration 東京 2023.4.22
区 分	講演会
演 題 名	XIENCE の有効性について
演者・共同演者	芦田 和博
学 会 名 等	XIENCE For Japan 講演会 愛知 2023.5.6-9
区 分	学会発表
演 題 名	invited facultyとして参加
演者・共同演者	芦田 和博
学 会 名 等	28th TCTAP 韓国 2023.5.6-9
区 分	学会活動
演 題 名	運営委員会として参加
演者・共同演者	芦田 和博
学 会 名 等	第61回 COIT 関東甲信越地方会 東京 2023.5.13
区 分	学会発表
演 題 名	座長、コメンテーター
演者・共同演者	芦田 和博
学 会 名 等	CTO Club The 23th 名古屋 2023.6.9-10
区 分	学会発表
演 題 名	座長、コメンテーター、パネリスト
演者・共同演者	芦田 和博
学 会 名 等	TOPIC2023学会 東京 2023.7.13-15
区 分	学会発表
演 題 名	座長、コメンテーター
演者・共同演者	芦田 和博
学 会 名 等	第31回日本心臓血管インターベンション治療学会 福岡 2023.8.3-6
区 分	学会発表
演 題 名	座長
演者・共同演者	芦田 和博
学 会 名 等	第62回 CVIT 関東甲信越地方会 東京 2023.10.14
区 分	学会発表
演 題 名	座長
演者・共同演者	芦田 和博
学 会 名 等	CCT2023 兵庫 2023.10.19-21

区 演 者 学 会 名 等	分 題 名 等	学会発表 NSE pre-dilation followed by DCB or Coroflex ISAR NEO stenting up to 2023; with/ without plaque modification for calcified lesion 芦田 和博 11th DCB CLUB SYMPOSIUM 台湾 2023.11.4
区 演 者 学 会 名 等	分 題 名 等	学会発表 座長 芦田 和博 Yokohama CTO Summit II 神奈川 2023.12.1
区 演 者 学 会 名 等	分 題 名 等	学会発表 心不全診療 update～多職種チーム医療の重要性～ 芦田 和博 心不全の薬物療法と心臓リハビリテーションを考える WEB 講演会 オンライン 2023.6.29
区 演 者 学 会 名 等	分 題 名 等	学会発表 高齢者心不全診療を考える～フレイルリスク、心房細動合併 どう立ち向かう？～ 芦田 和博 高齢者 AF トータルケア オンライン 2023.4.20
区 演 者 学 会 名 等	分 題 名 等	学会発表 芦田 和博 Complex PCI最前線における XIENCE™の有用性を再考する XIENCE™ For JAPAN Forum～Complex PCI最前線～ 山梨 2023.4.24
区 演 者 学 会 名 等	分 題 名 等	学会発表 心不全診療を考える～生活習慣病への介入（一次予防）と包括的心臓リハビリ（二次予防）の重要性～ 芦田 和博 Kowa web conference オンライン 2023.6.29
区 演 者 学 会 名 等	分 題 名 等	学会発表 2型糖尿病を有する慢性心不全症例に対する SGLT2阻害薬～高齢者でより安全に用いる為に～ 芦田 和博 デベルザ Web Conference オンライン 2023.9.21
区 演 者 学 会 名 等	分 題 名 等	学会発表 CTO PCI Live Course 芦田 和博 CCT Coronary WebLive2023Yokohama オンライン 2023.7.28
区 演 者 学 会 名 等	分 題 名 等	学会発表 地域で支える心不全診療 弁膜症編～発見・紹介から治療後のリハビリ（心不全予防）まで～ 芦田 和博 保土ヶ谷区循環器疾患Webセミナー 横浜 2023.10.26
区 演 者 学 会 名 等	分 題 名 等	学会発表 広島県心不全地域連携モデルと多職種連携の取り組み 芦田 和博 第4回横浜・川崎心不全医療連携会 横浜 2023.11.24
区 演 者 学 会 名 等	分 題 名 等	学会発表 CTO Live Demonstration Part1 芦田 和博 Yokohama CTO Summit VII 横浜 2023.12.1
区 演 者 学 会 名 等	分 題 名 等	学会発表 高齢者心不全診療を考える～フレイルリスク、心房細動合併とどう立ち向かう～ 芦田 和博 第25回みんなの実践セミナー オンライン 2024.2.14
区 演 者 学 会 名 等	分 題 名 等	学会発表 心不全診療 update～多職種チーム医療の重要性～ 芦田 和博 第2回心不全の薬物療法と心臓リハビリテーションを考える WEB 講演会 オンライン 2024.2.19

● 教育・学術実績 ●

区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会	学会発表 ～今こそ考える Debulking Strategy と OAS の立ち位置～ 芦田 和博 Otsuka Debulking Seminar オンライン 2024.3.12
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会	学会発表 LAD のステント閉塞に対して Agent を使用して治療を行った一例 新村 剛透 ボストンサイエンティフィック社 オンライン 2023.6.19
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会	学会発表 A case of long segment SCAD that fenestration with the cutting balloon was effective 新村 剛透 第31回日本心血管インターベンション治療学会; CVIT 2023 福岡 2023.8.5
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会	学会発表 A case of long segment SCAD that fenestration with the cutting balloon was effective 新村 剛透 Complex Cardiovascular Therapeutics 2023 神戸 2023.10.19
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会	学会発表 急性心筋梗塞の治療時に挿入した IABP バルーンが術後手動的に抜去不能となり、外科的抜去を要した一例 河合 慧 第269回循環器学会関東甲信越地方会 東京 2023.9.2
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会	学会発表 ACS で来院し診断カテーテルで右冠動脈入口部の医原性冠動脈解離を形成するもベイルアウトに成功した 1例 仙波 貴之 第62回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会 東京 2023.10.14
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会	学会発表 ACS で来院し診断カテーテルで右冠動脈入口部の医原性冠動脈解離を形成するもベイルアウトに成功した 1例 仙波 貴之 第270回循環器学会関東甲信越地方会 東京 2023.12.16
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会	学会発表 多量心嚢液貯留による心不全を呈し外科的開窓術による 改善が得られた IgG4 関連心膜炎 の一例 長谷川 和喜 第271回循環器学会関東甲信越地方会 東京 2024.2.17
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会	学会発表 A case of successful recanalization of very late bare metal stent thrombosis implanted in the SVG graft. 長谷川 和喜 第31回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会 東京 2023.18.5
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会	学会発表 A case of successful recanalization of very late bare metal stent thrombosis implanted in the SVG graft. 長谷川 和喜 Complex Cardiovascular Therapeutics 2023 神戸 2023.10.20
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会	学会発表 上部消化管出血に関与していたと思われる非破裂巨大脾動脈瘤の一例 乗松 東吾 第64回日本脈管学会学術総会 横浜 2023.10.26-28.
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会	学会発表 一般演題 心臓血管外科セレクション セッション12 乗松 東吾 第271回日本循環器学会関東甲信越地方会 東京 2024.2.17

外科・消化器外科		
区 分	学会発表	
演 題 名	当院における閉塞性大腸癌症例の検討	
演者・共同演者	青木 優、齋藤 徹、永井 啓之、飯田 文子、横山 元昭、野澤 聡志	
学 会 名 等	第1491回千葉医学会例会 臓器制御外科学教室談話会 千葉 2023.11.26	
区 分	学会発表	
演 題 名	坐骨ヘルニア術後早期に対側の閉鎖孔ヘルニア嵌頓を発症した一例	
演者・共同演者	横山 元昭、青木 優、飯田 文子、齋藤 徹、永井 啓之、野澤 聡志、郷地 英二	
学 会 名 等	第36回日本内視鏡外科学会総会 横浜 2023.12.9	
乳腺センター（乳腺科）		
区 分	学会発表	
演 題 名	乳腺 Tubular carcinoma と Microglandular adenosis を同時に認めた1例	
演者・共同演者	寺尾 まやこ、末松 直美、龍 みなみ、徳田 裕	
学 会 名 等	第31回日本乳癌学会学術総会 横浜 2023.6.29-7.1	
呼吸器外科		
区 分	講演会	
演 題 名	医療安全管理者必見！医療安全教育のための予算確保策を考える	
演者・共同演者	大内 基史	
学 会 名 等	第18回医療の質・安全学会学術集会 神戸 2023.11.25	
区 分	学会発表	
演 題 名	当院における術前CTガイド下マーキングを施行した胸腔鏡下肺切除の経験	
演者・共同演者	竹内 健、小西 建治、大内 基史	
学 会 名 等	第46回日本呼吸器内視鏡学会学術集会 横浜 2023.6.29-30	
区 分	学会発表	
演 題 名	気胸を契機に発見されたびまん性大細胞型B細胞リンパ腫の1例	
演者・共同演者	竹内 健、小西 建治、大内 基史	
学 会 名 等	第46回日本呼吸器内視鏡学会学術集会 横浜 2023.6.29-30	
区 分	学会発表	
演 題 名	難治性肺炎および肺非結核性抗酸菌症の治療中に発見された肺葉内肺分画症合併ALK融合遺伝子陽性肺癌の1例	
演者・共同演者	竹内 健、早川 信崇、大内 基史、末松 直美	
学 会 名 等	第40回日本呼吸器外科学会学術集会 新潟 2023.7.13-14	
区 分	学会発表	
演 題 名	EGFR変異陽性肺腺癌術後再発の治療中に小細胞肺癌が発見された1例	
演者・共同演者	竹内 健、小西 建治	
学 会 名 等	第64回日本肺癌学会学術集会 千葉 2023.11.2-4	
区 分	学会発表	
演 題 名	当院における肺類基底細胞型扁平上皮癌に対する手術症例の検討	
演者・共同演者	竹内 健、小西 建治	
学 会 名 等	第64回日本肺癌学会学術集会 千葉 2023.11.2-4	
整形外科		
区 分	学会発表 一般演題	
演 題 名	増加する脆弱性骨盤骨折 他部位の脆弱性骨折との比較検討	
演者・共同演者	大田 光俊	
学 会 名 等	第65回日本老年医学会学術総会 横浜 2023.6.16-18	
区 分	学会発表 シンポジウム、主題	
演 題 名	骨粗鬆症性椎体骨折に対する単椎間固定術の短期成績	
演者・共同演者	大田 光俊	
学 会 名 等	第13回最小侵襲脊椎治療学会 仙台 2023.6.23-25	
区 分	学会発表 シンポジウム、主題	
演 題 名	脆弱性骨盤骨折のMRI 予後予測 骨折部T2高信号は予後不良である	
演者・共同演者	大田 光俊	
学 会 名 等	第49回日本骨折治療学会 静岡 2023.6.29-7.1	

● 教育・学術実績 ●

区 演 演者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 大田 光俊 第49回日本骨折治療学会 静岡 2023.6.29-7.1
区 演 演者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 iliosacral screw と iliac screw を用いた仙骨骨折の新たな後方固定術 大田 光俊、石川 哲大 第20回日仏整形外科学会 横浜 2023.7.8
区 演 演者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 骨折部のT2強調像高信号は脆弱性仙骨骨折の予後不良因子である 大田 光俊 日本骨粗鬆症学会 名古屋 2023.9.29-10.1
区 演 演者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 骨粗鬆症性脊椎骨折に対するBKP併用単椎間固定術 大田 光俊 関東MIST 東京 2023.10.14
区 演 演者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 骨粗鬆症性脊椎骨折の単椎間後方固定術 大田 光俊 関東MIST 東京 2023.11.24-25
泌尿器科	
区 演 演者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 結節性硬化症診療に対する外用剤の可能性 波多野 孝史 結節性硬化症と皮膚病変を考える会 横浜 2023.4.15
区 演 演者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 結節性硬化症随伴皮膚病変治療の意義と診療連携 波多野 孝史 結節性硬化症診療セミナー 横浜 2023.7.25
区 演 演者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 糖尿病と下部尿路障害について 波多野 孝史 DM-LUTS Seminar 岡山・オンライン 2023.10.26
区 演 演者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 結節性硬化症診療の現在地 波多野 孝史 第110回日本泌尿器科学会総会 兵庫 2023.4.21
区 演 演者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 エベロリムスが腎AMLに果たした役割 波多野 孝史 第10回日本結節性硬化症学会学術総会 香川 2023.9.15
区 演 演者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 結節性硬化症の主治医について 波多野 孝史 TSつばさの会2023 東京 2023.11.23

● 教育・学術実績 ●

麻酔科	
区分	講演会
演題名	外来 在宅 入院をつなぐ緩和ケア外来
演者・共同演者	木下 真弓
学会名等	南区医師会 在宅緩和ケア研修会
区分	学会発表
演題名	ニボルマブ治療後に上顎癌末期と診断され、緩和ケア病棟に入棟後Pseudo-Progressionを生じた1症例
演者・共同演者	木下 真弓、高橋 紗緒梨、佐藤 理恵、桑原 沙代子、春山 直子
学会名等	第28回日本緩和医療学会学術集会 兵庫 2023.6.30-7.1
区分	学会発表
演題名	難渋するがん性疼痛を自覚する終末期若年癌患者の在宅療養に際して硬膜外ポート留置が有効であり、地域の連携により自宅療養が可能であった直腸癌患者の一例
演者・共同演者	木下 紗緒梨、桑原 香折、春山 直子、佐藤 理恵、木下 真弓
学会名等	第28回日本緩和医療学会学術集会 兵庫 2023.6.30-7.1
区分	学会発表
演題名	抗生剤使用時のワーファリンの凝固機能に及ぼす影響について考える
演者・共同演者	佐藤 理恵、黒木 洋子、木下 真弓
学会名等	第5回日本緩和医療学会関東甲信越支部総会学術集会 栃木 2023.10.9
区分	学会発表
演題名	トラマドール・アセトアミノフェン配合錠による薬剤性浮腫が疑われた1例
演者・共同演者	桑原 沙代子、千葉 桃子、木下 真弓
学会名等	第57回日本ペインクリニック学会学術集会 佐賀 2023.7.13-15
小児科	
区分	講演会
演題名	学校保健、食品衛生
演者・共同演者	北村 勝彦
学会名等	横浜市立大学医学部講義 2024年6月
救急科	
区分	講演会
演題名	救急医が実践する漢方治療—救急漢方の確立を目指して—（招聘講師講義）
演者・共同演者	入江 康仁
学会名等	第10回若手医師のための漢方医学セミナー 熊本 2024.2.9-13
区分	講演会
演題名	のぼせ、冷え性、めまい、倦怠感、節々の痛み、あきらめていたその症状に漢方薬はいかがですか？
演者・共同演者	入江 康仁
学会名等	聖隷横浜病院市民公開講座 六ツ川一丁目コミュニティハウス 2023.3.3
区分	学会発表
演題名	マムシ咬傷に対して漢方薬を使用して治療を完結するという選択
演者・共同演者	入江 康仁、中永 士師明
学会名等	第45回日本中毒学会総会・学術集会 埼玉 2023.7.14-15
区分	学会発表
演題名	救急隊搬送時に予期し得なかったクレオソート油による化学性結膜炎の2症例
演者・共同演者	入江 康仁、中永 士師明
学会名等	第45回日本中毒学会総会・学術集会 埼玉 2023.7.14-15
区分	学会発表
演題名	inpyrfluxam含有農薬による自殺患者の臨床経過と課題
演者・共同演者	入江 康仁、中永 士師明
学会名等	第26回日本臨床救急医学会総会・学術集会 東京 2023.7.27-29
区分	学会発表
演題名	くしゃみを契機に腹側に生じた特発性脊髄硬膜外血腫に対して保存的管理を行った1例
演者・共同演者	入江 康仁、粕川 雄司、大谷 隆浩、今野 素子、中永 士師明
学会名等	第51回日本救急医学会総会・学術集会 東京 2023.11.28-30

区分	学会発表
演題名	救急診療における、こんな症例のもう一手に漢方薬の意外な使い方！？
演者・共同演者	入江 康仁, 中永 士師明
学会名等	第73回日本東洋医学会学術総会 福岡 2023.6.16-18
血液浄化センター看護室	
区分	学会発表
演題名	透析時運動指導等加算取得に向けたKST（腎臓サポートチーム）の取り組み
演者・共同演者	腎臓サポートチーム
学会名等	第21回聖隷横浜病院病院学会 横浜 2024.1.13
画像診断・内視鏡センター看護室	
区分	学会発表
演題名	カテーテル検査室スタッフカンファレンスの4年の軌跡
演者・共同演者	刈屋 千春
学会名等	せいれい看護学会
B3病棟	
区分	学会発表
演題名	あの世にお土産は持たせない！緩和ケア病棟における褥瘡発生減少に向けた取り組み
演者・共同演者	菅井 祥子・佐藤 直・武久 美咲
学会名等	第21回聖隷横浜病院病院学会 横浜 2024.1.13
区分	学会発表
演題名	複雑な家族背景をもつがん終末期の家族ケア～家族関係強化への看護実践～
演者・共同演者	大沼 織絵
学会名等	第5回日本緩和医療学会 関東・甲信越支部学術大会 栃木 2023.10.9
西1病棟	
区分	学会発表
演題名	摂食機能療法における病棟リンクナース育成への取り組み
演者・共同演者	黒澤 晶浦、中野 夕子、佐藤 典子
学会名等	第20回聖隷横浜病院病院学会 横浜 2023.2.25
看護管理室	
区分	学会発表
演題名	看護師の認定資格の活用状況と職場における期待～日本運動器看護学会認定運動器看護師を対象とした実態調査～
演者・共同演者	田淵 かおり
学会名等	第23回日本運動器看護学会学術集会 オンライン 2023.6.11
薬剤課	
区分	講演会
演題名	化学療法連携充実加算算定の現状報告
演者・共同演者	小林 茜
学会名等	第6回地域連携勉強会 2023.8
区分	講演会
演題名	骨折の連鎖を防ぐOLSチームでの薬剤師の役割
演者・共同演者	安田 佳世
学会名等	第7回地域連携勉強会 2024.2
区分	学会発表
演題名	当院における特殊抗菌薬適正使用に対する取り組み
演者・共同演者	荒谷 佳子、山下 綾子、野澤 聡志
学会名等	第38回日本環境感染学会総会 横浜 2023.7.20-22
放射線課	
区分	講演会
演題名	解離性ひだり椎骨動脈瘤に対する全身麻酔下ステント併用コイル塞栓術
演者・共同演者	石毛 良一
学会名等	第397回循環器画像技術研究会 東京 2023.7.29

区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 名 者 等	講演会 第7次循環器撮影実態調査班 活動報告 石毛 良一 第403回循環器画像技術研究会 横浜 2024.3.16
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 名 者 等	Web講演会 PrecisImageの理解から活用まで 児山 貴之、鎌田 晃平 Philips CT webセミナー「CTイメージング最前線」 オンライン 2023.9.14
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 名 者 等	学会発表 前大脳動脈に対する3DT1W1矢状断の撮影条件の検討 鈴木 駿太郎、渥美 裕、釜谷 秀美 日本放射線技術学会第79回総会学術大会 横浜 2023.4.13-16
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 名 者 等	学会発表 高度石灰化病変に対するPCIでdebulking device併用有無が患者被ばく線量にどのように影響するかについての検討 一木 俊介、石毛 良一、竹原 英明、新村 剛透、河合 慧、中島 啓介、山田 亘、芦田 和博 第31回日本心血管インターベンション治療学会学術集会 福岡 2023.8.4
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 名 者 等	学会発表 位置合わせの透視時間短縮により得られた骨密度検査の被ばく低減効果について 三枝 あかり、石毛 良一、大楽 知幸、山下 瑞穂、釜谷 秀美 第39回日本診療放射線技師学術大会 熊本 2023.9.29
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 名 者 等	学会発表 コメディカルがカテ室運営に自主的に関わるために企画したカテ室スタッフカンファレンス活動報告 石毛 良一、刈屋 千春、松本 夏奈子、柿崎 祐子、森田 斗南、田中 馨、工藤 直樹、九島 祐樹、花岡 典代、一木 俊介、大楽 知幸、青井 瑞穂、佐々木 亮 第39回日本脳神経血管内治療学会学術集会 京都 2023.11.25
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 名 者 等	学会発表 自施設で脳血管内治療を施行した患者の腎機能と造影剤使用量に関する報告 石毛 良一、一木 俊介、竹原 英明、大楽 知幸、釜谷 秀美、佐々木 亮、青井 瑞穂、鈴木 祥生 第39回日本脳神経血管内治療学会学術集会 京都 2023.11.23
リハビリテーション課		
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 名 者 等	学会発表 ビタミンD欠乏を伴う脆弱性骨盤骨折患者に対しリハビリテーションと並行し活性型ビタミンDを投与した一例 木村 航汰、前田 優、藤森 泰徳、下村 遥奈、大田 光俊 第11回日本運動器理学療法学会学術大会 福岡 2023.10.13-15
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 名 者 等	学会発表 上腕骨遠位端骨折による肘関節可動域制限に対しStatic SplintとDynamic splintを併用した一例 前沢 里奈、前田 優、木村 亮太、木内 均、奥村 修也 第35回日本ハンドセラピィ学会 オンライン 2023.4.17-5.31
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 名 者 等	学会発表 当院の嚥下外来について 提坂 由紀、中野 タ子、前田 広土、瀬尾 暢也、西山 耕一郎 第29回日本摂食嚥下リハビリテーション学会 横浜 2023.9.2-3
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 名 者 等	学会発表 透析中運動療法による身体的・心理的变化-運動習慣を獲得した症例- 長澤 仁志、野田 翔平、渡邊 和美 第14回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会 新潟 2024.3.16-17
区 演 者・共同演者 学 会 名 等	分 名 者 等	学会発表 急性期脳卒中利き手麻痺2事例に対する価値に基づく作業療法実践 -Storke Care Unitでの多職種協業によるホリスティック・アプローチ- 木村 亮太、小林 菜実、中野 タ子、森谷 のり子、青井 瑞穂 第9回日本臨床作業療法学会学術集会 東京 2024.3.9-10

● 教育・学術実績 ●

区 演 演者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 長澤 仁志、野田 翔平、松岡 かおり、門間 亜希子、鈴木 瑠花、渡邊 和美、森田 斗南、青柳 美咲、 細川 由紀、鳥居 麻奈 第21回聖隷横浜病院病院学会 横浜 2024.1.13
区 演 演者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 帰宅願望を強く訴えた心身に多彩な症状を有する脳卒中事例に対する作業療法実践-回復期における作業理論を用いた価値に基づく実践の工夫 山本 力也、木村 亮太、西山 毅志 第9回日本臨床作業療法学会学術集会 東京 2024.3.9-10
区 演 演者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 当院における入棟時運動FIMからみる退院時運動FIMの各項目における自立割合の調査 西山 毅志、木塚 聖太、中井 慎也、長澤 仁志 第43回回復期リハビリテーション研究大会in熊本 熊本 2024.3.8-9
区 演 演者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 重度利き手麻痺事例に対するADL・IADLへのアプローチ -回復期病棟での自宅退院後の生活への汎化に関する取り組み- 大江 珠祐、木村 亮太、酒井 志乃、佐々木 亮 第57回日本作業療法学会 沖縄 2023.11.10-12
区 演 演者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 重度内部障害のある急性期対象者の目標設定における作業療法士の役割 前田 優、友利 幸之助 第9回日本臨床作業療法学会学術集会 東京 2024.3.9-10
区 演 演者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 関節リウマチ性変形性肩関節症事例に対しリバース型人工肩関節置換術を施行した事例 -上肢活動量と関節腫脹・疼痛の変動について- 前田 優、山田 秀裕、佐々木 康人 第38回日本臨床リウマチ学会 福岡 2023.11.18-19
区 演 演者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 橈尺骨骨幹部骨折後、手関節可動域制限を呈した事例への手関節背屈dynamic splintを用いた介入 -就労世代のhome exerciseの検討- 前田 優、大槻 珠子、西岡 晃薫 第57回日本作業療法学会 沖縄 2023.11.10-12
区 演 演者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 脳梗塞後上肢麻痺に対し手指伸展補助テーピングを用いた介入 前田 優、田中 和哉 第4回聖隷リハビリテーション学会
区 演 演者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 リバース型人工肩関節置換術を施行した関節リウマチ性変形性肩関節症事例のリハビリテーション 前田 優、山田 秀裕、佐々木 康人 第4回聖隷リハビリテーション学会
区 演 演者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 後方除圧固定術後、嚥下障害を呈した1例 瀬尾 暢哉 第5回聖隷リハビリテーション学会
臨床工学室	
区 演 演者・共同演者 学 会 名 等	分 題 名 保存期患者へのシャント管理介入を開始して 境野 可奈子、工藤 直樹、森田 斗南 第33回日本臨床工学会 広島 2023.7.21-23

● 教育・学術実績 ●

区 演 演者・共同演者 学 会 名 等	分 名 田中 馨 第39回日本脳神経血管内治療学会 京都 2023.11.23-25
区 演 演者・共同演者 学 会 名 等	分 名 森田 斗南 第39回日本脳神経血管内治療学会 京都 2023.11.23-25
区 演 演者・共同演者 学 会 名 等	分 名 山内 寛二 第62回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会 東京 2023.10.14

## 2023年度 学術業績 その他（院外活動など）

アレルギー内科	
区分	その他（院外活動等）：学会活動
学会名	日本アレルギー学会 代議員 国際喘息学会日本・北アジア部会 評議員 日本職業・環境アレルギー学会 評議員 日本咳嗽学会 評議員 日本温泉気候物理医学会 評議員
研究会名	臨床アレルギー研究会 幹事 西横浜喘息・COPD 懇話会 発起人 DMU-K 総合臨床懇話会 事務局長
治験・研究調査協力	日本咳嗽学会からの研究調査「難治性慢性咳嗽例に対する gefapixant の使用実態」 ツムラ株式会社「補中益気湯市販後調査」 消費者庁「即時型食物アレルギーによる健康被害に関する全国実態調査」 NPO法人札幌せき・ぜんそく・アレルギーセンターから依頼「喘息患者の症状アンケート」
膠原病・リウマチ内科	
区分	その他（院外活動など）
演題名	病態治療論V（免疫）
演者・共同演者	松下 広美
学会名等	聖灯看護専門学校 講義 2023.4
心臓血管センター内科・外科	
区分	その他（院外活動等）
演題名	横浜市医師会聖灯看護専門学校非常勤講師
演者・共同演者	芦田 和博
学会名等	
区分	研究会
演題名	研究発表
演者・共同演者	芦田 和博
学会名等	第41回並木ハート研究会 東京 2024.1.20
区分	その他（院外活動等）
演題名	PCIコメンテーター
演者・共同演者	芦田 和博
学会名等	中国四国ライブin倉敷2024 岡山 2024.2.23-24
区分	その他（院外活動等）
演題名	インドの3施設でPCIを施行
演者・共同演者	芦田 和博
学会名等	PCI臨床ワークショップinインド 2024.2.25-3.1
区分	その他（院外活動等）
演題名	PCI院内Live
演者・共同演者	芦田 和博
学会名等	牧港中央病院 PCI院内Live 神奈川 2024.3.29-30
区分	講演会
演題名	特別講演
演者・共同演者	芦田 和博
学会名等	製造承認記念講演会 in Yokohama
区分	研究会
演題名	B型大動脈解離に対する緊急血管内治療
演者・共同演者	乗松 東吾
学会名等	心臓血管外科グループミーティング 2023.7.22
区分	研究会
演題名	distal bypass 研究
演者・共同演者	乗松 東吾
学会名等	distal bypass 研究会 2023.10.27

外科・消化器外科	
区 分	その他（院外活動等）
演 題 名	横浜市医師会聖灯看護専門学校非常勤講師
演者・共同演者	野澤 聡志
学 会 名 等	
泌尿器科	
区 分	その他（院外活動等）
演 題 名	丈夫で長生き 排尿からみた長寿の秘訣
演者・共同演者	波多野 孝史
学 会 名 等	横浜市民公開講座 オンライン 2023.4.25
区 分	その他（院外活動等）
演 題 名	排尿から考える健康長寿の秘訣
演者・共同演者	波多野 孝史
学 会 名 等	横浜市民健康講話 2023.7.7
麻酔科	
区 分	その他（院外活動等）
演 題 名	ペインクリニック治療指針改訂第7版
演者・共同演者	桑原 沙代子
学 会 名 等	日本ペインクリニック学会 2023年6月刊行
小児科	
区 分	地域保健参加
演 題 名	横浜市における感染症動向の疫学的考察
演者・共同演者	北村 勝彦、吉村 幸浩
学 会 名 等	横浜市感染症動向委員会 委員
救急科	
区 分	その他（院外活動等）
演 題 名	救急漢方について
演者・共同演者	入江 康仁
学 会 名 等	クラシエ薬品(株) 社内研修会
区 分	その他（院外活動等）
演 題 名	当院の創傷・熱傷治療について
演者・共同演者	入江 康仁
学 会 名 等	救急セミナー
病理診断科	
区 分	リモート講義
演 題 名	病院における病理診断科の業務と役割
演者・共同演者	末松 直美
学 会 名 等	日本大学医学部 病態病理学系 腫瘍病理学分野
区 分	リモートカンファ
演 題 名	大腸内視鏡診断の症例検討
演者・共同演者	末松 直美
学 会 名 等	医療法人芍薬会 灰本クリニック
看護管理室	
区 分	その他（院外活動等）講師
演 題 名	神奈川県立保健福祉大学実践教育センター
演者・共同演者	兼子 友里
学 会 名 等	認定看護管理者教育課程ファーストレベル統合演習Ⅰ 2023年10月～2024年1月（5日程）
区 分	その他（院外活動等）講師
演 題 名	神奈川県立保健福祉大学実践教育センター
演者・共同演者	山下 綾子
学 会 名 等	感染管理認定看護師教育課程感染管理学 2023年9月

● 教育・学術実績 ●

区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会 会	その他（院外活動等）座談会 明日の友264号 根岸 恵 自分らしい最後のために延命治療を考える 6月発売
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会 会	その他（院外活動等）講師 社会医療法人三栄会 中央林間病院 坂田 稔 人工呼吸療法安全管理 2023年5月
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会 会	その他（院外活動等）アドバイザー 第25回神奈川看護学会 根岸 恵 演題登録支援アドバイザー 2023年6月
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会 会	その他（院外活動等）座長 第23回日本運動器看護学会学術集会 田淵 かおり 歩くことを大切にすると看護をリードしよう 2023年6月
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会 会	その他（院外活動等）講師 社会医療法人三栄会 中央林間病院 新城 佑樹 せん妄患者の看護～看護の力で防ぐ適正な関わり方～2023年9月
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会 会	その他（院外活動等）講師 神奈川県立保健福祉大学実践教育センター 根岸 恵 令和5年度がん患者支援講座 2023年9月
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会 会	その他（院外活動等）座長 第14回せいい看護学会学術集会 中村 真弓 異業種コラボレーションと私たちの看護の未来 2023年9月
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会 会	その他（院外活動等）研修参加 保土ヶ谷区福祉保健課 山下 綾子 令和5年度感染症対策指導者養成研修 2023年10月
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会 会	その他（院外活動等）講師 神奈川県医療福祉施設協同組合 新城 佑樹 認知症患者のかかわり方とコツ 2023年10月
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会 会	その他（院外活動等）講師 一般社団法人TMG本部 根岸 恵 活用できるACP 2023年10月
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会 会	その他（院外活動等）ファシリテーター 公益社団法人横浜市病院協会 新城 佑樹 看護職員認知症対応力向上研修 2023年11月
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会 会	その他（院外活動等）講師 公益社団法人神奈川県看護協会 根岸 恵 地域でACPを活用しよう～病院と地域をつなぐ取り組み～ 2023年12月
区 演 演者・共同演者 学 学 学	分 題 者 会 会 会	その他（院外活動等）演習支援者 公益社団法人日本看護協会 坂田 稔 2023年度特定行為研修指導者講習会 zoom を用いたリアルタイム研修 2023年7月・9月・12月

● 教育・学術実績 ●

区 演 演者・共同演者 学 学 会 会 名 名 等 等	分 題 名 名 等 等	その他（院外活動等）講師 昭和大学認定看護師教育センター 渡邊 怜治 手術看護技術1 2024/1
区 演 演者・共同演者 学 学 会 会 名 名 等 等	分 題 名 名 等 等	その他（院外活動等）講師 公益社団法人神奈川県看護協会 田淵かおり 教育担当者研修Ⅱ～院内の教育を考えよう！教育プログラムの立案・運営・評価～ 2024年2月
区 演 演者・共同演者 学 学 会 会 名 名 等 等	分 題 名 名 等 等	その他（院外活動等）講師 一般社団法人戸塚区医師会 令和5年度在宅緩和ケア対策推進事業 根岸 恵 慢性腎不全患者の緩和ケアと意思決定支援
区 演 演者・共同演者 学 学 会 会 名 名 等 等	分 題 名 名 等 等	その他（院外活動等）講師 一般社団法人集中治療医療安全協議会 坂田 稔 米国集中治療医学会FCCS2月川崎コース 2024年2月
区 演 演者・共同演者 学 学 会 会 名 名 等 等	分 題 名 名 等 等	その他（院外活動等）スタッフ派遣 一般社団法人集中治療医療安全協議会 坂田 稔 米国集中治療医学会FCCS3月オンラインコース 2024年3月
薬剤課		
区 演 演者・共同演者 学 学 会 会 名 名 等 等	分 題 名 名 等 等	その他（院外活動等） 抗MRSA薬でアレルギー！抗菌薬をどう選ぶ？ 荒谷 佳子、本田 勝亮 日経DIコラム 抗菌薬はAST専従薬剤師にお任せを 2023.12.25
放射線課		
区 演 演者・共同演者 学 学 会 会 名 名 等 等	分 題 名 名 等 等	その他（院外活動等） 大島先生の心電図講座 石毛 良一 Tokyo Percutaneous cardiovascular Intervention Conference (TOPIC) 2023 東京 2023.7.13
区 演 演者・共同演者 学 学 会 会 名 名 等 等	分 題 名 名 等 等	その他（院外活動等） コメディカルケースセッション診療放射線技師 審査員 石毛 良一 Tokyo Percutaneous cardiovascular Intervention Conference (TOPIC) 2023 東京 2023.7.12
区 演 演者・共同演者 学 学 会 会 名 名 等 等	分 題 名 名 等 等	その他（院外活動等） 司会 石毛 良一 第397回循環器画像技術研究会 東京 2023.7.29
区 演 演者・共同演者 学 学 会 会 名 名 等 等	分 題 名 名 等 等	その他（院外活動等） 座長 渥美 裕 第20回神奈川放射線学術大会 横浜 2024.2.25
区 演 演者・共同演者 学 学 会 会 名 名 等 等	分 題 名 名 等 等	その他（院外活動等） 幹事（学術担当） 石毛 良一 循環器画像技術研究会
区 演 演者・共同演者 学 学 会 会 名 名 等 等	分 題 名 名 等 等	その他（院外活動等） 班長 石毛 良一 第7次循環器撮影実態調査班

区分	その他（院外活動等）
演題名	
演者・共同演者	石毛 良一
学会名等	Tokyo Percutaneous cardiovascular Intervention Conference (TOPIC) 2023 東京 2023.7.12-13
区分	その他（院外活動等）
演題名	幹事
演者・共同演者	石毛 良一
学会名等	PRESSING 研究会
区分	その他（院外活動等）
演題名	世話人
演者・共同演者	児山 貴之
学会名等	Brilliance Kanto Alliance
リハビリテーション課	
区分	その他（院外活動等）
演題名	STによる嚥下リハビリテーション
演者・共同演者	提坂 由紀
学会名等	第33回神奈川嚥下研究会
区分	その他（院外活動等）
演題名	座長
演者・共同演者	木村 亮太
学会名等	神奈川県作業療法士会主催 現職者共通研修「事例報告」
区分	その他（院外活動等）
演題名	食事②-舐摂行為について-
演者・共同演者	木村 亮太、佐藤 靖伸
学会名等	第35回活動分析研究大会 実技演題・講演
区分	その他（院外活動等）
演題名	活動分析アプローチ概論
演者・共同演者	木村 亮太
学会名等	神奈川県活動分析研究会
区分	その他（院外活動等）
演題名	「手応えがない」から「箸先からの感触を掴んだ！」-箸操作獲得に向けて食材の段階付けによる知覚探索アプローチ-
演者・共同演者	中村 瑞紀、木村 亮太
学会名等	神奈川県活動分析研究会 大会2023年度
臨床工学室	
区分	その他（院外活動等）
演題名	血液浄化エキスパート委員長
演者・共同演者	物江 浩樹
学会名等	神奈川県臨床工学技士会
区分	その他（院外活動等）
演題名	災害対策委員
演者・共同演者	境野 可奈子
学会名等	神奈川県臨床工学技士会

## 2023年度 学術業績 著書論文

膠原病・リウマチ内科	
区分	著書論文+A3:B33A3:B36A3:B3A3:B94
演題名	Polyarteritis nodosa
演者・共同演者	Kaito Aoki, Marenori Kojima
学会名等	N Engl J Med. 2024 May 9;390 (18) :1711.
区分	著書論文
演題名	Successful treatment of lupus protein-losing enteropathy with belimumab: A case report
演者・共同演者	Marenori Kojima, Hironari Hanaoka, Kaito Aoki, Hiromi Matsushita, Hiroshi Ito and Hidehiro Yamada
学会名等	Modern Rheumatol Case Rep 2024 Jul 8;8 (2) :264-266.
区分	著書論文
演題名	Dynamic aortic changes during the cardiac cycle in patients with aortic valve disease analyzed by computed tomography combined with PhyZiodynamics software
演者・共同演者	Norimatsu T, Iguchi N, Isobe M
学会名等	Int J Cardiovasc Imaging. 2023 Oct;39 (10) :2073-2082.
区分	著書論文
演題名	Anatomical cardiac and electrocardiographic axes correlate in both upright and supine positions: an upright/supine CT study
演者・共同演者	Norimatsu T, Nakahara T, Yamada Y, Yokoyama Y, Yamada M, Narita K, Jinzaki M
学会名等	Sci Rep. 2023 Oct 24;13 (1) :18170
区分	著書論文
演題名	Remote Cardiac Rehabilitation With Wearable Devices
演者・共同演者	Nakayama A, Ishii N, Mantani M, Samukawa K, Tsuneta R, Marukawa M, Ohno K, Yoshida A, Hasegawa E, Sakamoto J, Hori K, Takahashi S, Komuro K, Hiruma T, Abe R, Norimatsu T, Shimbo M, Tajima M, Nagasaki M, Kawahara T, Nanasato M, Ikemage T, Isobe M
学会名等	Korean Circ J. 2023 Nov;53 (11) :727-743
区分	著書論文
演題名	【多様性に配慮した循環器診療ガイドライン】
演者・共同演者	乗松 東吾
学会名等	日本循環器学会 2024年改訂版
乳腺センター（乳腺科）	
区分	著書論文
演題名	Phase II trial of biweekly administration with eribulin after three cycles of induction therapy in hormone receptor-positive,HER2-negative metastatic breast cancer (JACCRO BC-03) .
演者・共同演者	Kokoro Kobayashi・Norikazu Masuda・Toshiro Mizuno・Kayo Miura・Yutaka Tokuda・Tetsuhiro Yoshinami・Hidetoshi Kawaguchi・Shoichiro Ohtani・Toshiaki Saeki・Masakazu Toi・Masahiro Takeuchi・Yoshinori Ito
学会名等	Breast Cancer Research and Treatment (2023) <a href="https://doi.org/10.1007/s10549-023-07030-x">https://doi.org/10.1007/s10549-023-07030-x</a> .
区分	著書論文
演題名	今日の治療指針 2023年版 乳腺症
演者・共同演者	徳田 裕
学会名等	医学書院
呼吸器外科	
区分	原著論文
演題名	肺癌術後多発脳転移に対してオシメルチニブが奏効し長期生存した高齢者腺癌の1例
演者・共同演者	竹内 健、早川 信崇、大内 基史
学会名等	癌と化学療法 (0385-0684) 50巻5号 Page631-633 (2023.05)
区分	原著論文
演題名	Aspergillus感染と動脈瘤化した異常動脈を伴った肺葉内肺分画症の1例
演者・共同演者	竹内 健、早川 信崇、大内 基史、末松 直美
学会名等	胸部外科 (0021-5252) 76巻2号 Page172-175 (2023.02)

泌尿器科	
区分	著書論文
演題名	Clinical Practice Guidelines for tuberous sclerosis complex - associated renal angiomyolipoma
演者・共同演者	Takahiro Osawa, Mototsugu Oya, Takashi Hatano et al.
学会名等	International Journal of Urolog 2023; 45: 1322-1333.
区分	著書
演題名	突然破裂する腎臓の怖い病気 腎血管筋脂肪腫 第2版
演者・共同演者	波多野 孝史
学会名等	グイーツーソリューション 2023.7.29出版
区分	著書
演題名	丈夫で長生き 排尿から考える長寿の秘訣
演者・共同演者	波多野 孝史
学会名等	グイーツーソリューション 2023.12.2出版
麻酔科	
区分	著書論文
演題名	デスノマブ投与による骨吸収抑制薬関連壊死のため上顎骨の広範囲にわたる脱落を来した乳癌患者の1例
演者・共同演者	木下 紗緒梨、佐藤 理恵、木下 真弓
学会名等	がんと化学療法50 (7) 829-831、2023
救急科	
区分	著書論文
演題名	「救急医学」2023年12月号 市中肺炎治療にもう一手！漢方薬治療のインパクト！
演者・共同演者	入江 康仁
学会名等	へるす出版 2023.12.13出版
看護管理室	
区分	著書論文
演題名	透析ケア第29巻5号 新人ナース応援号！透析業務1日まるごとガイド後編
演者・共同演者	渡邊 和美
学会名等	メディカ出版 2023.4.12出版
区分	著書論文
演題名	明日の友264号初夏 本人と家族の願いを支える
演者・共同演者	根岸 恵、朝比奈 完、工藤 明子
学会名等	婦人之友社 2023.6.5出版
放射線課	
区分	著書論文
演題名	脳血管内治療8巻1号 カテーテル手技を予定している患者の胸部単純CT画像を用いた大動脈弓部3D画像支援の検討
演者・共同演者	石毛 良一、佐々木 亮、青井 瑞穂、荒木 孝太、鈴木 祥生
学会名等	日本脳神経血管内治療学会 2023.6
区分	MISC (教育要旨)
演題名	Zio stationとXtravisionによるIVR頭頸部領域画像支援の一例
演者・共同演者	石毛 良一
学会名等	循環器画像技術研究 No.42-1
臨床工学室	
区分	著書論文
演題名	Clinical Engineering Vol.35No.4 人工呼吸器管理で役立つメカニカルサポート
演者・共同演者	森田 斗南
学会名等	秀潤社 2024.3.26出版

## 第21回 聖隷横浜病院 病院学会

開催日：2024年1月13日（土） 場 所：聖隷横浜病院 A棟4階大会議室

### 第1群（座長：事務長室 次長 岡本 直純）

1	クイックセルバッチ未返却数減少への取り組み	放射線課	大楽 知幸
2	マンモグラフィ検査における圧迫圧低減の取り組み-痛くないマンモグラフィを目指して	放射線課	山下 瑞穂
3	紹介状即日返書の徹底と効果-変革推進の軌跡-	地域連携・患者支援センター	柳田 悠太
4	電気料金高騰を見据えた省エネ化への取り組み	施設資材管理課	西尾 友貴
5	胆管癌・膵転移に伴い1型糖尿病を発症した事例のACP・目標設定における作業療法の役割 -作業経験を通し医療と意思決定を繋げる-	リハビリテーション課	前田 優
6	あの世にお土産は持たせない！ 緩和ケア病棟における褥瘡発生減少に向けた取り組み	B3病棟	菅井 祥子

### 第2群（座長：B3病棟 課長 小林 明日香）

7	透析時運動指導等加算取得に向けたKST（腎臓サポートチーム）の取り組み	腎臓サポートチーム	長澤 仁志
8	多職種での歩行自立にむけた新しい取り組み -患者に安全で安心な病棟生活を過ごしてもらおう-	東1病棟	近藤 絢子
9	乳腺科専門病棟における看護師育成の現状と今後の課題	東2病棟	高橋 美生
10	排尿ケアチームの活動の実際とその効果について -チームで取り組む排尿ケアへの挑戦-	排尿ケアチーム	今村 梨沙
11	一般病棟で非がん患者の看取りをした看護師たちの思い -デスカンファレンスを通して	西3病棟	春日 賀南子
12	完全房室ブロックを伴う心臓サルコイドーシスに対して メトトレキサート、ステロイドパルス療法が奏効し、恒久的ペースメーカーを回避できた一例	臨床研修室	笠間 武瑠

「2023年度 聖隷横浜病院 年報」 第17号 2024年12月1日

〒240-8521 神奈川県横浜市保土ヶ谷区岩井町125  
TEL：045-715-3111（代表） FAX：045-715-3387  
URL：https://www.seirei.or.jp/yokohama/  
●発行者 大内 基史 ●編集責任 広報委員会

